

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考																																										
<p>2. 工事の計画の認可及び届出及び認可手続の範囲 (2) 工事計画に記載すべき設備及び機器等の範囲 工事計画に記載しなければならない事項は、規則第9条第2項又は第12条第2項で発電用原子炉施設の種別に応じて規則別表第2の中欄で定めるものとされており、規則別表第2の中欄において、設備ごとにさらに機器等の単位で記載要求事項を定めている。この規則別表第2に規定されている記載要求事項については、少なくとも技術基準規則への適合性を示す上で必要十分な内容が記載される必要があり、以下では、規則別表第1における設備及び機器等の規定も含めて、機器等の仕様に関する記載要求範囲と設備及び機器等の記載要求範囲に分けて示す。</p>	<p>2 設工認申請における仕様表の作成要領</p> <p>1. 目的 仕様を記載する設備について、記載の統一及び一貫性を図ることを目的として仕様表の作成要領を策定する。</p> <p>2. 具体的な仕様表の作成方法</p> <p>2.1 資料構成</p> <p>(1) 仕様表の資料構成は以下とする。</p> <p>a. 申請対象設備については、「使用済燃料の再処理の事業に関する規則」第二条、「核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物の廃棄物管理の事業に関する規則」第四条及び「核燃料物質の加工の事業に関する規則」第三条の二の二に記載の施設区分と同じ順番に記載する。以下に施設区分を示す。</p> <p>なお、以下に示す施設区分のうち、その他再処理設備の附属施設、その他廃棄物管理設備の附属施設及び、その他加工施設などの詳細な施設区分については、事業指定申請書または事業変更許可申請書に記載の施設区分と同じ順番に記載する。</p> <table border="1" data-bbox="973 1325 1700 1864"> <thead> <tr> <th>再処理施設</th> <th>廃棄物管理施設</th> <th>加工施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イ. 使用済燃料の受入施設及び貯蔵施設</td> <td>イ. 廃棄物管理設備本体</td> <td>ロ. 濃縮施設</td> </tr> <tr> <td>ロ. 再処理設備本体</td> <td>(1) 管理施設</td> <td>ハ. 成形施設</td> </tr> <tr> <td>(1) せん断処理施設</td> <td>ロ. 放射性廃棄物の受入施設</td> <td>ニ. 被覆施設</td> </tr> <tr> <td>(2) 溶解施設</td> <td>ハ. 計測制御系統施設</td> <td>ホ. 組立施設</td> </tr> <tr> <td>(3) 分離施設</td> <td>ニ. 放射線管理施設</td> <td>ヘ. 核燃料物質の貯蔵施設</td> </tr> <tr> <td>(4) 精製施設</td> <td>ホ. その他廃棄物管理設備の附属施設</td> <td>ト. 放射性廃棄物の廃棄施設</td> </tr> <tr> <td>(5) 脱硝施設</td> <td></td> <td>チ. 放射線管理施設</td> </tr> <tr> <td>(6) 酸及び溶媒の回収施設</td> <td></td> <td>リ. その他の加工施設</td> </tr> <tr> <td>ハ. 製品貯蔵施設</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ニ. 計測制御系統施設</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホ. 放射性廃棄物の廃棄施設</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヘ. 放射線管理施設</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ト. その他再処理設備の附属施設</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	再処理施設	廃棄物管理施設	加工施設	イ. 使用済燃料の受入施設及び貯蔵施設	イ. 廃棄物管理設備本体	ロ. 濃縮施設	ロ. 再処理設備本体	(1) 管理施設	ハ. 成形施設	(1) せん断処理施設	ロ. 放射性廃棄物の受入施設	ニ. 被覆施設	(2) 溶解施設	ハ. 計測制御系統施設	ホ. 組立施設	(3) 分離施設	ニ. 放射線管理施設	ヘ. 核燃料物質の貯蔵施設	(4) 精製施設	ホ. その他廃棄物管理設備の附属施設	ト. 放射性廃棄物の廃棄施設	(5) 脱硝施設		チ. 放射線管理施設	(6) 酸及び溶媒の回収施設		リ. その他の加工施設	ハ. 製品貯蔵施設			ニ. 計測制御系統施設			ホ. 放射性廃棄物の廃棄施設			ヘ. 放射線管理施設			ト. その他再処理設備の附属施設			<p>2 工事計画認可申請における要目表の作成要領</p> <p>1. 目的 新規制基準対応設備のうち別表第二において設備別記載事項を記載する設備について、記載の統一及び一貫性を図ることを目的として要目表の作成要領を策定する。 なお、記載例については、別紙1に示す。</p> <p>2. 具体的な要目表の作成方法</p> <p>2.1 資料構成</p> <p>(1) 要目表の資料構成は以下とする。</p> <p>a. 申請対象設備については、別表第二の記載順に記載する。</p>	<p>・別表第二はないため、記載順を明確化。</p>
再処理施設	廃棄物管理施設	加工施設																																											
イ. 使用済燃料の受入施設及び貯蔵施設	イ. 廃棄物管理設備本体	ロ. 濃縮施設																																											
ロ. 再処理設備本体	(1) 管理施設	ハ. 成形施設																																											
(1) せん断処理施設	ロ. 放射性廃棄物の受入施設	ニ. 被覆施設																																											
(2) 溶解施設	ハ. 計測制御系統施設	ホ. 組立施設																																											
(3) 分離施設	ニ. 放射線管理施設	ヘ. 核燃料物質の貯蔵施設																																											
(4) 精製施設	ホ. その他廃棄物管理設備の附属施設	ト. 放射性廃棄物の廃棄施設																																											
(5) 脱硝施設		チ. 放射線管理施設																																											
(6) 酸及び溶媒の回収施設		リ. その他の加工施設																																											
ハ. 製品貯蔵施設																																													
ニ. 計測制御系統施設																																													
ホ. 放射性廃棄物の廃棄施設																																													
ヘ. 放射線管理施設																																													
ト. その他再処理設備の附属施設																																													

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>b. 仕様表記載対象設備は「申請範囲」※1により対象設備を明確化する。</p> <p>c. 仕様表は、1 設備につき 1 件とし、複数の設備（系統）区分※2の機能を有する設備であっても仕様表は 1 件とする。</p> <p>ただし、A系/B系、第1/第2のように同一仕様の設備の場合は、仕様表を一つに纏めてもよい。</p> <p>※1：今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「申請範囲」に手続き対象外である旨を記載する。 (例) ○○ポンプ（手続き対象外）</p> <p>※2：設備（系統）区分の記載について、設備名のみで対象が自明の場合は系統名を記載しなくても良い。 (以下、各章においても同様。)</p> <p>2.2 仕様表の記載項目 仕様表の記載項目については、技術基準要求に対してどのような設計仕様であるかを示す。また、以降に記載する内容を踏まえ、機器分類ごとの基本的な仕様表記載項目を添付-1に示す。</p> <p>(1) 仕様表へ記載する項目、内容</p> <p>a. 名称 機器等を識別するため、機器等の名称を記載する。</p> <p>b. 種類（形式） 機器等の種類を示すため、形状や機能より分類した種類を記載する。分類及び記載内容の例を以下に示す。</p> <p>(a) 円筒形容器の基本型式は、たて、横の置き方と円筒形の組合せとする。 (記載例) たて置円筒形、横置円筒形</p> <p>(b) 伝熱管を有する熱交換器は、たて、横の置き方とU字管、直管等の管形状の組合せとする。 (記載例) たて置直管式、横置U字管式</p>	<p>b. 要目表記載対象設備は「申請範囲」※1により対象設備を明確化する。</p> <p>c. 要目表は、1 設備につき 1 件とし、複数の設備（系統）区分※2の機能を有する設備であっても要目表は 1 件とする。</p> <p>※1：今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「申請範囲」に手続き対象外である旨を記載する。 (例) ○○ポンプ（手続き対象外）</p> <p>※2：設備（系統）区分の記載について、設備名のみで対象が自明の場合は系統名を記載しなくても良い。(以下、各章においても同様。)</p>	<p>・仕様表の合理化のため、追記。</p> <p>・仕様表に記載する項目及び内容を追加。</p> <p>・添付-1については、再処理施設及び廃棄物管理施設を例に作成。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>A. 容量又は注入速度及び揚程又は吐出圧力</p> <p>通常運転時、設計基準事故時又は重大事故時等の対応に必要な性能が異なる場合には、要求される性能を列記する必要があり、容量又は注入速度及び揚程又は吐出圧力の対応関係が分かるように記載することとする。</p> <p>C. 加熱面積及び伝熱面積</p> <p>熱の伝達性能を表す必要があり、加熱及び伝熱に有効な面積を記載することとする。その際、有効な面積の算出に必要な情報については、構造図にて図示することとする。</p>	<p>(c) ポンプ (取り扱う流体が液体) は、回転式の場合 はうず巻形、ターボ形、往復式の場合は往復形とする。</p> <p>(d) 圧縮機又は真空ポンプ (取り扱う流体が気体) は、往復式又は回転式とする。</p> <p>c. 設計条件</p> <p>(a) 流体の種類</p> <p>機器等で取扱う流体を示すため、流体の種類を記載する。設備の構造上、複数の流体を記載する必要がある場合は、区別して記載する。</p> <p>(b) 設計能力 (容量, 揚程, 加熱面積, 伝熱面積, 吐出圧力, 計測範囲, 除去効率等)</p> <p>技術基準の要求事項を満足するために必要な機能 (設計能力) を示す項目として記載する。</p> <p>ポンプ等の容量及び揚程又は吐出圧力を表す必要がある機器において、通常運転時、設計基準事故時又は重大事故時等の対応に必要な性能が異なる場合には、それらの対応関係がわかるように記載することとする。</p> <p>また、熱の伝達性能を表す必要がある機器の場合には、伝熱に有効な面積を記載することとする。その際、有効な面積の算出に必要な情報については、構造図にて図示することとする。</p> <p>記載する能力とその項目の例を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器では貯留能力を示すほか、しゃへいや火災等による損傷の防止の評価に使用する主要条件であることから容量を記載する。 ・ 熱交換器類については、設備に応じて設計熱交換量、設計燃焼熱量を記載する。 ・ 装置類及び廃ガス処理設備等は、設備の処理能力を記載する。 ・ サーモサイフォン型蒸発缶 (加熱部) は貯留能力に加えて、処理容量及び設計熱交換量を記載する。サーモサイフォン型蒸発缶 (気液分離部) 及びジャケット型蒸発缶は、設計蒸発量を記載する。 ・ ポンプ類は、型式に応じて容量又は揚程を定格値として記載する。 		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>B. 最高使用圧力、最高使用温度</p> <p>重大事故等対処設備については、重大事故等時における使用圧力以上の圧力又は使用温度以上の温度であって、設計上定めるもの（以下「重大事故等時における圧力又は温度」という。）を記載することとする。</p> <p>また、設計基準対象施設を重大事故等対処施設として使用する場合で、重大事故等時における圧力又は温度が、設計基準対象施設としての最高使用圧力又は最高使用温度を超える場合は、その対応関係が分かるように記載することとする。</p>	<p>(c) 最高使用圧力、最高使用温度</p> <p>機器等の強度評価に用いる等、設計条件の主要項目である最高使用温度、最高使用圧力を記載する。</p> <p>重大事故等対処設備については、重大事故等時における使用圧力以上の圧力又は使用温度以上の温度であって、設計上定めるもの（以下、「重大事故等時における圧力または温度」という。）を記載することとする。</p> <p>ただし、水素爆発及び TBP 等の錯体による急激な分解反応のように瞬間的な衝撃によって生じさせる圧力、温度については、計算書にて影響評価を行う。</p> <p>また、設計基準対象施設を重大事故等対処施設として使用する場合で、重大事故等時における圧力又は温度が、設計基準対象施設としての最高使用圧力または使用温度を超える場合は、その対応関係が分かるように記載することとする。</p> <p>なお、再処理施設、加工施設は、仕様表作成対象のうち、以下の対象について、耐圧強度評価を行い、最高使用圧力及び最高使用温度を記載することとする。</p> <p>また、各設備において、内圧及び外圧の両方が発生するときは、両方の値を記載し、内圧及び外圧の別が分かるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業指定申請書で安全上重要な施設として定めたもの（容器及び管並びにこれらを支持する構造物） ・再処理第 1 種機器～第 5 種機器に属するもの ・加工第 1 種機器～第 3 種機器に属するもの ・放射性物質を内包し、内容積が 10m³以上の容器 ・ウラン又はウランの化合物をウラン量で 500 k g 以上内包する容器 ・海洋放出管理系に属するもの 		<p>・重大事故時の最高使用温度、最高使用圧力の扱いについて、別添 1 に示す。</p> <p>・赤枠箇所については、耐圧強度評価の対象の説明であるため、「添付書類の考え方」へ記載を移動する。</p> <p>再処理施設における、耐圧強度評価を行う対象の考え方を別添 2 に示す。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手順ガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考																																					
	<p>(d) 臨界管理 臨界安全管理対象の機器は、核燃料物質が臨界に達するおそれがないようにするための管理方法を記載する。臨界安全管理の管理方法である全濃度安全形状寸法管理（または形状寸法管理）、濃度管理、質量管理等を記載する。</p> <p>(e) 核的制限値 核燃料物質が臨界に達するおそれがないよう、単一ユニットとしては、設備の形状寸法、核燃料物質の濃度、質量若しくは同位体の組成の管理若しくは中性子吸収材の形状寸法、濃度若しくは材質の管理又はこれらの組合せ、複数ユニットとしては、単一ユニット相互間の最小距離等により臨界を防止するための措置における管理値を核的制限値として記載する。</p> <p>(記載例1) ・通常の記載</p> <table border="1" data-bbox="1003 1129 1700 1314"> <tr> <td colspan="3">名称</td> <td colspan="2">〇〇槽</td> </tr> <tr> <td colspan="3">臨界管理</td> <td colspan="2">形状寸法管理</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">核的制限値</td> <td>最大内径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>面間最小距離</td> <td>槽間 mm</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> </table> <p>(記載例2) ・複数の臨界管理方法が適用される機器は以下の記載としてもよい。</p> <table border="1" data-bbox="1003 1493 1700 1770"> <tr> <td colspan="3">名称</td> <td colspan="2">〇〇槽</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">臨界管理</td> <td rowspan="2">核的制限値</td> <td>濃縮度</td> <td>%</td> <td>〇〇以下</td> </tr> <tr> <td>減速度</td> <td>H/U</td> <td>〇〇以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">他の臨界管理を必要とするユニットとの相互間隔</td> <td>cm</td> <td>〇〇以上</td> </tr> </table>	名称			〇〇槽		臨界管理			形状寸法管理		核的制限値	最大内径	mm	〇〇		面間最小距離	槽間 mm	〇〇		名称			〇〇槽		臨界管理	核的制限値	濃縮度	%	〇〇以下	減速度	H/U	〇〇以下		他の臨界管理を必要とするユニットとの相互間隔		cm	〇〇以上		
名称			〇〇槽																																					
臨界管理			形状寸法管理																																					
核的制限値	最大内径	mm	〇〇																																					
	面間最小距離	槽間 mm	〇〇																																					
名称			〇〇槽																																					
臨界管理	核的制限値	濃縮度	%	〇〇以下																																				
		減速度	H/U	〇〇以下																																				
	他の臨界管理を必要とするユニットとの相互間隔		cm	〇〇以上																																				

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>D. 主要寸法、外径及び厚さ</p> <p>機器等の概略を示す「たて」「横」「高さ」等の他、容器、管等の性能又は構造強度等の評価に必要となる主要な寸法、管等の外径については原則として公称値を記載することとし、容器等も含めて、厚さについては設計確認値（J I Sで定める許容差を差し引いた厚さの管の場合は除く。）及び公称値を記載することとする。なお、ホース等の一般産業品を重大事故等クラス3機器として使用する場合は、その完成品が一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態においても、使用材料の特性を踏まえた強度を確保できる旨を設計確認値等に代えて記載することでもよいものとする。また、主要寸法については、構造図にて図示するとともに、公差についての説明を添付することとし、要目表に記載する主要寸法以外で評価に必要となる詳細な寸法は計算書や構造図において記載することとする。具体的な記載の例について参考資料1に示す。</p> <p>複数の盤を組み合わせて構成される無停電電源装置等の主要寸法は、分離可能な盤単位の寸法を記載することとする。</p> <p>重大事故等対処設備であって、通常運転時及び設計基準事故時にはその機能に期待しない可搬型の機器等のうち、実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（原規技発第1306194号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定）。以下「技術基準規則解釈」という。）第54条の一般産業品で十分な予備品を確保することで対応する場合には、一般産業品（完成品）としての「たて」「横」「高さ」等の概略寸法（車両に設置される機器等の場合は、当該車両の概略寸法を含む。）や他の機器等との取り合いの寸法を記載することでもよいこととする。</p>	<p>d. 仕様</p> <p>(a) 主要寸法</p> <p>機器等の概略を示す「たて」「横」「高さ」等のほか、容器、管等の性能又は構造強度等の評価に必要となる主要な寸法、管等の外径については原則として公称値を記載することとし、容器等も含めて、厚さについては設計確認値（J I Sで定める許容差を差し引いた厚さの管の場合は除く。）及び公称値を記載することとする。</p> <p>なお、ホース等の一般産業品を重大事故等対処設備として使用する場合は、その完成品が一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、重大事故時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態においても、使用材料の特性を踏まえた強度を確保できる旨を公称値等に変えて記載することでもよいものとする。また、主要寸法については、構造図にて図示するとともに、公差についての説明を添付することとし、仕様表に記載する主要寸法以外で評価に必要となる詳細な寸法は計算書や構造図において記載することとする。</p> <p>複数の盤を組み合わせて構成される無停電電源装置等の主要寸法は、分離可能な盤単位の寸法を記載することとする。</p> <p>重大事故等対処設備であって、通常運転時及び設計基準事故時にはその機能に期待しない可搬型の機器等のうち、一般産業品で十分な予備品を確保することで対応する場合には、一般産業品（完成品）としての「たて」「横」「高さ」等の概略寸法（車両に設置される機器等の場合は、当該車両の概略寸法を含む。）や他の機器等との取り合いの寸法を記載することでもよいこととする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
<p>E. 材料</p> <p>機器の構造強度又は耐震強度に影響を及ぼす機器の主となる部分（1種類又は必要に応じて数種類）を構成するものとする。</p> <p>発電用原子力設備規格 設計・建設規格（J S M E S N C - 1 日本機械学会。以下「設計・建設規格」という。）又は発電用原子力設備規格 材料規格（J S M E S N J - 1 日本機械学会。以下「材料規格」という。）に規定されていない材料であって、その化学的成分及び機械的強度が設計・建設規格又は材料規格で規定する材料と同等以上である場合には、「同等材」として要目表に記載することとし、併せて、その材料の化学的成分及び機械的強度に関する事項（化学的成分及び機械的強度が J I S、A S T M 等の規格に基づくものであって当該規格が公表されているものは、規格番号等を記載した書類であってもよい。）を要目表に記載することとする。その際、別紙として記載することでもよいものとする。なお、主となる部分以外のもの、詳細解析に必要となるものは、添付書類等に記載することとする。</p>	<p>(b) 主要材料</p> <p>機器等の安全性評価や強度評価等の対象となる主要な材質を記載する。</p> <p>機器の構造強度又は耐震強度に影響を及ぼす機器の主となる部分（1種類又は必要に応じて数種類）を構成するものを記載する。</p> <p>J I S、A S T M 等の規格に規定されていない材料であって、その科学的成分及び機械的強度が J I S、A S T M 等の規格に規定する材料と同等以上である場合には、「同等材」として仕様表に記載することとし、併せて、その材料の化学的成分及び機械的強度に関する事項を仕様表に記載することとする。その際、別紙として記載することでもよいものとする。</p> <p>なお、主となる部分以外のもの、詳細解析に必要となるものは、添付書類等に記載することとする。</p> <p>材料記号の記載方法は以下のとおりとする。</p> <p>① J I S 規格に基づく材料記号の記載（施設時の J I S 規格に基づく材料記号を記載する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の施設以降に、J I S 規格改定により材料記号が変更されたものであっても、今回の申請において施設時の J I S 材料記号を記載する。 ・既設設備の一部に最新の J I S 規格が使用されたものは、今回の申請において施設時の J I S 材料記号と最新の J I S 材料記号をそれぞれ記載する。 <p>② J I S 規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>企業のプライベート規格を使用している一般産業品については、使用している材料を総称する一般名を記載する。</p>	<p>g. 材料記号の記載</p> <p>(a) J I S 規格に基づく材料記号の記載（施設時の J I S 規格に基づく材料記号を記載する。）</p> <p>①設備の施設以降に、J I S 規格改定により材料記号が変更されたものであっても、今回の申請において施設時の J I S 材料記号を記載する。</p> <p>②既設設備の一部に最新の J I S 規格が使用されたものは、今回の申請において施設時の J I S 材料記号と最新の J I S 材料記号をそれぞれ記載する。</p> <p>(b) J I S 規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>①企業のプライベート規格を使用している一般産業品については、使用している材料を総称する一般名を記載する。</p>	<p>・再処理設備規格はエントースされていないことから、記載を削除し、他の施設と同様の記載に変更。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>F. 個数</p> <p>重大事故等対処設備であって、通常運転時及び設計基準事故時には その機能に期待しないものにあつては、技術基準規則上必要な個数と バックアップの個数とを分けて記載するとともに、「〇〇以上」として、維持する必要がある個数を記載することでもよいこととする。なお、バックアップについて () を付して個数及びバックアップである旨の注釈を記載することとする。</p> <p>一方、通常運転時及び設計基準事故時に用いるための機器等であつて、機器の点検又は取替えを効率的に行うため、繰り返しの入替えを目的として取替えを行う原子炉冷却材圧力バウンダリに係る機器等（主蒸気安全弁、主蒸気逃がし安全弁、制御棒駆動機構、改良型沸騰水型発電用原子炉施設の原子炉再循環ポンプモーターカバー及び補助カバー並びに加圧水型発電用原子炉施設の一次冷却材ポンプケーシングカバー等）については、設計上必要となる個数を記載し、予備品について () を付して個数及び予備品である旨の注釈を記載することとする。そのため、使用前検査又は供用の実績のない予備品の使用については、予備品の数の変更となり、改造の工事となる。</p> <p>P. 効率、再結合効率</p> <p>効率は、公衆の放射線障害の防止を目的として設置するフィルターについて、対象とする放射性物質を除去する割合とする。</p> <p>再結合効率は、再結合装置内に流入した水素を酸素と再結合し除去する割合をいう。</p> <p>O. 空気流入率</p> <p>空気流入率は、技術基準規則において居住性に係る被ばく評価を求めている中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置する送風機及び排風機について記載するものとする。なお、送風機及び排風機を共に有する場合は、一体として空気流入率を記載することでもよいこととする。正圧管理で流入が想定されない場合はその旨を付記するものとする。</p>	<p>(c) 個数 (基数)</p> <p>機器等の個数 (基数) を示すため、記載する。</p> <p>重大事故等対処設備の可搬型設備のように維持する必要がある個数については、「〇〇以上」と記載することでもよいこととする。</p> <p>なお、バックアップについて () を付して個数及びバックアップである旨の注釈を記載することとする。</p> <p>(d) 効率</p> <p>公衆の放射線障害の防止を目的として設置するフィルター等について、対象とする放射性物質を除去する割合を記載する。</p> <p>(e) 空気流入率</p> <p>居住性に係る被ばく評価を求めている中央制御室、緊急時対策所に設置する送風機及び排風機について記載する。</p> <p>なお、送風機及び排風機を共に有する場合は、一体として空気流入率を記載することでもよいこととする。正圧管理で流入が想定されない場合はその旨を付記するものとする。</p>		<p>・当社において、該当する設備がないため、記載しない。</p> <p>・水素の再結合装置については対象がないため削除。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>L. 検出器の種類</p> <p>計測装置及び放射線管理用計測装置においては検出原理を示すものとし、以下の例を踏まえて記載することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の計測－「弾性圧力検出器」等 ・温度の計測－「測温抵抗体」及び「熱電対」等 ・流量の計測－「差圧式流量検出器」及び「電磁式流量検出器」等 ・水位の計測－「差圧式水位検出器」等 ・水質の計測－「導電率検出器」等 ・放射線の計測－「電離箱」、「シンチレーション」及び「半導体式」等 <p>原子炉非常停止信号又は工学的安全施設等の起動信号においては、信号を発生する検出器を示すものとし、以下の例を踏まえて記載することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加圧器圧力検出器」、「一次冷却材温度検出器」及び「出力領域中性子検出器」等 	<p>(f) 計装設備</p> <p>検出器の種類, 計測範囲, 警報動作範囲, 検出器個数, 表示場所を記載する。</p> <p>なお, 警報動作値を持たない検出器については, 「－」を記載することとする。</p> <p>①検出器の種類</p> <p>計測装置においては検出原理を示すものとし, 以下の例を踏まえて記載することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の計測－「エアパージ式差圧発信器」, 「圧力発信器」等 ・温度の計測－「測温抵抗体」, 「熱電対」等 ・流量の計測－「オリフィス式差圧発信器」, 「電磁式」等 ・液位の計測－「エアパージ式差圧発信器」等 ・密度の計測－「エアパージ式差圧発信器」等 <p>(g) 放射線管理設備</p> <p>検出器の種類, 計測範囲, 警報動作範囲, 検出器個数, 表示場所を記載する。</p> <p>なお, 警報動作値を持たない検出器については, 「－」を記載することとする。</p> <p>①検出器の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線の計測－「電離箱」, 「シンチレーション」, 「半導体式」等 ・臨界警報装置－「プラスチックシンチレーション検出器」 <p>(h) 電気設備</p> <p>電気設備及びディーゼル機関については, その用途 (常用か非常用か), 使用電圧等を記載する。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>M. 原子炉非常停止信号又は工学的安全施設起動（作動）信号の設定値</p> <p>原子炉非常停止信号又は工学的安全施設起動（作動）信号の設定値については、上限値又は下限値であることを明確にするため、要目表に記載する値には「〇〇以下」又は「〇〇以上」と記載することとする。</p> <p>I. 制御方式及び制御方法</p> <p>安全保護系にデジタル安全保護系を適用する場合には、デジタル安全保護系を適用することを記載することとする。なお、ここでいうデジタル安全保護系とは、安全保護系の論理演算機能（作動（起動）回路）がデジタル化されている設備をいう。また「原子炉の制御方法」に、制御棒価値ミニマイザによる制御方法について記載すること。</p> <p>G. 取付箇所</p> <p>常設の機器等（可搬型の機器等の一部で通常運転時から使用箇所に取り付けている機器等を含む。）については、属する系統の機能の独立性及び位置的分散を示すために十分な配置を説明する記載とする必要があり、また、溢水防護上の配慮が必要な機器等については、防護区画との関係及び据付高さ等を記載する必要がある。</p> <p>可搬型の機器等については、保管している場所に加え、使用時に取り付ける箇所を（ ）を付して記載することとする。</p>	<p>(i) 安全保護回路の設定値</p> <p>液体廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液濃縮缶加熱蒸気温度高による加熱停止回路、溶解施設の溶解槽の可溶性中性子吸収材緊急供給回路及びせん断処理施設のせん断機のせん断停止回路等の安全保護回路の設定値については、上限値又は下限値であることを明確にするため、仕様表に記載する値には「〇〇以下」又は「〇〇以上」と記載することとする。</p> <p>g. 制御方式及び制御方法</p> <p>再処理施設においては、にデジタル安全保護系を適用する場合には、デジタル安全保護系を適用することを記載することとする。</p> <p>なお、ここでいうデジタル安全保護系とは、安全保護系の論理演算機能（作動（起動）回路）がデジタル化されている設備をいう。</p> <p>e. 取付箇所</p> <p>溢水防護上の配慮が必要な機器等については、防護区画との関係及び据付高さ等を記載する。</p> <p>なお、使用時に取り付ける箇所を（ ）を付して記載する。</p> <p>f. 原動機</p> <p>技術基準の要求に係る原動機の種類，出力，個数，取付箇所を記載する。</p> <p>g. 注記</p> <p>①仕様表に記載した内容の補足</p> <p>②「2.3 仕様表の記載方法」の記載例</p>		<p>・当社において、<u>制御方式及び制御方法</u>については、<u>h. 制御室機能及び緊急時対策所機能と記載を統合することとし、削除する。安全保護回路をデジタル化する対象がないことから、記載しない。</u></p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>H. 原子炉冷却材又は一次冷却材の純度 沸騰水型発電用原子炉施設にあつては、pH、導電率及び塩素イオンに係るものを記載することとする。加圧水型発電用原子炉施設にあつては、pH、導電率、リチウムイオン、塩化物イオン、溶存酸素、溶存水素及び濁度に係るものを記載することとする。</p> <p>J. 最大反応度価値 原子炉（炉心）が臨界（臨界近接を含める。）にある場合において、制御棒1本（複数の制御棒が同時に引き抜かれる場合にあつてはその制御棒全数）を引き抜くことにより炉心に生ずる反応度の変化量の最大値を記載することとする。</p> <p>K. 負の反応度添加率 全制御棒が挿入できない場合に液体制御材を注入することによって原子炉を停止する時に単位時間当たりに炉心に与えられる負の反応度の量を記載することとする。</p> <p>N. 中央制御室機能、<u>中央制御室外原子炉停止機能</u>、緊急時制御室操作機能及び緊急時対策所機能 技術基準規則に対応して具備することとしている機能を記載する必要がある。</p>	<p>h. <u>中央</u>制御室機能及び緊急時対策所機能 技術基準に対応して <u>制御室及び緊急時対策所が具備することとしている機能</u> <u>（集中監視及び操作、設置する制御盤類、外部状況把握、居住性の確保等）について記載する。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> ・発電炉固有の設備であるため、記載しない。 ・発電炉固有の設備であるため、記載しない。 ・発電炉固有の設備であるため、記載しない。

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考												
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲 (前略)</p> <p>また、兼用するもの(複数の設備の機能を持ったものをいう。)、共用するものがある場合には、主たる機能に 関係する設備の区分で機器等を記載し、その他の機能に 関係する設備の区分においては、主たる機能に関する 設備の区分と機器等の名称及び構成等を記載すること で機能を有する範囲を明確にすれば、必ずしもそれぞ れの設備区分で同じ記載をする必要はないものとする。た だし、設備区分によって記載すべき機器等の仕様等が異 なる場合には、関係する設備区分での記載を網羅する必 要があり、どの区分に対応した記載内容かを付記するも のとする。</p>	<p>2.3 仕様表の記載方法</p> <p>(1) 施設に共通する記載</p> <p>a. 共用について</p> <p>(a) 他施設と共用する設備の名称についての表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="1032 499 1700 730"> <thead> <tr> <th colspan="2">仕様表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(○ ○施設, ○▽施設と共 用)」を記載する。</td> <td>モニタリングポ スト (○○施設, ○▽施 設と共用)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 共用に関する記載ルールについて</p> <p>①他施設と共用する設備は、それぞれの施設に設備仕 様を記載する。また、他施設と設備の一部を共用す る場合は、その一部を共用する旨記載する。 (別紙1 記載例 1/12 : ①参照)</p> <p>②他施設と共用する設備を登録している側(以下、「設 備登録側」という。)の設備名称を明確にするため、 注記にて設備登録側である旨を記載する。 (別紙1 記載例 2/12 : ①参照)</p> <p>b. 兼用について</p> <p>(a) 複数の設備(系統)区分で兼用する設備の記載方針</p>	仕様表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○施設, ○▽施設と共 用)」を記載する。	モニタリングポ スト (○○施設, ○▽施 設と共用)	<p>2.2 要目表の記載方法</p> <p>(1) 施設に共通する記載</p> <p>a. 共用について</p> <p>(a) ○▽発電所登録側の共用する設備の名称についての 表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="1783 499 2451 684"> <thead> <tr> <th colspan="2">要目表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(○ ○, ○▽発電所共 用)」を記載する。</td> <td>△△ポンプ (○○, ○▽発電所 共用)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 共用に関する記載ルールについて</p> <p>「○▽発電所登録側」に設備仕様一式を記載する。</p> <p>b. 兼用について</p> <p>(a) 複数の設備(系統)区分で兼用する設備の記載方針</p> <p>①従前の規制より複数の設備(系統)区分の設計基準 対象施設として使用しているもの(残留熱除去系 ポンプ等)は、従前の規制手続きと同様に主たる機 能に着目し、設計基準対象施設として「主たる設備 (系統)区分」のみに記載する。</p>	要目表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○, ○▽発電所共 用)」を記載する。	△△ポンプ (○○, ○▽発電所 共用)	<p>・他施設との共用である ため、それぞれの施設 に仕様を記載する。ま た、設備の一部を共用 する場合は、共用部分 がわかるように記載す る。</p> <p>・当社において、設計基準 対象施設は、複数の設 備区分で兼用していな いため、記載しない。</p>
仕様表の記載方法		記載例													
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○施設, ○▽施設と共 用)」を記載する。	モニタリングポ スト (○○施設, ○▽施 設と共用)													
要目表の記載方法		記載例													
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○, ○▽発電所共 用)」を記載する。	△△ポンプ (○○, ○▽発電所 共用)													

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>①新たな規制への対応のために複数の設備（系統）区分の設備として使用する以下のものは、「主となる設備（系統）区分」に加え「兼用先」にも記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の設計基準対象施設を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として新たに兼用するもの（データ収集装置等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 3/12 : ①参照) 新たに追加設置した重大事故等対処設備を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として兼用するもの（情報収集装置等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 4/12 : ①参照) <p>(b) 複数の設備（系統）区分で兼用する設備の記載方法</p> <p>①複数の設備（系統）区分の機能を持つ設備を他の設備（系統）区分の設備として兼用するものは、「主となる設備（系統）区分」に「兼用先」の設備別記載事項を追加し、注記を付記する。</p> <p>②「兼用先」への記載は、文章にて「主となる設備（系統）区分」、「兼用すること」及び「設備（系統）名称」を記載する。 (別紙1 記載例 5/12 : ①参照)</p>	<p>②新たな規制への対応のために複数の設備（系統）区分の設備として使用する以下のものは、「主となる設備（系統）区分」に加え「兼用先」にも記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の設計基準対象施設を他の設備（系統）区分の設計基準対象施設として新たに兼用するものは設計基準対象施設として「兼用先」に記載する。 既存の設計基準対象施設を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として新たに兼用するもの（ほう酸水注入ポンプ等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 1/14 : ①参照) 新たに追加設置した重大事故等対処設備を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として兼用するもの（格納容器圧力逃がし装置、常設低圧代替注水ポンプ等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 2/14 : ①参照) <p>(b) 複数の設備（系統）区分で兼用する設備の記載方法</p> <p>①複数の設備（系統）区分の機能を持つ設備を他の設備（系統）区分の設備として兼用するものは、「主となる設備（系統）区分」に「兼用先」の設備別記載事項を追加し、注記を付記する。</p> <p>②「兼用先」への記載は、文章にて「主となる設備（系統）区分」、「兼用すること」及び「設備（系統）名称」を記載する。 (別紙1 記載例 3/14 : ①参照)</p>	<p>・当社において、設計基準対象施設は、複数の設備区分で兼用していないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>③「新たに登録する場合」の表記として、「本設工認で」の文章を記載することで新たな登録であることを示す。 (別紙1 記載例 5/12 : ②参照)</p> <p>(c) 「主となる設備(系統)区分」と「兼用先」の仕様表の関連付け</p> <p>①「主となる設備(系統)区分」には、「兼用先」の「設備(系統)区分」がわかるように、また「兼用先」には、「主となる設備(系統)区分」がわかるように記載し、互いの関連付けを行う。 記載は、「主となる設備(系統)区分」の名称欄に注記を付記し、「兼用先」の全ての設備(系統)区分を記載する。 これにより、「兼用先」同士の関連性が明らかになるため、「兼用先」では、「主となる設備(系統)区分」のみを記載する。 (別紙1 記載例 5/12 : ③参照)</p> <p>②「主となる施設区分」と「兼用先」の施設区分が異なる場合は、「施設区分」も含んで記載し、「兼用先」が同一の施設である場合には、「施設区分」の記載は行わない。</p>	<p>③「新たに登録する場合」の表記として、「本工事計画で」の文章を記載することで新たな登録であることを示す。 (別紙1 記載例 3/14 : ②参照)</p> <p>④設備(系統)区分によって記載すべき仕様(揚程等)が異なるものについては、その異なる仕様を一つの要目表にまとめて記載する。この場合、複数の仕様が併記されるため、該当する仕様に注記を付記し、対応する設備(系統)区分が明確になるように記載する。 (別紙1 記載例 4/14 : ①参照)</p> <p>(c) 「主となる設備(系統)区分」と「兼用先」の要目表の関連付け</p> <p>①「主となる設備(系統)区分」には、「兼用先」の「設備(系統)区分」がわかるように、また「兼用先」には、「主となる設備(系統)区分」がわかるように記載し、互いの関連付けを行う。 記載は、「主となる設備(系統)区分」の名称欄に注記を付記し、「兼用先」の全ての設備(系統)区分を記載する。 これにより、「兼用先」同士の関連性が明らかになるため、「兼用先」では、「主となる設備(系統)区分」のみを記載する。 (別紙1 記載例 3/14 : ③参照)</p> <p>②「主となる施設区分」と「兼用先」の施設区分が異なる場合は、「施設区分」も含んで記載し、「兼用先」が同一の施設である場合には、「施設区分」の記載は行わない。 (別紙1 記載例 2/14 : ②参照)</p>	<p>・当社において、設備区分によって記載すべき仕様が異なるものはないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>③「兼用する設備(系統)区分」については、別紙2の「仕様表 兼用先一覧」に従い兼用先を設定する。</p> <p>(d)「主となる設備(系統)区分」と同じ機器区分(容器、管等)が兼用先がない場合</p> <p>①「兼用先」では異なる機器区分となるが、仕様表として記載できる場合は、別紙2「仕様表 兼用先一覧表」の「兼用する施設・設備(系統)区分」に従い兼用先を設定し、仕様表に記載する。</p> <p>②「兼用先」で仕様表として記載できる機器区分がない場合、仕様表には記載せず、兼用先の施設の基本設計方針の「兼用設備リスト」に設備名を記載する。</p> <p>(e) 放出抑制設備、補機駆動用燃料補給設備等に関しては、施設区分の兼用はしない。</p> <p>c. 変更前後の書き分け</p> <p>(a) 新たな規制への対応のため設工認の手続きが必要となる設備(以下①～⑤に示す設備)の仕様表については、必要な仕様を「変更後」に記載し「変更前」は「-」を記載する。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 6/12 : ①参照)</p> <p>この際、既設の設備を変更後に記載する設備は、注記を付記し既設の設備である旨を記載する。この場合、注記を付記する位置については、設備全体が既設である場合は、原則代表して「名称」欄又は対象設備が複数の場合(例:貯蔵ピット)は「変更後」欄に1か所、一部の仕様に変更等がある場合は該当する仕様個別に付記する。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 4/12 : ②参照)</p>	<p>③「兼用する設備(系統)区分」については、別紙2の「要目表 兼用先一覧」に従い兼用先を設定する。</p> <p>(d)「主となる設備(系統)区分」と同じ機器区分(容器、管等)が兼用先がない場合</p> <p>①「兼用先」では異なる機器区分となるが、要目表として記載できる場合は、別紙2「要目表 兼用先一覧表」の「兼用する施設・設備(系統)区分」に従い兼用先を設定し、要目表に記載する。</p> <p>②「兼用先」で要目表として記載できる機器区分がない場合、要目表には記載せず、兼用先の施設の基本設計方針の「兼用設備リスト」に設備名を記載する。</p> <p>(e) 情報提供系、サポート系(補機冷却系、換気空調系、電源系及び圧力逃がし装置の移送ポンプ及び配管)に関しては、施設区分の兼用はしない。</p> <p>c. 変更前後の書き分け</p> <p>(a) 新たな規制への対応のため工事計画の手続きが必要となる設備(以下①～⑦に示す設備)の要目表については、必要な仕様を「変更後」に記載し「変更前」は「-」を記載する。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 5/14 : ①参照)</p> <p>この際、既設の設備を変更後に記載する設備は、注記を付記し既設の設備である旨を記載する。この場合、注記を付記する位置については、設備全体が既設である場合は、原則代表して「名称」欄又は対象設備が複数の場合(例:火災区域構造物・火災区画構造物)は「変更後」欄に1か所、一部の仕様に変更等がある場合は該当する仕様個別に付記する。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 5/14 : ②参照)</p>	<p>兼用先が多岐にわたらないため、兼用しない設備の記載はしない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>①重大事故等対処設備として新たに追加設置した設備 (別紙1 記載例 4/12 : ③参照)</p> <p>②従前の規制では設工認の手続対象外であった既設設備を重大事故対処設備として新たに登録する設備又は新たに記載する仕様</p> <p>③兼用設備として新たに登録する設備又は仕様 (別紙1 記載例 3/13 : ②参照)</p> <p>④既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度、圧力等)が設計基準対象施設としての設計条件を超える仕様 (別紙1 記載例 7/12 : ①参照)</p> <p>⑤改造工事を行う設備(既設工認の本文記載事項の変更を伴うもの)</p> <p>(b) 従前の規制範囲内での記載の適正化を行う設備の仕様については、「変更前」に記載し「変更後」には「変更なし」を記載する。</p>	<p>①重大事故等対処設備として新たに追加設置した設備 (別紙1 記載例 2/14 : ③参照)</p> <p>②従前の規制では工事計画の手続対象外であった既設設備を重大事故対処設備として新たに登録する設備又は新たに記載する仕様</p> <p>③設計基準対処施設として新たに工事計画の手続対象となった設備又は仕様 (別紙1 記載例 5/14 : ③参照)</p> <p>④既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として新たに登録する際に機器クラス区分が変更となることで要求事項(継手仕様等)が追加された設備</p> <p>⑤兼用設備として新たに登録する設備又は仕様 (別紙1 記載例 1/14 : ②参照)</p> <p>⑥既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度、圧力等)が設計基準対象施設としての設計条件を超える仕様 (別紙1 記載例 6/14 : ①参照)</p> <p>⑦改造工事を行う設備(既工事計画書の本文記載事項の変更を伴うもの)</p> <p>(b) 従前の規制範囲内での記載の適正化を行う設備の仕様については、「変更前」に記載し「変更後」には「変更なし」を記載する。</p>	<p>・設計基準対処施設として新たに設工認手続き対象となる設備はないため、記載しない。</p> <p>・機器クラス区分が存在しないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(d) 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用する設備については「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載する。この場合、当該設備がどちらの機能を有するかの識別は、基本設計方針の「主要設備リスト」で行う。 (別紙1 記載例 3/12 : ③参照)</p> <p>(e) 今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載した上で、名称欄に注記を付記し「手続き対象外」である旨を記載する。 また、「申請範囲」に手続き対象外である旨を記載する。 (例) 貯蔵ピット (手続き対象外)</p> <p>(f) 今回の手続きに関与しない設備については、仕様表の記載の適正化は行わない。</p> <p>(g) 記載の適正化として「変更前」に記載する際に、建設時の設工認等を出典として記載する場合において、既設工認本文に記載がないため添付書類又は添付図面を出典とする場合は、その添付書類又は添付図面が添付されている既設工認申請書の「認可年月日」、「認可番号」及び「添付書類又は添付図面の名称」を記載する。 既設工認の参考資料については、出典として使用しないこととする。 例：注記 *1：既設工認に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇号にて認可された設工認の〇〇による。 (別紙1 記載例 8/12 : ①参照)</p>	<p>(c) 従前の規制範囲と整合させるために非主配管化する範囲については、「変更前」に既工事計画書の値を記載し、「変更後」を「-」とした上で、注記を付記し「記載の適正化を行う」旨を記載する。 (別紙1 記載例 7/14 : ①参照)</p> <p>(d) 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用する設備については「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載する。この場合、当該設備がどちらの機能を有するかの識別は、基本設計方針の「主要設備リスト」で行う。 (別紙1 記載例 1/14 : ③参照)</p> <p>(e) 今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載した上で、名称欄に注記を付記し「手続き対象外」である旨を記載する。 また、「申請範囲」に手続き対象外である旨を記載する。 (例) 〇〇ポンプ (手続き対象外)</p> <p>(f) 今回の手続きに関与しない設備については、要目表の記載の適正化は行わない。</p> <p>(g) 記載の適正化として「変更前」に記載する際に、建設時の工事計画書等を出典として記載する場合において、既工事計画書本文に記載がないため添付書類又は添付図面を出典とする場合は、その添付書類又は添付図面が添付されている既工事計画認可申請書の「認可年月日」、「認可番号」及び「添付書類又は添付図面の名称」を記載する。 既工事計画書の参考資料については、出典として使用しないこととする。 例：注記 *1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇資序第〇〇号にて認可された工事計画の〇〇による。 (別紙1 記載例 1/14 : ④参照)</p>	<p>・非主配管化する設備はないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(h) 既設工認本文の記載事項の記載の適正化を行う場合は、これらの許認可情報は記載せず、「既設工認」の記載を注記に記載する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例：注記 *1：記載の適正化を行う。既設工認には「〇〇」と記載。 (別紙1 記載例 9/12 : ①参照) </div> <p>(i) 既設工認に設備自体の記載がないものを「変更前」に記載する場合は、「名称」欄又は「変更前」欄に注記を付記し、その設備仕様一式そのものが既設工認に記載がないことを示す。 (別紙1 記載例 9/12 : ②参照)</p> <p>(j) 既設工認に記載された主配管の「区間」において「〇〇ポンプから△△配管合流部まで」などと記載されている場合は「〇〇ポンプ～△△配管合流部」と記載を修正する。ただし、「区間」の範囲の見直しを伴わない修正である場合は注記を付記しない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例：〇〇ポンプから△△配管合流部まで ↓ 〇〇ポンプ～△△配管合流部 </div> <p>(k) 設工認に記載のある機器等を廃止手続きする際の記載については、「変更後」に、「撤去」または「廃止」を記載する。なお、改造にあたってポンプは変更後に「-」を記し、注記を付記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「撤去」と記載する場合：今回の申請において機器等の撤去を行うもの。 ・「廃止」と記載する場合：今回の申請においては、機器等の撤去は行わず、廃止手続きを行うもの。 	<p>(h) 既工事計画書本文の記載事項の記載の適正化を行う場合は、これらの許認可情報は記載せず、「既工事計画書」の記載を注記に記載する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例：注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「〇〇」と記載。 (別紙1 記載例 1/14 : ⑤参照) </div> <p>(i) 既工事計画書に設備自体の記載がないものを「変更前」に記載する場合は、「名称」欄又は「変更前」欄に注記を付記し、その設備仕様一式そのものが既工事計画書に記載がないことを示す。 (別紙1 記載例 8/14 : ①参照)</p> <p>(j) 既工事計画書に記載された主配管の「区間」において「〇〇ポンプから△△配管合流部まで」などと記載されている場合は「〇〇ポンプ～△△配管合流部」と記載を修正する。ただし、「区間」の範囲の見直しを伴わない修正である場合は注記を付記しない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例：〇〇ポンプから△△配管合流部まで ↓ 〇〇ポンプ～△△配管合流部 </div> <p>(k) 工事計画書に記載のある機器等を廃止手続きする際の記載については、「変更後」に、「撤去」または「廃止」を記載する。なお、改造にあたって別表第一対象外のポンプは変更後に「-」を記し、注記を付記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「撤去」と記載する場合：今回の申請において機器等の撤去を行うもの。 ・「廃止」と記載する場合：今回の申請においては、機器等の撤去は行わず、廃止手続きを行うもの。 <p style="text-align: right;">(別紙1 記載例 9/14 : ①参照) (別紙1 記載例 10/14 : ①参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>e. 重大事故等対処設備としての使用時における値について</p> <p>(a) 既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度, 圧力)が設計基準対象施設としての設計条件を超える設備については、その超える部分の仕様を併記する。この際、上段を設計基準対象施設としての値、下段に()書きで重大事故等対処設備としての使用時における値とし、注記を付記して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。</p> <p>なお、耐圧要求がない既設の設計基準対象施設については、既設工認において仕様表上で使用条件(温度, 圧力)を示していないことから、重大事故等時における使用条件のみを記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 7/12 : ②参照)</p>	<p>(1) 別表第一に該当する取替対象設備については、「変更後」に取替えを実施する旨を注記に記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 11/14 : ①参照)</p> <p>d. 同じ設備区分で同一機器を異なる用途で使用する場合の記載について</p> <p>計測制御系統施設の原子炉非常停止信号及び工学的安全施設等の起動信号に記載される検出器のように、異なる用途に対し同一の検出器を使用する場合は兼用とはならないが、使用する全ての用途が明確となるよう、注記を付記し、互いの関連付けを行う。</p> <p>(別紙1 記載例 12/14 : ①参照)</p> <p>e. 重大事故等対処設備としての使用時における値について</p> <p>(a) 既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度, 圧力)が設計基準対象施設としての設計条件を超える設備については、その超える部分の仕様を「変更後」に記載する。この際、上段を設計基準対象施設としての値、下段を重大事故等対処設備としての使用時における値とし、注記を付記して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 6/14 : ②参照)</p>	<p>・取替対象設備はないため、記載しない。</p> <p>・同じ設備区分で同一機器を異なる用途で使用する設備はないため、記載しない。</p> <p>・DB 設備として、使用条件が示されていない場合があるため、記載を追加。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>1) 機器等の仕様に関する記載要求範囲 (前略) また、配管等の「厚さ」、熱交換器(蒸気発生器を含む)、ポンプ、圧縮機、容器その他の機器等の「容量」および熱交換器(蒸気発生器含む)の「伝熱面積」等については、当該機器等の性能又は強度等が技術基準規則等に適合していることを確認したもの(以下「設計確認値」という。)と公称値を併記することとし、設計確認値の記載については、「〇〇以上」又は「〇〇以下」のように、下限又は上限である旨を明記してもよいこととする。その他、技術基準規則の規定内容に加え、以下の内容を踏まえて記載するものとする。</p>	<p>(b) 重大事故等対処設備としてのみ使用する設備については、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」(ポンプ等については「容量」、「揚程」も含む)の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 6/12 : ②参照)</p> <p>f. 設計確認値</p> <p>(a) ポンプ、熱交換器、容器等の容量、熱交換器等の伝熱面積及び JIS 配管を除く配管等の厚さについては「設計確認値」及び「公称値」を記載する。ただし、設計図書等にて「設計確認値」が明記されていない場合は、「公称値」と同一値を記載する。 また、従来、「設計確認値」のみを記載していたものについては、原則、同一の値を「公称値」として記載する。 ただし、安全弁・逃がし弁のリフト量、主要弁の弁箱厚さ及び弁蓋厚さ等の機器仕様上の最小値を記載している場合は「設計確認値」のみ記載する。 (別紙1 記載例 7/12 : ③参照)</p> <p>(b) 「設計確認値」及び「公称値」を併記する場合は、「設計確認値」の後に括弧を付して「公称値」を記載し、注記を付して「公称値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 7/12 : ③参照)</p>	<p>(b) 重大事故等対処設備としてのみ使用する設備については、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」(ポンプ等については「容量」、「揚程」も含む)の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。また、既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として新たに登録する際に、機器クラス区分が変更になることで、記載が追加された管継手についても重大事故等対処設備としてのみ使用する設備として、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 2/14 : ④参照) (別紙1 記載例 4/14 : ②参照)</p> <p>f. 設計確認値</p> <p>(a) ポンプ、熱交換器、容器等の容量、熱交換器等の伝熱面積及び J I S 配管を除く配管等の厚さについては「設計確認値」及び「公称値」を記載する。ただし、設計図書等にて「設計確認値」が明記されていない場合は、「公称値」と同一値を記載する。 また、従来、「設計確認値」のみを記載していたものについては、原則、同一の値を「公称値」として記載する。 ただし、安全弁・逃がし弁のリフト量、主要弁の弁箱厚さ及び弁蓋厚さ等の機器仕様上の最小値を記載している場合は「設計確認値」のみ記載する。 (別紙1 記載例 1/14 : ⑥参照)</p> <p>(b) 「設計確認値」及び「公称値」を併記する場合は、「設計確認値」の後に括弧を付して「公称値」を記載し、注記を付して「公称値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 1/14 : ⑥参照)</p>	<p>・機器クラス区分が存在しないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>g. 材料記号の記載</p> <p>(a) J I S規格に基づく材料記号の記載 (施設時の J I S規格に基づく材料記号を記載する。)</p> <p>①設備の施設以降に, J I S規格改定により材料記号が変更されたものであっても, 今回の申請において施設時の J I S材料記号を記載する。</p> <p>②既設設備の一部に最新の J I S規格が使用されたものは, 今回の申請において施設時の J I S材料記号と最新の J I S材料記号をそれぞれ記載する。</p> <p>(b) J I S規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>①企業のプライベート規格を使用している一般産業品については, 使用している材料を総称する一般名を記載する。</p> <p>h. 個数</p> <p>(a) 技術基準規則上, 予備を必要とする設備については, 括弧外に必要数を記載し, 括弧内に予備数を併記する。予備数の記載については, (別紙1 記載例 10/12 : ①参照)</p> <p>なお, 可搬型の主配管については, 後述の「(2) 個別設備の記載 b. 個別事項 (配管), (c) 可搬型主配管」に示す。</p> <p>i. 取付箇所</p> <p>(a) 常設設備 (可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備を含む。) の取付箇所については「系統名 (ライン名)」、「設置床」、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載する。</p> <p>なお, 内部溢水防護の要求がない廃棄物管理施設は取付箇所を記載しない。また, 安重設備がなく, 溢水防護上の区画番号がない加工施設は, <u>「系統名 (ライン名)」、「設置床 (室名称)」、「溢水防護上の配慮が必要な高さ」</u>を記載する。</p>	<p>g. 材料記号の記載</p> <p>(a) J I S規格に基づく材料記号の記載 (施設時の J I S規格に基づく材料記号を記載する。)</p> <p>①設備の施設以降に, J I S規格改定により材料記号が変更されたものであっても, 今回の申請において施設時の J I S材料記号を記載する。</p> <p>②既設設備の一部に最新の J I S規格が使用されたものは, 今回の申請において施設時の J I S材料記号と最新の J I S材料記号をそれぞれ記載する。</p> <p>(b) J I S規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>①企業のプライベート規格を使用している一般産業品については, 使用している材料を総称する一般名を記載する。</p> <p>h. 個数</p> <p>(a) 可搬型設備のうち技術基準規則上, 予備を必要とする設備については, 括弧外に必要数を記載し, 括弧内に予備数を併記する。 (別紙1 記載例 4/14 : ③参照)</p> <p>なお, 可搬型の主配管については, 後述の「(2) 個別設備の記載, b. 個別事項 (配管), (c) 可搬型主配管」に示す。</p> <p>i. 取付箇所</p> <p>(a) 常設設備 (可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備を含む。) の取付箇所については「系統名 (ライン名)」、「設置床」、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載する。</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>①「属する系統の機能の独立性」の確認のため、仕様表へ「系統名(ライン名)」を記載し、「系統図」との関連付けを行う。ポンプ A, B や弁 A, B, C 等の複数機器を1件の仕様表に記載する場合には、その機器毎に「系統名(ライン名)」を記載する。なお、系統に接続されない機器(クレーン等)は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>②「位置的分散」の確認のため、仕様表へ「設置床」を記載し、「配置図」との関連付けを行う。記載欄には「建屋名称」及び機器等の「設置床レベル」を記載する。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>③「〇〇施設の溢水による損傷の防止に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、仕様表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>④溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定した上で、裕度を設定して仕様表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。 新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p>	<p>①「属する系統の機能の独立性」の確認のため、要目表へ「系統名(ライン名)」を記載し、「系統図」との関連付けを行う。ポンプ A, B や弁 A, B, C 等の複数機器を1件の要目表に記載する場合には、その機器毎に「系統名(ライン名)」を記載する。なお、系統に接続されない機器(クレーン等)は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>②「位置的分散」の確認のため、要目表へ「設置床」を記載し、「配置図」との関連付けを行う。記載欄には「建屋名称」及び機器等の「設置床レベル」を記載する。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>③「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、要目表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>④溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定した上で、裕度を設定して要目表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。 新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(b) 可搬型設備の取付箇所については、「保管場所」及び「取付箇所」を記載する。</p> <p>①屋外の可搬型設備の「保管場所」は、保管場所の設置床高さ及び保管場所が特定可能な記載とする。この場合、移動可能な設備であることを考慮し設置床高さには「約」を付記する。なお、設置床高さの表記方法については、事業変更許可申請書に準じる。 (別紙1 記載例 10/12 : ②参照)</p> <p>②屋外の可搬型設備の「取付箇所」は、取付箇所の設置床高さ及び取付箇所が特定可能な記載とする。 (別紙1 記載例 10/12 : ③参照)</p> <p>③可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備については、一部常設箇所の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載し、その旨が分かるよう注記を付記する。</p> <p>④可搬型ホースについて、複数の敷設ルートがある場合には、敷設距離が最長となるルートについて注記で記載する。また、複数の長さのホースを組み合わせる場合は、その内訳を注記で記載する。 (詳細は別紙4参照)</p>	<p>(b) 可搬型設備の取付箇所については、「保管場所」及び「取付箇所」を記載する。</p> <p>①屋外の可搬型設備の「保管場所」は、保管場所の設置床高さ及び保管場所が特定可能な記載とする。この場合、移動可能な設備であることを考慮し設置床高さには「約」を付記する。なお、設置床高さの表記方法については、設置変更許可申請書に準じる。 (別紙1 記載例 4/14 : ④参照)</p> <p>②屋外の可搬型設備の「取付箇所」は、取付箇所の設置床高さ及び取付箇所が特定可能な記載とする。 (別紙1 記載例 4/14 : ⑤参照)</p> <p>③可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備については、一部常設箇所の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載し、その旨が分かるよう注記を付記する。</p> <p>④可搬型ホースについて、複数の敷設ルートがある場合には、敷設距離が最長となるルートについて注記で記載する。また、複数の長さのホースを組み合わせる場合は、その内訳を注記で記載する。 (詳細は別紙4参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>j. S I 単位換算</p> <p>(a) 既設工認に記載がある設備のうち、S I 単位で記載されていないものについては、S I 単位に換算した値を記載し、注記を付して「S I 単位に換算した」旨を記載する。</p> <p>k. 使用前検査未完了の工事</p> <p>(a) 新規制施行前に工事の計画の認可又は届出した工事のうち、使用前検査に合格していないもので、今回の一体工事として手続きするものについては、「基本設計方針の変更の工事」として扱う。この場合、「変更前」に認可又は届出後の仕様を記載し、注記で基本設計方針の変更である旨の記載を行う。</p> <p>例：届出した工事</p> <p>注記 *1：記載内容は、既設工認（平成〇〇年〇〇月〇〇日付け原発本第〇〇〇号工事計画届出書）による。なお、本設工認は、届け出した設計及び工事の計画に対して基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。</p> <p>(b) 今回の一体工事として手続きしないものについては、別途、「設工認」の「変更認可申請」、「変更届出」等の手続きを行う。そのため、これらに係る設備のうち今回の一体工事の手続きとして必要となるものは、仕様表に記載するものとする。その場合において注記は記載しない。</p>	<p>j. S I 単位換算</p> <p>(a) 既工事計画書に記載がある設備のうち、S I 単位で記載されていないものについては、S I 単位に換算した値を「変更前」に記載し、注記を付して「S I 単位に換算した」旨を記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 7 / 14 : ②参照)</p> <p>k. 使用前検査未完了の工事</p> <p>(a) 新規制施行前に工事の計画の認可又は届出した工事のうち、使用前検査に合格していないもので、今回の一体工事として手続きするものについては、「基本設計方針の変更の工事」として扱う。この場合、「変更前」に認可又は届出後の仕様を記載し、注記で基本設計方針の変更である旨の記載を行う。</p> <p>例：届出した工事</p> <p>注記 *1：記載内容は、既工事計画書（平成〇〇年〇〇月〇〇日付け原発本第〇〇〇号工事計画届出書）による。なお、本工事計画書は、届け出した工事計画に対して基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。</p> <p>(b) 今回の一体工事として手続きしないものについては、別途、「工事計画」の「変更認可申請」、「変更届出」等の手続きを行う。そのため、これらに係る設備のうち今回の一体工事の手続きとして必要となるものは、要目表の「変更前」部分に「既に認可を受けた」工事計画の「変更前」の部分を記載するものとする。その場合において注記は記載しない。</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>1. 防護上の配慮が必要な設備</p> <p>(a) 耐震基準変更に伴う耐震Sクラス設備, 溢水防護上の配慮が必要となる防護対象設備, 竜巻, 火山又は外部火災等における防護対象であって仕様表記載対象設備の場合は, 基準変更対応としての手続き対象設備として仕様表に記載する。</p> <p>m. 機能及び使用方法が同じ設備を複数台保有する場合の名称</p> <p>(a) 再循環系ポンプや逃がし安全弁等, 機能及び使用方法が同じ設備を複数保有する場合の名称は, 「A」, 「B」, 「C」等の個体識別を記載せず, 設備名称のみ記載する。</p> <p style="text-align: center;">(例) ○○建屋非常用蓄電池 A, B ↓ 仕様表記載名称「○○建屋非常用蓄電池」</p> <p>(b) 弁については弁番号で記載することとし, 個体識別を付記した設備名称を記載する。なお, 機能及び使用方法が同じ設備についてはまとめて記載する。</p> <p>(例) 仕様表記載名称「○○弁 (○○-W○○)」</p> <p>n. 竜巻, 内部溢水評価等の制約により分散配置を必要とする設備については, 仕様表の取付箇所(保管場所)欄に分散して保管する旨を記載する。(可搬型中型移送ポンプ等)</p>	<p>1. 防護上の配慮が必要な設備</p> <p>(a) 耐震基準変更に伴う耐震Sクラス設備, 共振の影響を受ける耐震Bクラス設備, 溢水防護上の配慮が必要となる防護対象設備, 竜巻, 火山又は外部火災等における防護対象であって別表第二の要目表対象設備の場合は, 基準変更対応としての手続き対象設備として要目表に記載する。</p> <p>m. 機能及び使用方法が同じ設備を複数台保有する場合の名称</p> <p>(a) 再循環系ポンプや逃がし安全弁等, 機能及び使用方法が同じ設備を複数保有する場合の名称は, 「A」, 「B」, 「C」等の個体識別を記載せず, 設備名称のみ記載する。</p> <p style="text-align: center;">(例) 保有設備「再循環系ポンプ A, B」 ↓ 要目表記載名称「再循環系ポンプ」</p> <p>(b) 弁については弁番号で記載することとし, 個体識別を付記した設備名称を記載する。なお, 機能及び使用方法が同じ設備についてはまとめて記載する。</p> <p>(例) 要目表記載名称「E12-F017A, B」</p> <p>n. 竜巻, 内部溢水評価等の制約により分散配置を必要とする設備については, 要目表の取付箇所(保管場所)欄に分散して保管する旨を記載する。(可搬型代替注水中型ポンプ等)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>規則別表第2の中欄においては、同表の上欄で示している発電用原子炉施設の種類として、原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉格納施設及びその他発電用原子炉の附属施設に区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯蔵槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルター等の機器等を記載することとされている。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p>	<p>(2) 個別設備の記載</p> <p>a. 個別事項（機器）</p> <p>(a) 安全上重要な施設の作動設定値において、既設の検出器を重大事故等対処設備として兼用し、ロジック回路のみ新たに構成する場合については、変更後の設備仕様を記載する。この場合、検出器は既設であること及び兼用であることを注記する。</p> <p>(b) 計測制御系統施設及び放射線管理施設については「計測範囲」及び「警報動作範囲」を記載するが、設計基準対象施設、重大事故等対処設備ともに技術基準規則で要求されている計測装置のみ適用し、計測範囲や警報動作を適用しない設備については、「－」とする。なお、既設工認の記載の適正化を行い「－」と記載する場合は、注記を付記して、警報動作を適用しない旨を記載する。 (別紙1 記載例 11/12 : ①参照)</p> <p>(c) 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において考慮する生体遮蔽装置について 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において解析上遮蔽として考慮する壁等については、「中央制御室遮蔽」又は「緊急時対策所遮蔽」として記載する。</p>	<p>(2) 個別設備の記載</p> <p>a. 個別事項（機器）</p> <p>(a) 工学的安全施設等の作動設定値において、既設の検出器を重大事故等対処設備として兼用し、ロジック回路のみ新たに構成する場合については、「変更前」を「－」とし、「変更後」に設備仕様を記載する。この場合、検出器は既設であること及び原子炉非常停止信号の検出器と兼用であることを注記する。</p> <p>(b) 非常用電源設備以外のポンプ車等に付属するポンプ駆動用の燃料タンク（車付タンク）については、補機駆動用燃料設備に記載する。また、ディーゼル機関を駆動源とする消火ポンプの燃料タンクも同様とする。</p> <p>(c) 「別表第二」記載事項のうち計測制御系統施設及び放射線管理施設に記載されている「警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。」については、設計基準対象施設、重大事故等対処設備ともに技術基準規則で要求されている計測装置のみ適用し、警報動作を適用しない設備については、「－」とする。なお、既工事計画書の記載の適正化を行う場合は、注記を付記して、警報動作を適用しない旨を記載する。 (別紙1 記載例 13/14 : ①参照)</p> <p>(d) 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において考慮する生体遮蔽装置について 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において解析上遮蔽として考慮する壁等については、「中央制御室遮蔽」、「中央制御室待避室遮蔽」、「二次遮蔽」又は「緊急時対策所遮蔽」として記載する。</p>	<p>・該当する機器が存在しないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手順ガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(c) 可搬型主配管</p> <p>①可搬型主配管のうち、可搬型ホースについては、接続する箇所が分かるような名称にするとともに、ホース1本当たりの長さを名称へ記載する。</p> <p>(例) ○○ライン△△用□□m ホース (別紙1 記載例 12/12 : ①参照)</p> <p>②外径が記載できない可搬型主配管の外径については、呼び径を記載し、その旨を注記する。 (別紙1 記載例 12/12 : ②参照)</p> <p>③厚さが記載できない可搬型主配管の厚さは「-」を記載し、その旨を注記する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注記 1) : メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。</p> </div> <p>(別紙1 記載例 12/12 : ③参照)</p>	<p>②既設の設計基準対象施設のクラス2配管の管継手に関しては、既工事計画書に記載されていないもので新規制においても主配管に該当する場合は、記載の適正化として「変更前」に管継手を追記し、その旨を注記で記載する。</p> <p>③管にエルボを含む場合は、その厚さが配管と同等以上である旨を注記で記載する。</p> <p>(c) 可搬型主配管</p> <p>①可搬型主配管のうち、可搬型ホースについては、接続する箇所が分かるような名称にするとともに、ホース1本当たりの長さを名称へ記載する。</p> <p>(例) ○○ライン△△用□□m ホース (別紙1 記載例 14/14 : ①参照)</p> <p>②外径が記載できない可搬型主配管の外径については、呼び径を記載し、その旨を注記する。 (別紙1 記載例 14/14 : ②参照)</p> <p>③厚さが記載できない可搬型主配管の厚さは「-」を記載し、その旨を注記する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注記 *1 : メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。</p> </div> <p>(別紙1 記載例 14/14 : ③参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>④可搬型主配管の「個数」,「取付箇所」欄の記載について可搬型主配管の「個数」欄及び「取付箇所」欄への記載方法を,別紙4に示す。なお,詳細な個数の内訳は「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書」に記載する。</p>	<p>・非常用発電装置の常設ホースの記載は,以下とする。</p> <div data-bbox="1926 380 2454 695" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>注記 *1: メーカー仕様によるものとし,「発電用火力設備に関する技術基準を定める省令」に基づき,規定の圧力まで昇圧した後,適切な時間保持したとき,これに耐え,また規定の圧力で点検を行ったとき,漏えいがないものを使用する。</p> </div> <p>④可搬型主配管の「個数」,「取付箇所」欄の記載について可搬型主配管の「個数」欄及び「取付箇所」欄への記載方法を,別紙4に示す。なお,詳細な個数の内訳は「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書」に記載する。</p>	<p>・既認可において,ディーゼル発電機の配管の厚さについては記載されていることから,本内容は記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>規則別表第2の中欄においては、同表の上欄で示している発電用原子炉施設の種類の種類として、原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉格納施設及びその他発電用原子炉の附属施設に区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯蔵槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルタ等の機器等を記載することとされている。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p> <p>また、兼用するもの（複数の設備の機能を持ったものをいう。）、共用するものがある場合には、主たる機能に関する設備の区分で機器等を記載し、その他の機能に関する設備の区分においては、主たる機能に関する設備の区分と機器等の名称及び構成等を記載することで機能を有する範囲を明確にすれば、必ずしもそれぞれの設備区分で同じ記載をする必要はないものとする。ただし、設備区分によって記載すべき機器等の仕様等が異なる場合には、関係する設備区分での記載を網羅する必要があり、どの区分に対応した記載内容かを付記するものとする。</p>	<p>(2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>再処理規則第2条に規定される再処理施設、加工規則第3条の2の2に規定される加工施設の種類の種類、廃棄物管理規則第4条に規定される特定廃棄物管理施設の種類の種類に基づき、区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルタ等の機器等を記載する。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p> <p>また、兼用するもの（複数の設備の機能を持ったものをいう。）、共用するものがある場合には、主たる機能に関する設備の区分で機器等を記載し、その他の機能に関する設備の区分においては、主たる機能に関する設備の区分と機器等の名称及び構成等を記載することで機能を有する範囲を明確にすれば、必ずしもそれぞれの設備区分で同じ記載をする必要はないものとする。ただし、設備区分によって記載すべき機器等の仕様等が異なる場合は、関係する設備区分での記載を網羅する必要があり、どの区分に対応した記載内容かを付記するものとする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>(個別機器等事項)</p> <p>A. 主配管</p> <p>通常運転状態、工学的安全施設の作動状態又は重大事故等時においてその配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる配管をいう。使用済樹脂移送配管のように、流体が常時流れないものも含むこととする。</p> <p>ただし、放射線管理施設の換気設備においては、事故時において公衆並びに中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の従事者等の放射線障害の防止の機能として必要なもので他の設備に属さないものとする。</p> <p>本流が流れる箇所の管継手も主配管とし、要目表に記載する必要があるが、クラス3管、重大事故等クラス3管又は発電用火力設備に関する技術基準を定める省令(平成9年通商産業省令第51号。以下「火力省令」という。)を準用する管に接続する管継手であって、JIS規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、要目表への記載を必要としないこととする。</p> <p>また、クラス1管、クラス2管、重大事故等クラス1管又は重大事故等クラス2管であつて、母管から分岐する主配管に接続するための管台については、要目表に明記することとする。</p> <p>テストライン、ミニマムフローライン、バイパスライン(沸騰水型発電用原子炉施設に係るタービンバイパスラインは除く。)、循環ライン(容器の攪拌を目的とするライン)、ドレンライン、ベントライン及び計装ラインは主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため主配管にはならないが、主配管からの分岐部は主配管の管台として必要に応じて評価対象となるほか、系統図において必要な仕様(外径、厚さ及び材料等)を記載することとする。</p>	<p>(個別機器等事項)</p> <p>A. 主配管</p> <p>通常運転状態、安全上重要な施設の作動状態又は重大事故等時においてその配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる配管をいう。液体廃棄物の移送配管のように、流体が常時流れないものも含むこととする。</p> <p><u>なお、安全上重要な施設がない加工施設においては、事業変更許可申請書において主要配管としている第1類、第2類の配管を主配管とする。</u></p> <p><u>再処理施設にあつては、管継手について、再処理第1種管は、仕様表に注記で記載することとし、それ以外については、JIS規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、仕様表への記載を必要としないこととする。</u></p> <p><u>ただし、既認可と同様に異材継手などのJIS規格外の管継手は仕様表へ記載する。</u></p> <p><u>廃棄物管理施設にあつては、溶接の機種区分に該当する設備がないことから、管継手については仕様表への記載を必要としないこととする。</u></p> <p><u>加工施設にあつては、加工第1種管は仕様表に注記で記載することとし、それ以外については、JIS規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、仕様表への記載を必要としないこととする。</u></p> <p><u>また、管継手の仕様を記載する管であつて、母管から分岐する主配管に接続するための管台については、仕様表に注記で記載することとする。</u></p> <p>テストライン、ミニマムフローライン、バイパスライン、循環ライン(容器の攪拌を目的とするライン)、ドレンライン、ベントライン及び計装ラインは主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため主配管にはならないが、主配管からの分岐部は主配管の管台として必要に応じて評価対象となるほか、系統図において必要な仕様(外径、厚さ及び材料等)を記載することとする。</p>		<p>・管継手の扱いについては、<u>別添3</u>に記載。</p> <p>・発電炉のクラス1,2相当の配管はないことから、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>B. 主要弁 主配管に施設する弁のうち、「原子炉冷却材圧力バウンダリの隔離弁」、「原子炉非常停止信号又は工学的安全施設等起動（作動）信号により直接作動する自動操作弁（原子炉格納容器バウンダリの隔離弁を含む。）」及び「加圧水型発電用原子炉施設の主蒸気逃がし弁（設置許可基準規則第2条第2項第14号の重大事故等対処設備として最終的な熱の逃がし場へ輸送する設備として機能するもの）」をいう。</p> <p>C. 安全弁及び逃がし弁 通常運転状態、工学的安全施設の作動状態又は重大事故等対処設備の作動状態において、容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁又は逃がし弁をいう。</p> <p>D. フィルター 規則別表第2において「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するものに限る。」又は「従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。」とされており、気体状の放射性ヨウ素を除去するよう素（チャコール）フィルター及び放射性微粒子を除去する微粒子（高性能粒子）フィルターを記載する必要がある。 「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」としては、環境へ排気することを想定した系統（循環運転が基本であっても排気筒等へ接続する排気系統を有するものを含む。）で、放射性物質の放出を抑制、低減、又は除去するために設置するものとする。ただし、「従事者等の放射線防護を目的として設置するもの」として給気側に設置するものは「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」には含めない。</p> <p>E. 原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器バウンダリ 原子炉冷却材圧力バウンダリについては技術基準規則に定めるものとし、原子炉格納容器バウンダリについては、原子炉冷却材圧力バウンダリ、原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAG4602-2004日本電気協会）に定めるものをいう。</p>	<p>B. 主要弁 主配管に施設する弁のうち、「可溶性中性子吸収材緊急供給弁」、「重大事故時可溶性中性子吸収材供給弁」をいう。</p> <p>C. 安全弁及び逃し弁 通常運転状態、安全上重要な施設の作動状態または重大事故等対処設備の作動状態において、容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁又は逃し弁をいう。</p> <p>D. フィルター 「環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くする。」目的で、気体状の放射性ヨウ素を除去するよう素フィルタ、放射性微粒子を除去する高性能粒子フィルタ及びミストフィルタを記載する必要がある。 「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」としては、環境へ排気することを想定した系統（循環運転が基本であっても排気筒等へ接続する排気系統を有するものを含む。）で、放射性物質の放出を抑制、低減、又は除去するために設置するものとする。ただし、「従事者等の放射線防護を目的として設置するもの」として給気側に設置するものは「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」には含めない。</p>		<p>・発電炉固有の設備であるため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	当社施設 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
<p>F. 非常用のもの</p> <p>規則別表第1又は別表第2の原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射線管理施設及びその他発電用原子炉の附属施設の非常用電源設備で記載されており、設計基準事故時に機能が要求される機器等にあつては施設ごとに以下のものをいう。また、重大事故等対処設備を構成する機器等も含むものとする。 (下表省略)</p> <p>(個別施設事項) (以降、施設名を記載し、文章は省略)</p> <p>G. 原子炉本体 H. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 I. 原子炉冷却系統施設 J. 計測制御系統施設 K. 放射性廃棄物の廃棄施設 L. 放射線管理施設 M. 原子炉格納施設 N. その他発電用原子炉の附属施設</p>	<p>D. 非常用のもの</p> <p>再処理施設にあつては、計測制御系統施設のうち、事故時のプラント状態の把握機能を有する安全上重要な施設及び中央制御室に設置する換気設備、放射線管理施設のうち、事故時のプラント状態の把握機能を有する安全上重要な施設、その他再処理施設の附属施設のうち、安全上重要な施設へ給電する電気設備及び安全上重要な施設へ冷却水を供給することにより、機能を間接的に果たすもの（非常用電源設備に冷却水を供給する場合はその範囲も含む）をいう。</p> <p>加工施設にあつては、事業変更許可申請書の「その他の加工施設の構造及び設備」の「非常用設備の種類」による。また、重大事故等対処設備を構成する機器等も含むものとする。</p>		<p>・規則別表第1及び別表第2がないものの、ガイドに記載の設備を参考に再処理施設の設備を記載。</p> <p>・仕様表作成に関連しないため、記載しない。</p>

仕様表の記載項目 (機器分類: 建物・構築物)

既設工認		仕様表項目案			発電炉工認						
d. 設計条件及び仕様											
名	称	ガラス固化体貯蔵建屋			名称	変更前	変更後				
設計条件	耐震クラス	—*			名称	貯蔵区域しゃへい ¹⁾	原子炉建屋原子炉棟 ^{*1}				
	放射線防護 (しゃへい体の材料及び寸法)	材料: 普通コンクリート 寸法: 放射線防護の必要厚さを満足するものとする。			種類 (主要構造)	—	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造)				
設計仕様	基礎及び構造の種類	基礎: 鉄筋コンクリート造 (べた基礎) 上部構造: 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造)			主要寸法	壁厚さ	東壁	mm	205 ¹⁾	変更なし	
	主要寸法	南北方向: 47.0m (外壁外面寸法) 東西方向: 48.0m (外壁外面寸法) 階数: 地上2階, 地下2階 高さ: 地上139.9m (冷却空気出口シャフトは, 地上38.7m)					西壁	mm	195 ¹⁾		
		主要材料	鉄筋: JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定めるSD35 鋼材: JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) に定めるSS41及びJIS G 3106 (溶接構造用圧延鋼材) に定めるSM41A, SM50A コンクリート: JASS5Nの規定によるコンクリート 設計基準強度 300kgf/cm ³				南壁	mm	185 ¹⁾		
			添付図 (建物各階平面図, 建物断面図)	第1.-1図～第1.-6図に示す。			北壁	mm	205 ¹⁾		
							天井	mm	190 ¹⁾		
					主要材料	—	鉄筋コンクリート及び鋼材				
					個数	—	1 ¹⁾				
注記 *		ガラス固化体貯蔵建屋は, Aクラスの構築物を有しているため, Aクラスの施設に適用される地震力に対して耐えるように設計する。 また, ガラス固化体貯蔵建屋は, Aクラスの設備を内蔵しているため, 基準地震動S ₁ で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。			注記 1): 既設工認の仕様表に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は平成4年7月6日付け4安第252号にて認可された設工認申請書の添付書類「I-3 放射線による被ばくの防止に関する計算書」による。						
		◎建物・構築物における仕様表記載対象は, 建物・構築物のうち, 安全上重要な建物・構築物 (安重セル, 安重しゃへい等) とする。 ○耐震クラスについては, 主要設備リストにて展開する方針に見直したため, 仕様表記載項目からは削除する。 ○発電炉に記載がある「設計気密度」は居住性に係る要求事項であるため, 居住性が要求されない建物・構築物には適用しない。 ○添付図については, 本文添付図から添付書類に位置付け変更したため, 記載項目を削除する。			注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋[原子炉棟 (2次格納施設), 付属棟]」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には□□と記載。 *3: 公称値を示す。 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和48年4月9日付け47公第12076号にて認可された工事計画書の添付図面「第3-2図 原子炉建物耐力壁断面リスト (No.1)」, 「第3-3図 原子炉建物 耐力壁断面リスト (No.2)」による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼材: JIS G 3101一般構造用圧延鋼材 JIS G 3106溶接構造用圧延鋼材, 鉄筋: JIS G 3112鉄筋コンクリート用棒鋼, セメント: JIS R 5210普通ポルトランドセメントおよび中庸熱セメント JIS R 5213フライアッシュセメント, 骨材: 天然砂および川砂利」と記載。 *6: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *7: 圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉建屋ガス処理系 非常用ガス再循環系, 非常用ガス処理系, 水素濃度抑制系) と兼用する。						

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目（機器分類：建物・構築物）

既設工認		仕様表項目案		発電炉工認						
d. 設計条件及び仕様										
名	称	ガラス固化体貯蔵建屋		名	称	ガラス固化体貯蔵建屋				
設計条件	耐震クラス	—*		種類 (主要構造)	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造）					
	放射線防護 (しゃへい体の材料及び寸法)	材料：普通コンクリート 寸法：放射線防護の必要厚さを満足するものとする。			建屋	南北方向	m 47.0 (外壁外面寸法)			
設計仕様	基礎及び構造の種類	基礎：鉄筋コンクリート造（べた基礎） 上部構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造）		東西方向		m 48.0 (外壁外面寸法)				
	主要寸法	南北方向：47.0m (外壁外面寸法) 東西方向：48.0m (外壁外面寸法) 階数：地上2階，地下2階 高さ：地上139.9m (冷却空気出口シャフトは， 地上38.7m)		高さ		m 地上139.9 (冷却空気出口シャフトは， 地上38.7m)				
設計仕様	主要材料	鉄筋：JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定めるSD35 鋼材：JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) に定めるSS41及びJIS G 3106 (溶接構造用圧延鋼材) に定めるSM41A, SM50A コンクリート：JASS5Nの規定によるコンクリート 設計基準強度 300kgf/cm ³		設計仕様	主要寸法	たて×横	mm ○○			
	添付図 (建物各階平面図，建物断面図)	第1.-1図～第1.-6図に示す。				高さ	mm ○○			
注記		* ガラス固化体貯蔵建屋は，Aクラスの構築物を有しているため，Aクラスの施設に適用される地震力に対して耐えるように設計する。 また，ガラス固化体貯蔵建屋は，Aクラスの設備を内蔵しているため，基準地震動S ₁ で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。	注記		1)：既設工認の仕様表に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は平成4年7月6日付け4安第252号にて認可された設工認申請書の添付書類「I-3 放射線による被ばくの防止に関する計算書」による。 2)：記載の適正化を行う。既設工認には「鉄筋：JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定めるSD35，鋼材：JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) に定めるSS41及びJIS G 3106 (溶接構造用圧延鋼材) に定めるSM41A, SM50A，コンクリート：JASS5Nの規定によるコンクリート設計基準強度 300kgf/cm ³ 」と記載。	貯蔵区域 しゃへい	壁厚さ	東壁	mm 205 ¹⁾	
	注記							*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋[原子炉棟（2次格納施設），付属棟]」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には□□と記載。 *3：公称値を示す。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年4月9日付け47公第12076号にて認可された工事計画書の添付図面「第3-2図 原子炉建物耐力壁断面リスト (No.1)」，「第3-3図 原子炉建物 耐力壁断面リスト (No.2)」による。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼材：JIS G 3101一般構造用圧延鋼材 JIS G 3106溶接構造用圧延鋼材，鉄筋：JIS G 3112鉄筋コンクリート用棒鋼，セメント：JIS R 5210普通ポルトランドセメントおよび中庸熱セメント JIS R 5213フライアッシュセメント，骨材：天然砂および川砂利」と記載。 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。 *7：圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉建屋ガス処理系 非常用ガス再循環系，非常用ガス処理系，水素濃度抑制系）と兼用する。	西壁	mm 195 ¹⁾
									南壁	mm 185 ¹⁾
	北壁							mm 205 ¹⁾		
	天井							mm 190 ¹⁾		
主要材料 (しゃへい)	—	鉄筋コンクリート ²⁾								
個数	—	1 ¹⁾								
				名称	変更前	変更後				
				種類 (主要構造)	—	鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)				
				設計気密度	%/d	□□				
				主要寸法	壁厚さ	たて×横	mm □□			
						高さ	mm □□			
				東壁	mm □□	変更なし				
				西壁	mm □□					
				南壁	mm □□					
				北壁	mm □□					
				材料	—	鉄筋コンクリート及び鋼材 ^{*5}				
				個数	—	1 ^{*6}				

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：容器 (常設/可搬))

(円筒形タンク)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認						
設計条件	名称	-	廃樹脂貯槽A, B (〇〇)	名称	-	〇〇	変更前	変更後	名称	-	復水脱塩系樹脂貯槽*1	変更前	変更後	
	種類	-	たて置円筒形	種類	-	〇〇	〇〇	〇〇	種類	-	たて置円筒形*2	〇〇	〇〇	
	機器の種類	-	再処理第4種容器	設計条件	臨界管理	-	〇〇	〇〇	容量	L/個	〇〇 (6100*3) (陽イオン, 陰イオン樹脂)	〇〇	〇〇	
	標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ²	〇〇	流体の種類	-	〇〇	〇〇	最高使用圧力	MPa	0.69*4	〇〇	〇〇	
		α	αBq/cm ²	〇〇	容量	m ³ /個	〇〇	〇〇	最高使用温度	℃	60	〇〇	〇〇	
		U	g/l	〇〇	仕様	主要寸法	胴内径	mm	〇〇	胴内径	mm	2200*3	〇〇	〇〇
		Pu	g/l	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇 (12*3)	〇〇
	耐震クラス	-	B	鏡板厚さ			mm	〇〇	〇〇	鏡板厚さ (上部鏡板)*5	mm	〇〇 (12*3)	〇〇	〇〇
	流体の種類	-	廃樹脂 (スラリー)	屋根板厚さ			mm	〇〇	〇〇	鏡板の形状に係る寸法 (上部鏡板)	mm	2200*3, *7 (鏡板長径) 550*3, *7 (鏡板短径の2分の1)	〇〇	〇〇
	容量	m ³ /個	〇〇	全高	mm	〇〇	〇〇	鏡板厚さ (下部鏡板)*9	mm	〇〇 (19*3)	〇〇	〇〇		
	最高使用圧力	kPa	〇〇	主要材料	胴板	-	〇〇	〇〇	鏡板の形状に係る寸法 (下部鏡板)	mm	2200*3, *7 (鏡板長径) 550*3, *7 (鏡板短径の2分の1)	〇〇	〇〇	
	最高使用温度	℃	〇〇		鏡板	-	〇〇	〇〇	鏡板厚さ (下部鏡板)*9	mm	〇〇 (19*3)	〇〇	〇〇	
	最高使用温度	℃	〇〇		屋根板	-	〇〇	〇〇	個数	-	〇〇	〇〇	〇〇	
	仕寸法	胴内径	mm	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	-	〇	〇	システム名 (ライン名)	-	〇	〇	〇
		胴板厚さ	mm	〇〇	設置床	-	〇	〇	設置床	-	〇	〇	〇	〇
鏡板厚さ		mm	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	〇	〇	溢水防護上の区画番号	-	〇	〇	〇	〇	
屋根板厚さ		mm	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇	〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇	〇	〇	〇	
全高		mm	〇〇	<p>○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>○臨界管理の項については、ADRBの臨界安全管理表に記載がある設備についてのみ該当する臨界管理に関する情報を記載する。</p> <p>○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していることから、記載項目を削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。)</p> <p>○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。</p> <p>○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。</p> <p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更したため、記載項目を削除する。</p>										
主要材料	胴板	-	〇〇	<p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更したため、記載項目を削除する。</p>										
	鏡板	-	〇〇	<p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更したため、記載項目を削除する。</p>										
	屋根板	-	〇〇	<p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更したため、記載項目を削除する。</p>										
個数	-	2	<p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更したため、記載項目を削除する。</p>											
構造図：第3.2.3.4.2-1図及び第3.2.3.4.2-2図に示す。														
				<p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「樹脂貯槽」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦型円筒圧力式」と記載。</p>										

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認
		<p>*3: 公称値を示す。</p> <p>*4: S I 単位に換算したもの。</p> <p>*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。</p> <p>*6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。</p> <p>*7: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 8 月 30 日付け建発第 98 号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4 復水脱塩系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-4-4 樹脂貯槽 (Ⅲ-1-4-5)」による。</p> <p>*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚 (上部)」と記載。</p> <p>*9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚 (下部)」と記載。</p> <p>*10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚から樹脂入口管台までの高さである「5573」と記載。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。</p> <p>*12: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「S B 4 2 <input type="text"/> <input type="text"/>」と記載。</p> <p>*13: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板」と記載。</p> <p>*14: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「S B 4 2 <input type="text"/> <input type="text"/>」と記載。</p> <p>*15: 記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ミキサ・セトラ①)

○ミキサ・セトラ (核的制限値あり、ジャケット部なし)

既設工認			仕様表項目案				発電炉工認				
計 案 件	名 称	-	プルトリウム洗浄器 (○○)			変更前	変更後	該当する設備なし。 ○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していることから、記載項目を削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。) ○特記事項については、基本設計方針等で展開することから、記載を削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。			
	種 類	-	ミキサ・セトラ			○○					
	機 器 の 種 類	-	再処理第2種容器			ミキサ・セ トラ					
	臨 界 管 理	-	全濃度安全形状寸法管理			臨 界 管 理	○○				
	核的制限値	本 体	最大液厚み	mm	○○	最大液厚み	mm		○○		
		面間最小距離	中性子吸収材最小厚み (カドミウム)	mm	○○	中性子吸収材最小厚み (カドミウム)	mm		○○		
	標準濃度	水	βγ	Bq/cd	○○	補助抽出機/ TBP洗浄器	mm		○○		
			α	αBq/cd	○○						
			U	g/l	○○						
			Pu	g/l	○○						
		有機相	βγ	Bq/cd	○○	流体の種類	-		○○		
			α	αBq/cd	○○						
			U	g/l	○○						
			Pu	g/l	○○						
	耐震クラス	-	B			容 量	m ³ /個		○○		
	流体の種類	-	使用する有機溶媒 ウラナス及びヒドランジを含む硝酸溶液			最高使用圧力	MPa		○○		
	容 量	cd/個	○○			最高使用温度	℃		○○		
	最高使用圧力	MPa	○○			主 要 寸 法	た		て	mm	○○
	最高使用温度	℃	○○				横		mm	○○	
	た	て	mm	○○	高 さ		深 さ		mm	○○	
横	mm	○○	底 板 厚 さ	mm			○○				
高 さ	mm	○○	せ き 高 さ	mm	○○						
底 板 厚 さ	mm	○○	側 壁 板 厚 さ	mm	○○						
せ き 高 さ	mm	○○	ミキサ室ふた板厚さ	mm	○○						
側 壁 板 厚 さ	mm	○○	セトラ室ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm	○○						
ミキサ室ふた板厚さ	mm	○○	中性子吸収材厚さ	mm	○○						
セトラ室ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm	○○	全 高	mm	○○						
中性子吸収材厚さ	mm	○○									
全 高	mm	○○									

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認		仕様表項目案				発電炉工認	
仕様	主要材料	側壁板	-	〇〇			
		ふた板	-	〇〇			
		底板	-	〇〇			
		中性子吸収材	-	〇〇			
		中性子減速材	-	〇〇			
	段	数	-	〇〇			
	個	数	-	〇〇			
	ミキサ	原動機の種類	-		誘導電動機		
		個	数	-	5		
	特記事項	<p>(1) 電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。</p> <p>(2) 下流工程（境界安全管外であるウラン逆抽出器以降）の臨界安全のために、プルトニウム洗浄器の第4段有液相中プルトニウム濃度を監視すること、プルトニウム洗浄器を出る有液相中のプルトニウム濃度を有意量以下に管理する。</p> <p>(3) 中性子減速材の高密度ポリエチレンは中性子吸収材のカドミウムとともにステンレス鋼で被覆する。</p>					
構造図： 第3.2.4.2-14図に示す。							
(つづき)							
仕様	主要材料	側壁板	-	〇〇			
		ふた板	-	〇〇			
		底板	-	〇〇			
		中性子吸収材	-	〇〇			
		中性子減速材	-	〇〇			
		段	数	-	〇〇		
	ミキサ	個	数	-	〇〇		
			原動機の種類	-	〇〇		
		個	数	-	〇〇		
			原動機の種類	-	〇〇		

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ミキサ・セトラ②)

○ミキサ・セトラ (核的制限値なし、ジャケット部なし)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
(1/2)								該当する設備なし。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していることから、記載項目を削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。) ○特記事項については、基本設計方針等で展開することから、記載を削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p> </div>					
名称	-	ウラン逆抽出器 (○○)		名称	-	変更前	変更後			○○			
種類	-	ミキサ・セトラ		種類	-	ミキサ・セトラ							
設計標準濃度	機器の種類	-	再処理第4種容器	設計条件	流体の種類	-	○○						
		水相	βγ		Bq/cd	○○	容量			m ³ /個	○○		
			α		αBq/cd	○○	最高使用圧力			MPa	○○		
	U		g/l		○○	最高使用温度	℃			○○			
	Pu		g/l		○○	主要寸法	たて			mm	○○		
	有機相		βγ		Bq/cd		○○			横	mm	○○	
			α		αBq/cd		○○			高さ	深さ	mm	○○
		U	g/l		○○		底板厚さ				mm	○○	
	Pu	g/l	○○		側壁板厚さ	mm	○○						
	側壁板厚さ	mm	○○		ミキサ室ふた板厚さ	mm	○○						
セトラ室ふた板厚さ(内側部/外側部)	mm	○○	主要材料	側壁板	-	○○							
耐震クラス	-	B		ふた板	-	○○							
流体の種類	-	ウランを含む有機溶媒 逆抽出用硝酸 硝酸ウラン溶液 有機溶媒		底板	-	○○							
容量	m ³ /個	○○		段数	-	○○							
最高使用圧力	MPa	○○		個数	-	○○							
最高使用温度	℃	○○		ミキサ	原動機の種類	-	○○						
					個数	-	○○						

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認		仕様表項目案		発電炉工認		
(2/2)						
仕様	た	mm	〇〇			
	横	mm	〇〇			
	高さ	深	mm	〇〇		
		底板厚さ	mm	〇〇		
	寸法	側壁板厚さ	mm	〇〇		
		ミキサ室ふた板厚さ	mm	〇〇		
		セトラ室ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm	〇〇 / 〇〇		
	全	高	mm	〇〇		
		側壁板	-	〇〇		
	主要材料	ふた板	-	〇〇		
		底板	-	〇〇		
	段	数	-	〇〇		
		数	-	1		
	ミキサ	原動機の種類	-	誘導電動機		
個		-	8			
特記事項		(1) 第8段の水相温度を監視することによって化学的制限値(74℃)以下に保つ。 (2) 電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。				
構造図：3.2.3.2-7図に示す。						

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ミキサ・セトラ③)

○ミキサ・セトラ (核的制限値なし、ジャケット部あり)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認			
(1/2)								該当する設備なし。			
名	称	-	第1洗浄器 (〇〇)	名	称	-	〇〇				
種	類	-	ミキサ・セトラ	種	類	-	ミキサセトラ				
設 計 条 件	機器の種類	本 体	-	再処理第4種容器	流体の種類	本 体	-	〇〇			
		ジャケット部	-	—		ジャケット部	-	〇〇			
	水相	βγ	Bq/cf	〇〇	容 量	m ³ /個		〇〇			
		α	αBq/cf	〇〇		本 体	最高使用圧力	MPa	〇〇		
		U	g/l	〇〇			最高使用温度	℃	〇〇		
		Pu	g/l	〇〇		ジャケット部	最高使用圧力	MPa	〇〇		
	有機相	βγ	Bq/cf	〇〇	最高使用温度		℃	〇〇			
		α	αBq/cf	〇〇							
		U	g/l	〇〇							
		Pu	g/l	〇〇							
	耐 震 ク ラ ス	-	B [*] 11								
	流体の種類	本 体	-	有機溶媒 炭酸ナトリウム 洗浄廃液							
		ジャケット部	-	温 水							
	容 量	m ³ /個		〇〇							
本 体	最高使用圧力	MPa	〇〇								
	最高使用温度	℃	〇〇								
ジャケット部	最高使用圧力	MPa	〇〇 (〇) 22								
	最高使用温度	℃	〇〇								

○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。
 ○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していること記載項目から削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。)
 ○特記事項については、基本設計方針等にて展開することから記載項目を削除する。
 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更したため、記載項目を削除する。

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認				
仕様寸法	主本体	た	て	mm	〇〇							
		横		mm	〇〇							
		高さ	深	さ	mm	〇〇						
			底	板厚さ	mm	〇〇						
		側	壁板厚さ	mm	〇〇							
		ミキサ室	ふた板厚さ	mm	〇〇							
		セトラ室	ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm	〇〇 / 〇〇							
		ジャケ	側	壁板厚さ	mm	〇〇						
			底	板厚さ	mm	〇〇						
		ミキサ・セトラ	全高	mm	〇〇							
	全	高	mm	〇〇								
	主要材料	主本体	側	壁板	-	〇〇						
			ふ	た板	-	〇〇						
		ジャケ	側	壁板	-	〇〇						
			底	板	-	〇〇						
	個	数	-	1								
	ミキサ	原	動機の種類	-	誘導電動機							
		個	数	-	4							
	特記事項		(1) 電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。 (2) 第1段の水相温度を監視することによって化学的制限値(74℃)以下に保つ。									
	構造図		第3.2.6.2.1.1-1図に示す。									
注記		1) : B* は溶液の放射線分解により発生する水素の爆発を適切に防止するための水素誘気機能を維持するため、構造強度上Aオクラスとする施設を示す。 2) : 単位は (kg/cm ²)。										
仕様寸法	主要材料	た		て	mm	〇〇						
		横			mm	〇〇						
		高さ	深	さ	mm	〇〇						
			底	板厚さ	mm	〇〇						
		側	壁板厚さ	mm	〇〇							
		ミキサ室	ふた板厚さ	mm	〇〇							
		セトラ室	ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm	〇〇							
		ジャケ	側	壁板厚さ	mm	〇〇						
			底	板厚さ	mm	〇〇						
		ミキサセトラ	全高	mm	〇〇							
全	高	mm	〇〇									
主要材料	主本体	側	壁板	-	〇〇							
		ふ	た板	-	〇〇							
	ジャケ	側	壁板	-	〇〇							
		底	板	-	〇〇							
個	数	-	〇〇									
ミキサ	原	動機の種類	-	〇〇								
	個	数	-	〇〇								

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：一般のガス系の塔)

既設工認			仕様表項目案				発電炉工認	
設計 条件	名称	ルテニウム吸着塔A, B (〇〇)	名称	-	変更前	〇〇	<p>○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していることから、記載項目を削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。) ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>	
	種類	たて置円筒形 (充てん塔)	種類	-	〇〇			
	機器の種類	再処理第2種容器	流体の種類	-	〇〇			
	標準濃度	βγ	Bq/cm ³ [normal]	〇〇				
		α	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇				
		Pu	g/m ³ [normal]	〇〇				
	耐震クラス	A	最高使用圧力	MPa	〇〇			
	流体の種類	廃ガス	最高使用温度	℃	〇〇			
	最高使用圧力	kPa	〇〇					
	最高使用温度	℃	〇〇					
	容量	m ³ /h/個[normal]	〇〇					
	ルテニウム除去効率	%	〇〇以上					
	主要寸法	胴内径	mm	〇〇				
		胴板厚さ	mm	〇〇				
		鏡板厚さ	mm	〇〇				
平板厚さ		mm	〇〇					
主要材料	全高	mm	〇〇					
	胴板	-	〇〇					
	鏡板	-	〇〇					
	平板	-	〇〇					
	フランジ	-	〇〇					
ろ材	-	〇〇						
個数	2 (1個/系列×2系列 内1個/系列×1系列予備)							
<p>構造図：第3.2.1.3-7図に示す。 注記1)：単位は (kg/cm³)</p>			容量	m ³ /h/個 [normal]	〇〇			
			ルテニウム除去効率	%	〇〇以上			
			主要寸法	胴内径	mm	〇〇		
				胴板厚さ	mm	〇〇		
				鏡板厚さ	mm	〇〇		
				平板厚さ	mm	〇〇		
			主要材料	全高	mm	〇〇		
				胴板	-	〇〇		
				鏡板	-	〇〇		
				平板	-	〇〇		
				フランジ	-	〇〇		
			ろ材	-	〇〇			
			個数	-	〇〇			

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 洗浄塔)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認				
設計 条件 仕様	名称		—	洗浄塔(〇〇)		名称	—	変更前	〇〇	変更後	<p>○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していること記載項目から削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。) ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>	
	種類		—	たて置円筒形(棚段塔)			種類	—	〇〇			
	機器の種類		—	再処理第4種容器		設計 条件		流体の種類	—	〇〇		
	標準濃度	廃ガス	$\beta\gamma$	Bq/cm ³ [normal]	〇〇		容量	m ³ /h/個 [normal]	〇〇			
			α	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇			最高使用圧力	MPa	〇〇		
			Pu	g/m ³ [normal]	〇〇				最高使用温度	℃		〇〇
		洗浄 廃液	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇		仕様 寸法	上部胴内径		mm		〇〇
			α	α Bq/cm ³	〇〇			本体胴内径	mm	〇〇		
			Pu	g/l	〇〇	上部胴板厚さ		mm	〇〇			
	耐震クラス		—	A		本体胴板厚さ		mm	〇〇			
	流体の種類		—	廃ガス, 洗浄廃液		上部胴上部鏡板厚さ		mm	〇〇			
	容量		m ³ /h/個[normal]	〇〇		円すい胴板厚さ		mm	〇〇			
	最高使用圧力		kPa	(内圧) 〇〇 ¹⁾ (外圧) 〇〇 ¹⁾		本体胴下部鏡板厚さ	mm	〇〇				
	最高使用温度		℃	〇〇		全高	mm	〇〇				
	主要 寸法	上部胴内径		mm	〇〇	主要 材料	上部胴上部鏡板	—	〇〇			
		本体胴内径		mm	〇〇		上部胴板	—	〇〇			
		上部胴板厚さ		mm	〇〇		円すい胴板	—	〇〇			
		本体胴板厚さ		mm	〇〇		本体胴板	—	〇〇			
		上部胴上部鏡板厚さ		mm	〇〇		本体胴下部鏡板	—	〇〇			
		円すい胴板厚さ		mm	〇〇		個数	—	〇〇			
本体胴下部鏡板厚さ		mm	〇〇									
全高		mm	〇〇									
主要 材料	上部胴上部鏡板		—	〇〇								
	上部胴板		—	〇〇								
	円すい胴板		—	〇〇								
	本体胴板		—	〇〇								
	本体胴下部鏡板		—	〇〇								
個数		—	1									

構造図: 第3.2.1.4.8-1図に示す。
 注記1): 単位は (kg/cm³)

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 凝縮器)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																	
(1/2)								申請対象なし																																																																																																																																																																																	
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td colspan="3">凝縮器A, B (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="3">たて置直管式</td> </tr> <tr> <td>機器の種類</td> <td>管側</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>胴側</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>胴側</td> <td colspan="2">再処理第2種容器</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">標準濃度</td> <td rowspan="3">廃ガス</td> <td>$\beta\gamma$</td> <td>Bq/cm³[normal]</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>α</td> <td>α Bq/cm³[normal]</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>g/m³[normal]</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">回収濃度</td> <td>Pu</td> <td>g/m³[normal]</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>Kr-85</td> <td>Bq/cm³[normal]</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>$\beta\gamma$</td> <td>Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>α</td> <td>α Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Pu</td> <td>g/l</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td colspan="3">—</td> <td>A</td> </tr> </table>				名称	凝縮器A, B (〇〇)			種類	たて置直管式			機器の種類	管側	—			胴側	—			胴側	再処理第2種容器		標準濃度	廃ガス	$\beta\gamma$	Bq/cm ³ [normal]	〇〇	α	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇	U	g/m ³ [normal]	〇〇	回収濃度	Pu	g/m ³ [normal]	〇〇	Kr-85	Bq/cm ³ [normal]	〇〇	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇		α	α Bq/cm ³	〇〇		Pu	g/l	〇〇	耐震クラス	—			A	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>—</td> <td>凝縮器 A, B</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">設計条件</td> <td>管側</td> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴側</td> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">容量 (設計熱交換量)</td> <td>kW/個</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管側</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴側</td> <td>最高使用圧力</td> <td>kPa</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱面積</td> <td>m²/個</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">仕様</td> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td rowspan="2">管側</td> <td>鏡内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴側</td> <td>胴内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱管外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱管厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td> <td colspan="2">管側鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">胴側鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td colspan="2">系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </table>				名称		—	凝縮器 A, B		種類		—	〇〇		設計条件	管側	流体の種類	—	〇〇	胴側	流体の種類	—	〇〇	容量 (設計熱交換量)		kW/個	〇〇		管側	最高使用圧力	MPa	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇		胴側	最高使用圧力	kPa	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇		伝熱面積		m ² /個	〇〇		仕様	主要寸法	管側	鏡内径	mm	〇〇	鏡板厚さ	mm	〇〇	胴側	胴内径	mm	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇	管板厚さ		mm	〇〇		伝熱管外径		mm	〇〇		伝熱管厚さ		mm	〇〇		全高		mm	〇〇		材料	管側鏡板		—	〇〇	胴側鏡板		—	〇〇	管板		—	〇〇	伝熱管		—	〇〇	個数		—	〇〇		取付箇所	系統名 (ライン名)		—	〇〇	設置床		—	〇〇	溢水防護上の区画番号		—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇	<p>〇耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 〇標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していることから、記載項目を削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。) 〇溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。 〇構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>	
名称	凝縮器A, B (〇〇)																																																																																																																																																																																								
種類	たて置直管式																																																																																																																																																																																								
機器の種類	管側	—																																																																																																																																																																																							
	胴側	—																																																																																																																																																																																							
	胴側	再処理第2種容器																																																																																																																																																																																							
標準濃度	廃ガス	$\beta\gamma$	Bq/cm ³ [normal]	〇〇																																																																																																																																																																																					
		α	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇																																																																																																																																																																																					
		U	g/m ³ [normal]	〇〇																																																																																																																																																																																					
	回収濃度	Pu	g/m ³ [normal]	〇〇																																																																																																																																																																																					
		Kr-85	Bq/cm ³ [normal]	〇〇																																																																																																																																																																																					
		$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																																																					
	α	α Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																																																						
	Pu	g/l	〇〇																																																																																																																																																																																						
耐震クラス	—			A																																																																																																																																																																																					
名称		—	凝縮器 A, B																																																																																																																																																																																						
種類		—	〇〇																																																																																																																																																																																						
設計条件	管側	流体の種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																					
	胴側	流体の種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																					
	容量 (設計熱交換量)		kW/個	〇〇																																																																																																																																																																																					
	管側	最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																																					
		最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																																					
	胴側	最高使用圧力	kPa	〇〇																																																																																																																																																																																					
最高使用温度		℃	〇〇																																																																																																																																																																																						
伝熱面積		m ² /個	〇〇																																																																																																																																																																																						
仕様	主要寸法	管側	鏡内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																				
			鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																				
		胴側	胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																				
			胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																				
	管板厚さ		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	伝熱管外径		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	伝熱管厚さ		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	全高		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	材料	管側鏡板		—	〇〇																																																																																																																																																																																				
		胴側鏡板		—	〇〇																																																																																																																																																																																				
管板		—	〇〇																																																																																																																																																																																						
伝熱管		—	〇〇																																																																																																																																																																																						
個数		—	〇〇																																																																																																																																																																																						
取付箇所	系統名 (ライン名)		—	〇〇																																																																																																																																																																																					
	設置床		—	〇〇																																																																																																																																																																																					
	溢水防護上の区画番号		—	〇〇																																																																																																																																																																																					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇																																																																																																																																																																																					
<table border="1"> <tr> <td>管側</td> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td>冷却水</td> </tr> <tr> <td>胴側</td> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td>廃ガス, 回収硝酸</td> </tr> <tr> <td colspan="2">容量 (設計熱交換量)</td> <td>kW/個</td> <td>〇〇 " (〇〇) "</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管側</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇 (〇〇) "</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴側</td> <td>最高使用圧力</td> <td>kPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱面積</td> <td>m²/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">仕様寸法</td> <td rowspan="2">管側</td> <td>鏡内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴側</td> <td>胴内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱管外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱管厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様材料</td> <td>管側鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴側鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>管板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>伝熱管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> </table>				管側	流体の種類	—	冷却水	胴側	流体の種類	—	廃ガス, 回収硝酸	容量 (設計熱交換量)		kW/個	〇〇 " (〇〇) "	管側	最高使用圧力	MPa	〇〇 (〇〇) "	最高使用温度	℃	〇〇	胴側	最高使用圧力	kPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	伝熱面積		m ² /個	〇〇	仕様寸法	管側	鏡内径	mm	〇〇	鏡板厚さ	mm	〇〇	胴側	胴内径	mm	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇	管板厚さ		mm	〇〇	伝熱管外径		mm	〇〇	伝熱管厚さ		mm	〇〇	全高		mm	〇〇	仕様材料	管側鏡板	—	〇〇	胴側鏡板	—	〇〇	管板	—	〇〇	伝熱管	—	〇〇	個数	—	2																																																																																																									
管側	流体の種類	—	冷却水																																																																																																																																																																																						
胴側	流体の種類	—	廃ガス, 回収硝酸																																																																																																																																																																																						
容量 (設計熱交換量)		kW/個	〇〇 " (〇〇) "																																																																																																																																																																																						
管側	最高使用圧力	MPa	〇〇 (〇〇) "																																																																																																																																																																																						
	最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																																						
胴側	最高使用圧力	kPa	〇〇																																																																																																																																																																																						
	最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																																						
伝熱面積		m ² /個	〇〇																																																																																																																																																																																						
仕様寸法	管側	鏡内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
		鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	胴側	胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
		胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	管板厚さ		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	伝熱管外径		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	伝熱管厚さ		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
	全高		mm	〇〇																																																																																																																																																																																					
仕様材料	管側鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																						
	胴側鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																						
	管板	—	〇〇																																																																																																																																																																																						
	伝熱管	—	〇〇																																																																																																																																																																																						
個数	—	2																																																																																																																																																																																							
(2/2)																																																																																																																																																																																									
<p>構造図: 第3.2.1.1 - 1 図に示す。</p> <p>注記 1): NO_x 吸収塔A, B (〇〇) との合計値。 NO_x 吸収塔A, Bは 〇〇 kW/個 (〇〇 kcal/h/個) である。 2): 単位は (kcal/h/個) 3): 単位は (kg/cm³)</p>																																																																																																																																																																																									

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認			
(2/2)				(つづき)							
仕様	主要寸法	管側	胴内径	mm	〇〇		管側	胴内径	mm	〇〇	
			円すい胴板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	
			鏡板厚さ	mm	〇〇			鏡板厚さ	mm	〇〇	
		胴側	胴内径	mm	〇〇		胴側	胴内径	mm	〇〇	
			胴板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	
			ベローズ厚さ	mm	〇〇			ベローズ厚さ	mm	〇〇	
		管板	管板厚さ	mm	〇〇		管板	管板厚さ	mm	〇〇	
			胴板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	
			伝熱管外径	mm	〇〇			伝熱管外径	mm	〇〇	
			伝熱管厚さ	mm	〇〇			伝熱管厚さ	mm	〇〇	
			全高	mm	〇〇			全高	mm	〇〇	
	主要材料	管側	円すい胴板	—	〇〇	4)	管側	円すい胴板	—	〇〇	
			鏡板	—	〇〇	4)		鏡板	—	〇〇	
		胴側	胴板	—	〇〇		胴側	胴板	—	〇〇	
			ベローズ	—	〇〇			ベローズ	—	〇〇	
		管板	—	〇〇	4)		管板	—	〇〇		
		伝熱管	—	〇〇	4)		伝熱管	—	〇〇		
	個数	—	1			個数	—	〇〇			
特記事項		(1)電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。									
構造図		第3.2.6.1.1-3図に示す。									
注記		1) : 単位は (kcal/h/個)。 2) : 単位は (kg/cm)。 3) : 単位は (kPa)。 4) : 添付書類V-1別添5 高食代に関する設計の基本方針(第4回申請)に示すSA級。									
仕様	主要寸法	管側	胴内径	mm	〇〇		管側	胴内径	mm	〇〇	
			円すい胴板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	
			鏡板厚さ	mm	〇〇			鏡板厚さ	mm	〇〇	
		胴側	胴内径	mm	〇〇		胴側	胴内径	mm	〇〇	
			胴板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	
			ベローズ厚さ	mm	〇〇			ベローズ厚さ	mm	〇〇	
		管板	管板厚さ	mm	〇〇		管板	管板厚さ	mm	〇〇	
			胴板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇	
			伝熱管外径	mm	〇〇			伝熱管外径	mm	〇〇	
			伝熱管厚さ	mm	〇〇			伝熱管厚さ	mm	〇〇	
			全高	mm	〇〇			全高	mm	〇〇	
	主要材料	管側	円すい胴板	—	〇〇		管側	円すい胴板	—	〇〇	
			鏡板	—	〇〇			鏡板	—	〇〇	
		胴側	胴板	—	〇〇		胴側	胴板	—	〇〇	
			ベローズ	—	〇〇			ベローズ	—	〇〇	
		管板	—	〇〇			管板	—	〇〇		
		伝熱管	—	〇〇			伝熱管	—	〇〇		
	個数	—	〇〇			個数	—	〇〇			

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：蒸発缶①-2)

○サーモサイフォン型蒸発缶 (気液分離部)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																																																																																	
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="2">蒸発缶A (気液分離部) (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">たて置円筒形 (熱サイホン式減圧蒸発方式)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">機器の種類</td> <td>蒸発缶</td> <td>—</td> <td>再処理第2種容器</td> </tr> <tr> <td>上部連絡管</td> <td>—</td> <td>再処理第2種管</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管</td> <td>—</td> <td>再処理第2種管</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">標準濃度</td> <td>$\beta\gamma$</td> <td>Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>α</td> <td>α Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>Pu</td> <td>g/l</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>—</td> <td colspan="2">B</td> </tr> <tr> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">使用済硝酸濃縮液</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">容量</td> <td>設計蒸発量</td> <td>kg/h/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>処理容量</td> <td>m³/h</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">(外圧) 〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">主要寸法</td> <td rowspan="10">気液分離部</td> <td>本体胴内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>本体胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>本体胴上部鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>円すい胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴下部鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">連絡管</td> <td>上部連絡管外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>上部連絡管厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">主要材料</td> <td rowspan="6">気液分離部</td> <td>本体胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>本体胴上部鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>円すい胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴下部鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>連絡管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">連絡管</td> <td>上部連絡管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">1</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="3">(1)電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。</td> </tr> <tr> <td>構造図</td> <td colspan="3">第3.2.6.1.1-3図に示す。</td> </tr> <tr> <td>注記</td> <td colspan="3">1) : 添付書類V-1別添5 腐食代に関する設計の基本方針 (第4回申請) に示すSA級。</td> </tr> </table>				名称	—	蒸発缶A (気液分離部) (〇〇)		種類	—	たて置円筒形 (熱サイホン式減圧蒸発方式)		機器の種類	蒸発缶	—	再処理第2種容器	上部連絡管	—	再処理第2種管	下部連絡管	—	再処理第2種管	標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇	α	α Bq/cm ³	〇〇	Pu	g/l	〇〇	耐震クラス	—	B		流体の種類	—	使用済硝酸濃縮液		容量	設計蒸発量	kg/h/個	〇〇	処理容量	m ³ /h	〇〇	最高使用圧力	MPa	(外圧) 〇〇		最高使用温度	℃	〇〇		主要寸法	気液分離部	本体胴内径	mm	〇〇	本体胴板厚さ	mm	〇〇	本体胴上部鏡板厚さ	mm	〇〇	円すい胴板厚さ	mm	〇〇	下部胴内径	mm	〇〇	下部胴板厚さ	mm	〇〇	下部胴下部鏡板厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	連絡管	上部連絡管外径	mm	〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇	主要材料	気液分離部	本体胴板	—	〇〇	本体胴上部鏡板	—	〇〇	円すい胴板	—	〇〇	下部胴板	—	〇〇	下部胴下部鏡板	—	〇〇	連絡管	—	〇〇	連絡管	上部連絡管	—	〇〇	下部連絡管	—	〇〇	個数	—	1		特記事項	(1)電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。			構造図	第3.2.6.1.1-3図に示す。			注記	1) : 添付書類V-1別添5 腐食代に関する設計の基本方針 (第4回申請) に示すSA級。			<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">臨界管理</td> <td rowspan="2">核的制限値</td> <td>気液分離部下部、液抜き部</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>気液分離部上部</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">流体の種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">容量</td> <td>設計蒸発量</td> <td>kg/h/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>処理容量</td> <td>m³/h</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">主要寸法</td> <td rowspan="10">気液分離部</td> <td>本体胴内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>本体胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>本体胴上部鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>円すい胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴内径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴下部鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">連絡管</td> <td>上部連絡管外径</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>上部連絡管厚さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管外径</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管厚さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">主要材料</td> <td rowspan="6">気液分離部</td> <td>本体胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>本体胴上部鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>円すい胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴下部鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>連絡管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">連絡管</td> <td>上部連絡管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部連絡管</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> </table>				名称	—	〇〇		種類	—	〇〇		臨界管理	核的制限値	気液分離部下部、液抜き部	mm	〇〇	気液分離部上部	mm	〇〇	流体の種類		—	〇〇	容量	設計蒸発量	kg/h/個	〇〇	処理容量	m ³ /h	〇〇	最高使用圧力		MPa	〇〇	最高使用温度		℃	〇〇	主要寸法	気液分離部	本体胴内径	mm	〇〇	本体胴板厚さ	mm	〇〇	本体胴上部鏡板厚さ	mm	〇〇	円すい胴板厚さ	mm	〇〇	下部胴内径	mm	〇〇	下部胴板厚さ	mm	〇〇	下部胴下部鏡板厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	連絡管	上部連絡管外径	—	〇〇	上部連絡管厚さ	—	〇〇	下部連絡管外径	—	〇〇	下部連絡管厚さ	—	〇〇	主要材料	気液分離部	本体胴板	—	〇〇	本体胴上部鏡板	—	〇〇	円すい胴板	—	〇〇	下部胴板	—	〇〇	下部胴下部鏡板	—	〇〇	連絡管	—	〇〇	連絡管	上部連絡管	—	〇〇	下部連絡管	—	〇〇	個数	—	〇〇		<p>○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していること記載項目から削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。)</p> <p>○臨界管理および核的制限値については、ADRBの臨界安全管理表に記載の設備のみ記載する。</p> <p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p> <p>○特記事項については、基本設計方針等にて展開するため、記載は削除する。</p>			
				名称	—	蒸発缶A (気液分離部) (〇〇)																																																																																																																																																																																																																																																			
種類	—	たて置円筒形 (熱サイホン式減圧蒸発方式)																																																																																																																																																																																																																																																							
機器の種類	蒸発缶	—	再処理第2種容器																																																																																																																																																																																																																																																						
	上部連絡管	—	再処理第2種管																																																																																																																																																																																																																																																						
	下部連絡管	—	再処理第2種管																																																																																																																																																																																																																																																						
標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
	α	α Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
	Pu	g/l	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
耐震クラス	—	B																																																																																																																																																																																																																																																							
流体の種類	—	使用済硝酸濃縮液																																																																																																																																																																																																																																																							
容量	設計蒸発量	kg/h/個	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
	処理容量	m ³ /h	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
最高使用圧力	MPa	(外圧) 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																							
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																							
主要寸法	気液分離部	本体胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		本体胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		本体胴上部鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		円すい胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴下部鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		連絡管	上部連絡管外径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																				
			上部連絡管厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																				
下部連絡管外径	mm		〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
下部連絡管厚さ	mm		〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
主要材料	気液分離部	本体胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		本体胴上部鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		円すい胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴下部鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		連絡管	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
連絡管	上部連絡管	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
	下部連絡管	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
個数	—	1																																																																																																																																																																																																																																																							
特記事項	(1)電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。																																																																																																																																																																																																																																																								
構造図	第3.2.6.1.1-3図に示す。																																																																																																																																																																																																																																																								
注記	1) : 添付書類V-1別添5 腐食代に関する設計の基本方針 (第4回申請) に示すSA級。																																																																																																																																																																																																																																																								
名称	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																							
種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																							
臨界管理	核的制限値	気液分離部下部、液抜き部	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		気液分離部上部	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
流体の種類		—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
容量	設計蒸発量	kg/h/個	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
	処理容量	m ³ /h	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
最高使用圧力		MPa	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
最高使用温度		℃	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
主要寸法	気液分離部	本体胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		本体胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		本体胴上部鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		円すい胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴下部鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		連絡管	上部連絡管外径	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																				
			上部連絡管厚さ	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																				
下部連絡管外径	—		〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
下部連絡管厚さ	—		〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
主要材料	気液分離部	本体胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		本体胴上部鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		円すい胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		下部胴下部鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
		連絡管	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																					
連絡管	上部連絡管	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
	下部連絡管	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																						
個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																							

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ポンプ・圧縮機類 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																																								
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">冷却水循環ポンプA, B, C, D (○○, ○○, ○○, ○○)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">うず巻形</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> <td>As</td> </tr> <tr> <td>仕様</td> <td>定格容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仕様</td> <td>定格揚程</td> <td>m</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仕様</td> <td>主要材料</td> <td>ケーシング</td> <td>-</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>4 (内2個予備)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特記事項</td> <td colspan="2">(1)本設備は非常用所内電源系統に接続する。</td> </tr> </table> <p>構造図: 第3.2.2.2.2-3図に示す。</p>				名称	-	冷却水循環ポンプA, B, C, D (○○, ○○, ○○, ○○)		種類	-	うず巻形		設計条件	耐震クラス	-	As	仕様	定格容量	m ³ /h/個	○○	仕様	定格揚程	m	○○	主要寸法	全高	mm	○○	仕様	主要材料	ケーシング	-	○○	個数	-	4 (内2個予備)	特記事項		(1)本設備は非常用所内電源系統に接続する。		<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">冷却水循環ポンプA, B</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設計条件</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>○○</td> <td>変更なし (○○¹⁾)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>○○</td> <td>変更なし (○○¹⁾)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仕様</td> <td>定格容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定格揚程</td> <td>m</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>○○²⁾</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>○○²⁾</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>Mm</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>ケーシング</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">原動機</td> <td>種類</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> </table>				名称	-	冷却水循環ポンプA, B		種類	-	○○		設計条件	最高使用圧力	MPa	○○	変更なし (○○ ¹⁾)	最高使用温度	℃	○○	変更なし (○○ ¹⁾)	仕様	定格容量	m ³ /h/個	○○		定格揚程	m	○○		仕様	主要寸法	吸込口径	mm	○○ ²⁾	吐出口径	mm	○○ ²⁾	ケーシング厚さ	mm	○○	横	mm	○○	全高	Mm	○○		主要材料	ケーシング	-	○○		個数	-	○○			取付箇所	系統名 (ライン名)	-	○○		設置床	-	○○		溢水防護上の区画番号	-	○○		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○		原動機	種類	-	○○		出力	kW/個	○○		個数	-	○○		取付箇所	-	○○		<p>3 原子炉冷却材再循環設備に係る次の事項</p> <p>3.1 原子炉冷却材再循環系</p> <p>(1) ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 慣性定数又は回転速度半減時間, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数並びに原動機の種類, 出力及び個数 (インターナルポンプにあっては, 原動機の冷却方法及び定格回転速度を付記すること。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">再循環系ポンプ**</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個**</td> <td colspan="2">うず巻形*1</td> </tr> <tr> <td>揚程</td> <td>m</td> <td colspan="2">8100 以上*6 (8100*3)</td> </tr> <tr> <td>慣性定数</td> <td>s</td> <td colspan="2">245.4 以上*6 (245.4*3)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">4.7 以上*6 (5*3, *6)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">11.38*6</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ボンプ主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>302*6</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>552.45*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>552.45*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー厚さ</td> <td>mm</td> <td>78.8*6 (82.6*3, *6)</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>1168.4*3, *6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>ケーシング高さ</td> <td>mm</td> <td>965.2*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>-</td> <td>SCS14A 相当</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>-</td> <td>SCS14A 相当</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原動機</td> <td>スタッドボルト</td> <td>-</td> <td>SNB23-4 相当</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td colspan="2">6711*7</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td colspan="2">2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「たて軸単段うず巻型」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「T/hr」と記載。 *3: 公称値を示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。 *6: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *7: S I 単位に換算したもの。</p>				名称		変更前	変更後	種類	-	再循環系ポンプ**		容量	m ³ /h/個**	うず巻形*1		揚程	m	8100 以上*6 (8100*3)		慣性定数	s	245.4 以上*6 (245.4*3)		最高使用圧力	MPa	4.7 以上*6 (5*3, *6)		最高使用温度	℃	11.38*6		ボンプ主要寸法	吸込口径	mm	302*6	吐出口径	mm	552.45*3, *6	ケーシング厚さ	mm	552.45*3, *6	ケーシングカバー厚さ	mm	78.8*6 (82.6*3, *6)	横	mm	1168.4*3, *6	材料	ケーシング高さ	mm	965.2*3, *6	ケーシング	-	SCS14A 相当	ケーシングカバー	-	SCS14A 相当	原動機	スタッドボルト	-	SNB23-4 相当	個数	-	2	種類	-	誘導電動機		出力	kW/個	6711*7		個数	-	2	
名称	-	冷却水循環ポンプA, B, C, D (○○, ○○, ○○, ○○)																																																																																																																																																																																																														
種類	-	うず巻形																																																																																																																																																																																																														
設計条件	耐震クラス	-	As																																																																																																																																																																																																													
仕様	定格容量	m ³ /h/個	○○																																																																																																																																																																																																													
仕様	定格揚程	m	○○																																																																																																																																																																																																													
	主要寸法	全高	mm	○○																																																																																																																																																																																																												
仕様	主要材料	ケーシング	-	○○																																																																																																																																																																																																												
	個数	-	4 (内2個予備)																																																																																																																																																																																																													
特記事項		(1)本設備は非常用所内電源系統に接続する。																																																																																																																																																																																																														
名称	-	冷却水循環ポンプA, B																																																																																																																																																																																																														
種類	-	○○																																																																																																																																																																																																														
設計条件	最高使用圧力	MPa	○○	変更なし (○○ ¹⁾)																																																																																																																																																																																																												
	最高使用温度	℃	○○	変更なし (○○ ¹⁾)																																																																																																																																																																																																												
仕様	定格容量	m ³ /h/個	○○																																																																																																																																																																																																													
	定格揚程	m	○○																																																																																																																																																																																																													
仕様	主要寸法	吸込口径	mm	○○ ²⁾																																																																																																																																																																																																												
		吐出口径	mm	○○ ²⁾																																																																																																																																																																																																												
		ケーシング厚さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																												
		横	mm	○○																																																																																																																																																																																																												
	全高	Mm	○○																																																																																																																																																																																																													
主要材料	ケーシング	-	○○																																																																																																																																																																																																													
個数	-	○○																																																																																																																																																																																																														
取付箇所	系統名 (ライン名)	-	○○																																																																																																																																																																																																													
	設置床	-	○○																																																																																																																																																																																																													
	溢水防護上の区画番号	-	○○																																																																																																																																																																																																													
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○																																																																																																																																																																																																													
原動機	種類	-	○○																																																																																																																																																																																																													
	出力	kW/個	○○																																																																																																																																																																																																													
	個数	-	○○																																																																																																																																																																																																													
	取付箇所	-	○○																																																																																																																																																																																																													
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																													
種類	-	再循環系ポンプ**																																																																																																																																																																																																														
容量	m ³ /h/個**	うず巻形*1																																																																																																																																																																																																														
揚程	m	8100 以上*6 (8100*3)																																																																																																																																																																																																														
慣性定数	s	245.4 以上*6 (245.4*3)																																																																																																																																																																																																														
最高使用圧力	MPa	4.7 以上*6 (5*3, *6)																																																																																																																																																																																																														
最高使用温度	℃	11.38*6																																																																																																																																																																																																														
ボンプ主要寸法	吸込口径	mm	302*6																																																																																																																																																																																																													
	吐出口径	mm	552.45*3, *6																																																																																																																																																																																																													
	ケーシング厚さ	mm	552.45*3, *6																																																																																																																																																																																																													
	ケーシングカバー厚さ	mm	78.8*6 (82.6*3, *6)																																																																																																																																																																																																													
	横	mm	1168.4*3, *6																																																																																																																																																																																																													
材料	ケーシング高さ	mm	965.2*3, *6																																																																																																																																																																																																													
	ケーシング	-	SCS14A 相当																																																																																																																																																																																																													
	ケーシングカバー	-	SCS14A 相当																																																																																																																																																																																																													
原動機	スタッドボルト	-	SNB23-4 相当																																																																																																																																																																																																													
	個数	-	2																																																																																																																																																																																																													
種類	-	誘導電動機																																																																																																																																																																																																														
出力	kW/個	6711*7																																																																																																																																																																																																														
個数	-	2																																																																																																																																																																																																														

○耐震クラスについては, 主要設備リストにて展開する方針に見直したため, 仕様表記載項目からは削除する。
○重大事故時の値を示す必要がある場合は, 設備の使用条件 (最高使用圧力/最高使用温度) の記載項目欄を追加する。
○主配管との接続性を説明する観点から, 吸込口径および吐出口径の記載欄を追加。
○溢水影響を考慮し, 取付箇所の項目を追加。
○内部飛散物に関する記載として, 原動機に記載を追加。
○構造図については, 本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため, 記載項目を削除する。
○特記事項については, 基本設計方針等にて展開するため削除。
○ケーシング厚さについては, 耐圧強度評価 (耐圧バウンダリ) をする場合は, 記載する。

注記 1): 重大事故時の値を示す。
2): 既設工認の仕様表に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は平成○年○月○日付け○第○号にて認可された設工認申請書の添付図面「○-○-○.○図 ○○の計測制御系統図」による。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ダクト (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案					発電炉工認								
名 称	—	—	主要ダクト(その1)	主要材料	〇〇	〇〇	〇〇	変更前*1							変更後		
種 類	—	—	角ダクト, 丸ダクト	板厚 (mm)	〇〇	〇〇	〇〇	名 称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外形*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名 称			
設計条件	耐震クラス	—	A	主要寸法 (mm)	〇〇	〇〇	〇〇	中央制御室 ~ 中央制御室換気系 フィルタ 系ファン	0.003 (差圧)	40	762.4×362.4	1.2*2	SPG2	中央制御室換気系			
流体の種類	—	—	空気	最高使用温度 (°C)	〇〇	〇〇	〇〇				812.4×412.4	1.2*2	SPG2				
仕様	主要寸法 ¹⁾	mm	幅: 〇〇~〇〇 高さ: 〇〇~〇〇 口径: 〇〇~〇〇	最高使用圧力 (kPa)	〇〇	〇〇	〇〇				1582.4×912.4	1.2*2	SPG2				
	板厚	mm	〇〇~〇〇	流体の種類	〇〇	〇〇	〇〇				1802.4×1602.4	1.2*2	SPG2				
	主要材料	—	〇〇P	名称	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 まわり				462.4×462.4	1.2*2	SPG2				
注記 1): 主要寸法はダクト内側の寸法を示す。				流体の種類							名称				〇〇 〇〇		
<p>〇耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>〇重大事故時の値を示す必要がある場合は、設備の使用条件(最高使用圧力/最高使用温度)の記載項目欄を追加する。</p>				名称							〇〇 〇〇				〇〇 まわり		
				仕様ダクト (その1)				主要材料				〇〇				〇〇	
				仕様ダクト (その1)				板厚 (mm)				〇〇				〇〇	
				仕様ダクト (その1)				主要寸法 (mm)				〇〇				〇〇	
				仕様ダクト (その1)				最高使用温度 (°C)				〇〇				〇〇	
				仕様ダクト (その1)				最高使用圧力 (kPa)				〇〇				〇〇	
				仕様ダクト (その1)				流体の種類				〇〇				〇〇	
仕様ダクト (その1)				名称				〇〇 〇〇				〇〇 まわり					
仕様ダクト (その1)				仕様ダクト (その1)				仕様ダクト (その1)				仕様ダクト (その1)					

注記 1): 主要寸法はダクト内側の寸法を示す。
 2): 重大事故時の使用時の値を示す。
 3): 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

注記 *1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *2: 公称値を示す。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：搬送設備)

既設工認		仕様表項目案			発電炉工認																																																																																																																						
<p>d. 設計条件及び仕様</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td colspan="2">使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="2">天井走行形</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>B¹⁾</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仕様</td> <td>容量</td> <td>主巻 〇〇 t 補巻 〇〇 t</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="2"> (1) つりワイヤの二重化を施す。 (2) つり荷を保持するためのブレーキの二重化を施す。 (3) フックへ脱落防止金具を取付ける。 (4) 逸走防止のインターロックを設ける。 (5) 電源喪失時にもつり荷を保持できる構造とする。 (6) 脱輪防止装置を設ける。 (7) 燃料貯蔵プール及び燃料仮置きピット上を通過しない設計とする。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>構造図：第3.1.1.3-1図に示す。</p> <p>注記 1)： 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, Bは、基準地震動S₁及びS₂にて燃料取出しピットに波及的影響を与えないように設計する。</p> </td> </tr> </table>		名称	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B (〇〇)		種類	天井走行形		設計条件	耐震クラス	B ¹⁾	仕様	容量	主巻 〇〇 t 補巻 〇〇 t	個数	2	特記事項	(1) つりワイヤの二重化を施す。 (2) つり荷を保持するためのブレーキの二重化を施す。 (3) フックへ脱落防止金具を取付ける。 (4) 逸走防止のインターロックを設ける。 (5) 電源喪失時にもつり荷を保持できる構造とする。 (6) 脱輪防止装置を設ける。 (7) 燃料貯蔵プール及び燃料仮置きピット上を通過しない設計とする。		<p>構造図：第3.1.1.3-1図に示す。</p> <p>注記 1)： 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, Bは、基準地震動S₁及びS₂にて燃料取出しピットに波及的影響を与えないように設計する。</p>			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td>使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>天井走行形</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仕様</td> <td>容量</td> <td>主巻 N 補巻 N</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>〇〇 mm</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>					変更前	変更後	名称	—	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B		種類	—	天井走行形		仕様	容量	主巻 N 補巻 N	〇〇	個数	—	〇〇	主要寸法	〇〇 mm	〇〇		材料	〇〇	〇〇		取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇	設置床	—	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td>原子炉建屋クレーン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>天井走行式</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">容量</td> <td>主巻</td> <td>t</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>補巻</td> <td>t</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>モノレールホイスト</td> <td>t</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>走行レール間距離*1</td> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td> <td>クレーン本体ガード距離</td> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>クレーン本体ガード幅</td> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>クレーン本体ガード高さ</td> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>EL. 54.50 m*5</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「スパン」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には [] と記載。 *3：公称値を示す。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成元年4月26日付け発管業発第37号にて届け出した工事計画の添付書類「1-2-1 原子炉建屋クレーンの耐震性についての計算書」による。</p>					変更前	変更後	名称	—	原子炉建屋クレーン		種類	—	天井走行式		容量	主巻	t	125	補巻	t	5	主要寸法	モノレールホイスト	t	10	走行レール間距離*1	mm		材料	クレーン本体ガード距離	mm		高さ	mm		クレーン本体ガード幅	mm		クレーン本体ガード高さ	mm		個数	—	1		取付箇所	系統名 (ライン名)	—	—	設置床	—	EL. 54.50 m*5	溢水防護上の区画番号	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—
名称	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B (〇〇)																																																																																																																										
種類	天井走行形																																																																																																																										
設計条件	耐震クラス	B ¹⁾																																																																																																																									
仕様	容量	主巻 〇〇 t 補巻 〇〇 t																																																																																																																									
	個数	2																																																																																																																									
特記事項	(1) つりワイヤの二重化を施す。 (2) つり荷を保持するためのブレーキの二重化を施す。 (3) フックへ脱落防止金具を取付ける。 (4) 逸走防止のインターロックを設ける。 (5) 電源喪失時にもつり荷を保持できる構造とする。 (6) 脱輪防止装置を設ける。 (7) 燃料貯蔵プール及び燃料仮置きピット上を通過しない設計とする。																																																																																																																										
<p>構造図：第3.1.1.3-1図に示す。</p> <p>注記 1)： 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, Bは、基準地震動S₁及びS₂にて燃料取出しピットに波及的影響を与えないように設計する。</p>																																																																																																																											
		変更前	変更後																																																																																																																								
名称	—	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B																																																																																																																									
種類	—	天井走行形																																																																																																																									
仕様	容量	主巻 N 補巻 N	〇〇																																																																																																																								
	個数	—	〇〇																																																																																																																								
主要寸法	〇〇 mm	〇〇																																																																																																																									
材料	〇〇	〇〇																																																																																																																									
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇																																																																																																																								
	設置床	—	〇〇																																																																																																																								
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																								
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																								
		変更前	変更後																																																																																																																								
名称	—	原子炉建屋クレーン																																																																																																																									
種類	—	天井走行式																																																																																																																									
容量	主巻	t	125																																																																																																																								
	補巻	t	5																																																																																																																								
主要寸法	モノレールホイスト	t	10																																																																																																																								
	走行レール間距離*1	mm																																																																																																																									
材料	クレーン本体ガード距離	mm																																																																																																																									
	高さ	mm																																																																																																																									
	クレーン本体ガード幅	mm																																																																																																																									
	クレーン本体ガード高さ	mm																																																																																																																									
個数	—	1																																																																																																																									
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	—																																																																																																																								
	設置床	—	EL. 54.50 m*5																																																																																																																								
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																								
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																								

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: M/C/P/C/MCC/分電盤/リレー盤)

既設工認		仕様表項目案			発電炉工認																																																																										
(I) 6.9 kV非常用母線A, B <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">6.9 kV非常用メタクラA, B (○○)</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> <td colspan="2">As</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td>用途</td> <td>-</td> <td colspan="2">非常用系</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td colspan="2">○○</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td colspan="2">2</td> </tr> </table> <p>構造図: 第3.2.1.1.1-1図に示す。</p>		名称		-	6.9 kV非常用メタクラA, B (○○)		設計条件	耐震クラス	-	As		仕様	用途	-	非常用系		電圧	V	○○		主要寸法	高さ	mm	○○	個数	-	2		1) 460V 非常用母線 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>-</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>-</td> <td>6.9kV 非常用メタクラA, B</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td>電圧</td> <td>V</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> </table> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。</p>			名称		-	変更前	変更後	名称		-	6.9kV 非常用メタクラA, B		仕様	電圧	V	○○		主要寸法	たて	mm	○○	横	mm	○○	高さ	mm	○○	個数	-	○○		取付箇所	系統名 (ライン名)	-	○○		設置床	-	○○		溢水防護上の区画番号	-	○○		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○		4 非常用電源設備の基本設計方針, 適用基準及び適用規格 (1) 基本設計方針 第2章 個別項目 1. 非常用電源設備の電源系統 1.2 代替所内電気系統 (省略) これとは別に上記 3 系統の非常用母線等の機能が喪失したことにより発生する重大事故等の対応に必要な設備に電力を給電する代替所内電気設備として、緊急用断路器 (6900V, 1200A のものを 1 個), 緊急用メタルクラッド開閉装置 (6900V, 1200A のものを 1 個), 緊急用動力変圧器 (2000kVA, 6900/480V のものを 1 個), 緊急用パワーセンタ (480V, 3000A のものを 1 個), 緊急用モータコントロールセンタ (480V, 800A のものを 3 個), 可搬型代替低圧電源車接続盤 (交流入出力 (480V, 1600A), 可搬型整流器交流入力 (210V, 600A), 可搬型整流器直流出力 (150V, 400A) のものを 2 個), 緊急用計装交流主母線盤 (50 kVA, 480/240-120V のものを 1 個), 緊急用直流 125V 充電器 (125V, 700A のものを 1 個), 可搬型整流器用変圧器 (150kVA, 480/210V のものを 2 個), 可搬型代替直流電源設備用電源切替盤 (125V, 400A のものを 1 個), 緊急用直流 125V 主母線盤 (125V, 1200A のものを 1 個), 緊急用直流 125V モータコントロールセンタ (125V, 400A のものを 1 個), 緊急用直流 125V 計装分電盤 (125V, 400A のものを 1 個), 緊急用無停電電源装置, 緊急用無停電計装分電盤 (120V, 400A のものを 1 個), 緊急用電源切替盤 (緊急用交流電源切替盤 (480V, 65A のものを 2 個), 緊急用直流電源切替盤 (125V, 120A のものを 1 個), 緊急用直流計装電源切替盤 (125V, 50A のものを 2 個), 緊急用無停電計装電源切替盤 (120V, 50A のものを 1 個)) を使用できる設計とする。 (省略)	
名称		-	6.9 kV非常用メタクラA, B (○○)																																																																												
設計条件	耐震クラス	-	As																																																																												
仕様	用途	-	非常用系																																																																												
	電圧	V	○○																																																																												
	主要寸法	高さ	mm	○○																																																																											
	個数	-	2																																																																												
名称		-	変更前	変更後																																																																											
名称		-	6.9kV 非常用メタクラA, B																																																																												
仕様	電圧	V	○○																																																																												
	主要寸法	たて	mm	○○																																																																											
		横	mm	○○																																																																											
		高さ	mm	○○																																																																											
個数	-	○○																																																																													
取付箇所	系統名 (ライン名)	-	○○																																																																												
	設置床	-	○○																																																																												
	溢水防護上の区画番号	-	○○																																																																												
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○																																																																												

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：発電機 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																																																																																																																	
(4) 第2非常用ディーゼル発電機 (4.1) 内燃機関				常設/可搬 ディーゼル機関				2.3 常設代替高圧電源装置 (2) 内燃機関に係る次の事項 イ 機関の名称、種類、出力、回転速度、燃料の種類及び使用量、個数並びに取付箇所並びに過給機の種類、出口の圧力、回転速度、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="2">ディーゼル機関A, B (○○)</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>—</td> <td>As</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">仕様</td> <td>種類</td> <td colspan="2">4サイクルたて形18気筒ディーゼル機関</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td colspan="2">非常用</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/台</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>起動時間</td> <td>秒</td> <td>○○ 以内</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>調速装置</td> <td>種類</td> <td colspan="2">油圧式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td colspan="2">2 (機関1台につき1)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常調速装置</td> <td>種類</td> <td colspan="2">電気 — 空気式</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="2">2 (機関1台につき1)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">過給機</td> <td>種類</td> <td colspan="2">排気タービン式</td> </tr> <tr> <td>出口の圧力</td> <td>MPa</td> <td>○○ (最大連続回転時)</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td>○○ (最大連続回転時)</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>4 (機関1台につき2)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> </table>				名称	—	ディーゼル機関A, B (○○)		設計条件	耐震クラス	—	As	仕様	種類	4サイクルたて形18気筒ディーゼル機関		用途	非常用		出力	kW/台	○○	回転数	rpm	○○	起動時間	秒	○○ 以内	個数	—	2	調速装置	種類	油圧式			個数	2 (機関1台につき1)		非常調速装置	種類	電気 — 空気式		個数	2 (機関1台につき1)		過給機	種類	排気タービン式		出口の圧力	MPa	○○ (最大連続回転時)	回転数	rpm	○○ (最大連続回転時)	個数	—	4 (機関1台につき2)	主要寸法		高さ	mm	○○	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="2">ディーゼル機関</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">仕様</td> <td>種類</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/台</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>起動時間</td> <td>秒</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>燃料種類</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>燃料使用量</td> <td>L/h</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">過給機</td> <td>種類</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>出口の圧力</td> <td>MPa</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) </td> <td>—</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 設置床 </td> <td>—</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 溢水防護上の区画番号 </td> <td>—</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 溢水防護上の配慮が必要な高さ </td> <td>—</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 設置箇所 </td> <td>—</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> </table>				名称	—	ディーゼル機関		仕様	種類	—		用途	—		出力	kW/台	○○	回転数	rpm	○○	起動時間	秒	○○	燃料種類	—	○○	燃料使用量	L/h	○○	過給機	種類	—		出口の圧力	MPa	○○	回転数	rpm	○○		個数	—		主要寸法		高さ	mm	○○	系統名 (ライン名)				—	○○		設置床				—	○○		溢水防護上の区画番号				—	○○		溢水防護上の配慮が必要な高さ				—	○○		設置箇所				—	○○		<table border="1"> <tr> <td colspan="2">変更前</td> <td colspan="5">変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="5">常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td colspan="5">4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関</td> </tr> <tr> <td colspan="2">出力</td> <td colspan="5">1450</td> </tr> <tr> <td colspan="2">回転速度</td> <td colspan="5">1500</td> </tr> <tr> <td colspan="2">燃料種類</td> <td colspan="5">軽油</td> </tr> <tr> <td colspan="2">燃料使用量</td> <td colspan="2">397</td> <td colspan="3">411</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td colspan="5">6 (発電機1個当たり1)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>No.1 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.2 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.3 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.4 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.5 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.6 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>HP-1-1</td> <td>HP-1-1</td> <td>HP-1-2</td> <td>HP-1-2</td> <td>HP-1-3</td> <td>HP-1-3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(続き)</td> <td colspan="5">変更前</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td colspan="5">排気ガスタービン式</td> </tr> <tr> <td colspan="2">出口の圧力</td> <td colspan="5">168.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">回転速度</td> <td colspan="5">90000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td colspan="5">24 (機関1個当たり4)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">取付箇所</td> <td colspan="5">機関と同じ</td> </tr> </table>							変更前		変更後					名称		常設代替高圧電源装置 内燃機関					種類		4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関					出力		1450					回転速度		1500					燃料種類		軽油					燃料使用量		397		411			個数		6 (発電機1個当たり1)					取付箇所	系統名 (ライン名)	No.1 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.2 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.3 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.4 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.5 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.6 常設代替高圧電源装置 内燃機関	設置床	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	溢水防護上の区画番号	HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	(続き)		変更前					種類		排気ガスタービン式					出口の圧力		168.0					回転速度		90000					個数		24 (機関1個当たり4)					取付箇所		機関と同じ				
名称	—	ディーゼル機関A, B (○○)																																																																																																																																																																																																																																																																																							
設計条件	耐震クラス	—	As																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仕様	種類	4サイクルたて形18気筒ディーゼル機関																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	用途	非常用																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	出力	kW/台	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	回転数	rpm	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	起動時間	秒	○○ 以内																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	個数	—	2																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	調速装置	種類	油圧式																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	個数	2 (機関1台につき1)																																																																																																																																																																																																																																																																																							
非常調速装置	種類	電気 — 空気式																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	個数	2 (機関1台につき1)																																																																																																																																																																																																																																																																																							
過給機	種類	排気タービン式																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	出口の圧力	MPa	○○ (最大連続回転時)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	回転数	rpm	○○ (最大連続回転時)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	個数	—	4 (機関1台につき2)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
主要寸法		高さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																					
名称	—	ディーゼル機関																																																																																																																																																																																																																																																																																							
仕様	種類	—																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	用途	—																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	出力	kW/台	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	回転数	rpm	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	起動時間	秒	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	燃料種類	—	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	燃料使用量	L/h	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
過給機	種類	—																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	出口の圧力	MPa	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	回転数	rpm	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	個数	—																																																																																																																																																																																																																																																																																							
主要寸法		高さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																					
系統名 (ライン名)				—	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設置床				—	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																				
溢水防護上の区画番号				—	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																				
溢水防護上の配慮が必要な高さ				—	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設置箇所				—	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																				
変更前		変更後																																																																																																																																																																																																																																																																																							
名称		常設代替高圧電源装置 内燃機関																																																																																																																																																																																																																																																																																							
種類		4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関																																																																																																																																																																																																																																																																																							
出力		1450																																																																																																																																																																																																																																																																																							
回転速度		1500																																																																																																																																																																																																																																																																																							
燃料種類		軽油																																																																																																																																																																																																																																																																																							
燃料使用量		397		411																																																																																																																																																																																																																																																																																					
個数		6 (発電機1個当たり1)																																																																																																																																																																																																																																																																																							
取付箇所	系統名 (ライン名)	No.1 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.2 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.3 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.4 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.5 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.6 常設代替高圧電源装置 内燃機関																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	設置床	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	溢水防護上の区画番号	HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	(続き)		変更前																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	種類		排気ガスタービン式																																																																																																																																																																																																																																																																																						
出口の圧力		168.0																																																																																																																																																																																																																																																																																							
回転速度		90000																																																																																																																																																																																																																																																																																							
個数		24 (機関1個当たり4)																																																																																																																																																																																																																																																																																							
取付箇所		機関と同じ																																																																																																																																																																																																																																																																																							
構造図：第3.2.1.1.12-10図に示す。				<p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○ディーゼル機関で使用する燃料を明確化するため、その種類と使用料について記載項目を追加。 ○ディーゼル機関の仕様を示すため、関連機器である調速装置及び非常調速装置については、削除する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																					

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 発電機 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																													
(4.2) 発電機								<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">常設代替高圧電源装置</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">防滴保護、空気冷却自己自由通風型三相交流発電機</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>1725</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>た</td> <td>2453^{*1}</td> <td>1965^{*1}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>1753^{*1}</td> <td>1090^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>1572^{*1}</td> <td>1000^{*1}</td> </tr> <tr> <td>力</td> <td>率</td> <td colspan="2">80 (遅れ)</td> </tr> <tr> <td>電</td> <td>圧</td> <td colspan="2">6600</td> </tr> <tr> <td></td> <td>相</td> <td colspan="2">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>周波数</td> <td colspan="2">50</td> </tr> <tr> <td></td> <td>回転速度</td> <td colspan="2">1500</td> </tr> <tr> <td></td> <td>結線法</td> <td colspan="2">星形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>冷却方法</td> <td colspan="2">空気冷却</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td colspan="2">5 (予備1)^{*1}</td> </tr> </tbody> </table>				変更前		変更後		名	称	常設代替高圧電源装置		種	類	防滴保護、空気冷却自己自由通風型三相交流発電機		容	量	1725		主要寸法	た	2453 ^{*1}	1965 ^{*1}	横	1753 ^{*1}	1090 ^{*1}	高さ	1572 ^{*1}	1000 ^{*1}	力	率	80 (遅れ)		電	圧	6600			相	3			周波数	50			回転速度	1500			結線法	星形			冷却方法	空気冷却			個数	5 (予備1) ^{*1}	
変更前		変更後																																																																			
名	称	常設代替高圧電源装置																																																																			
種	類	防滴保護、空気冷却自己自由通風型三相交流発電機																																																																			
容	量	1725																																																																			
主要寸法	た	2453 ^{*1}	1965 ^{*1}																																																																		
	横	1753 ^{*1}	1090 ^{*1}																																																																		
	高さ	1572 ^{*1}	1000 ^{*1}																																																																		
力	率	80 (遅れ)																																																																			
電	圧	6600																																																																			
	相	3																																																																			
	周波数	50																																																																			
	回転速度	1500																																																																			
	結線法	星形																																																																			
	冷却方法	空気冷却																																																																			
	個数	5 (予備1) ^{*1}																																																																			
名称	-	同期発電機A, B (○○)		名称	-	同期発電機		名称	-	同期発電機																																																											
種類	-	横軸回転界磁3同期発電機		種類	-	○○		種類	-	○○																																																											
設計条件	耐震クラス	-	A s	用途	-	○○		用途	-	○○																																																											
仕様	用途	-	非常用系	容量	kVA/台	○○		容量	kVA/個	○○																																																											
	力率	-	○○ (遅れ)	力率	-	○○		力率	-	○○																																																											
	電圧	V	○○	電圧	V	○○		電圧	V	○○																																																											
	相	-	○○	相	-	○○		相	-	○○																																																											
	周波数	Hz	○○	周波数	Hz	○○		周波数	Hz	○○																																																											
	回転数	rpm	○○	回転数	rpm	○○		回転数	rpm	○○																																																											
	結線法	-	星形	結線法	-	星形		結線法	-	星形																																																											
	冷却法	-	空気冷却	冷却法	-	空気冷却		冷却法	-	空気冷却																																																											
	主要寸法	高さ	mm	○○	主要寸法	た	mm	○○	主要寸法	た	mm	○○																																																									
						横	mm	○○		横	mm	○○																																																									
					高さ	mm	○○		高さ	mm	○○																																																										
個数	-	2 (機関1台につき1)		個数	-	○○		個数	-	○○																																																											
<p>構造図: 第3.2.1.1.12-11図に示す。</p>				<p>系統名 (ライン名)</p> <p>設置床</p> <p>溢水防護上の区画番号</p> <p>溢水防護上の配慮が必要な高さ</p>				<p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>○溢水影響を考慮し、取付箇所の記事を追加。</p> <p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>																																																													

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：蓄電池)

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																																															
<p>(4) 非常用直流電源設備 (a) 蓄電池</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">名称</td> <td style="width:15%;">-</td> <td style="width:70%;">110V第2非常用蓄電池A, B (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>シール形クラッド式据置鉛蓄電池</td> </tr> <tr style="border: 2px solid red;"> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>As</td> </tr> <tr style="border: 2px solid red;"> <td rowspan="5">仕様</td> <td>用途</td> <td>非常用系</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>Ah 〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V 〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ mm 〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> </table> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">構造図：第3.2.1.1.1-9図に示す。</p>	名称	-	110V第2非常用蓄電池A, B (〇〇)	種類	-	シール形クラッド式据置鉛蓄電池	設計条件	耐震クラス	As	仕様	用途	非常用系	容量	Ah 〇〇	電圧	V 〇〇	主要寸法	高さ mm 〇〇	個数	-	2	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>-</td> <td>110V非常用蓄電池A, B</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>容量</td> <td>Ah</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">設置箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○用途については、仕様表作成対象を整理したことから、記載項目から削除する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p> </div>			変更前	変更後	名	称	-	110V非常用蓄電池A, B	種類		-	〇〇	仕様	容量	Ah	〇〇	電圧	V	〇〇	主要寸法	たて	mm	〇〇	横	mm	〇〇	高さ	mm	〇〇	個数		-	〇〇	設置箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇	設置床	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	<p>(2) 電力貯蔵装置の名称、種類、容量、電圧、主要寸法、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>-</td> <td>125V系蓄電池</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td>-</td> <td>制御弁式据置鉛蓄電池</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">容量</td> <td rowspan="3">Ah/組</td> <td>A系 2000 (10時間率)</td> <td>A系 6000 (10時間率)</td> </tr> <tr> <td>B系 2000 (10時間率)</td> <td>B系 6000 (10時間率)</td> </tr> <tr> <td>HPCS系 500 (10時間率)</td> <td>HPCS系 変更なし</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td>125*</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td rowspan="5">横</td> <td>A系</td> <td>A系</td> </tr> <tr> <td>B系</td> <td>B系</td> </tr> <tr> <td>HPCS系</td> <td>HPCS系</td> </tr> <tr> <td>HPCS系</td> <td>HPCS系</td> </tr> <tr> <td>HPCS系</td> <td>HPCS系</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>組</td> <td>3 (A系 1組当たり58個 B系 1組当たり58個 HPCS系 1組当たり58個)</td> <td>3 (A系 1組当たり120個 B系 1組当たり120個 HPCS系 変更なし)</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後*	名	称	-	125V系蓄電池	種類		-	制御弁式据置鉛蓄電池	容量	Ah/組	A系 2000 (10時間率)	A系 6000 (10時間率)	B系 2000 (10時間率)	B系 6000 (10時間率)	HPCS系 500 (10時間率)	HPCS系 変更なし	電圧	V	125*	変更なし	主要寸法	横	A系	A系	B系	B系	HPCS系	HPCS系	HPCS系	HPCS系	HPCS系	HPCS系	高さ	mm	変更なし	変更なし	個数	組	3 (A系 1組当たり58個 B系 1組当たり58個 HPCS系 1組当たり58個)	3 (A系 1組当たり120個 B系 1組当たり120個 HPCS系 変更なし)
名称	-	110V第2非常用蓄電池A, B (〇〇)																																																																																																															
種類	-	シール形クラッド式据置鉛蓄電池																																																																																																															
設計条件	耐震クラス	As																																																																																																															
仕様	用途	非常用系																																																																																																															
	容量	Ah 〇〇																																																																																																															
	電圧	V 〇〇																																																																																																															
	主要寸法	高さ mm 〇〇																																																																																																															
	個数	-	2																																																																																																														
		変更前	変更後																																																																																																														
名	称	-	110V非常用蓄電池A, B																																																																																																														
種類		-	〇〇																																																																																																														
仕様	容量	Ah	〇〇																																																																																																														
	電圧	V	〇〇																																																																																																														
	主要寸法	たて	mm	〇〇																																																																																																													
		横	mm	〇〇																																																																																																													
		高さ	mm	〇〇																																																																																																													
個数		-	〇〇																																																																																																														
設置箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																																																																														
	設置床	-	〇〇																																																																																																														
	溢水防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																																														
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																																														
		変更前	変更後*																																																																																																														
名	称	-	125V系蓄電池																																																																																																														
種類		-	制御弁式据置鉛蓄電池																																																																																																														
容量	Ah/組	A系 2000 (10時間率)	A系 6000 (10時間率)																																																																																																														
		B系 2000 (10時間率)	B系 6000 (10時間率)																																																																																																														
		HPCS系 500 (10時間率)	HPCS系 変更なし																																																																																																														
電圧	V	125*	変更なし																																																																																																														
主要寸法	横	A系	A系																																																																																																														
		B系	B系																																																																																																														
		HPCS系	HPCS系																																																																																																														
		HPCS系	HPCS系																																																																																																														
		HPCS系	HPCS系																																																																																																														
高さ	mm	変更なし	変更なし																																																																																																														
個数	組	3 (A系 1組当たり58個 B系 1組当たり58個 HPCS系 1組当たり58個)	3 (A系 1組当たり120個 B系 1組当たり120個 HPCS系 変更なし)																																																																																																														

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 非常用無停電電源装置)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																	
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">105V非常用無停電電源装置A, B ()</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">静止形定電圧定周波数電源装置</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> <td>As</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">仕様</td> <td>用途</td> <td>-</td> <td>非常用系</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kVA</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電圧</td> <td>交流入力</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>直流入力</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>交流出力</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>周波数</td> <td>Hz</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>予備変圧器容量</td> <td>kVA</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> </table>				名称	-	105V非常用無停電電源装置A, B ()		種類	-	静止形定電圧定周波数電源装置		設計条件	耐震クラス	-	As	仕様	用途	-	非常用系	容量	kVA	〇〇	電圧	交流入力	V	〇〇	直流入力	V	〇〇	交流出力	V	〇〇	周波数	Hz	〇〇	予備変圧器容量	kVA	〇〇	主要寸法	高さ	mm	〇〇	個数	-	2	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td>105V非常用無停電電源装置A, B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">仕様</td> <td>容量</td> <td>kVA</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電圧</td> <td>交流入力</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>直流入力</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>交流出力</td> <td>V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>周波数</td> <td>Hz</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>予備変圧器容量</td> <td>kVA</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> </table>				名称	-	105V非常用無停電電源装置A, B		種類	-	〇〇		仕様	容量	kVA	〇〇	電圧	交流入力	V	〇〇	直流入力	V	〇〇	交流出力	V	〇〇	周波数	Hz	〇〇	予備変圧器容量	kVA	〇〇	主要寸法	たて	mm	〇〇	横	mm	〇〇	高さ	mm	〇〇	個数	-	〇〇		取付箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇	設置床	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">・常設</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">非常用無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">静止形定電圧定周波数電源装置</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kVA/個</td> <td colspan="2">35</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電圧</td> <td>入力</td> <td>V</td> <td>交流 440</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>V</td> <td>直流 125</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">周波数</td> <td>入力</td> <td>Hz</td> <td>交流 120</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>Hz</td> <td>50 及び 直流</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>1300*</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>3200*</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td colspan="2">2300*</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>EL. 8.20 m EL. 8.20 m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>CS-1-3 CS-1-3</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>EL. 8.20 m 以上</td> <td>EL. 8.20 m 以上</td> </tr> </table> <p>注記 *: 公称値を示す。</p>				・常設		変更前	変更後	名称	-	非常用無停電電源装置		種類	-	静止形定電圧定周波数電源装置		容量	kVA/個	35		電圧	入力	V	交流 440	出力	V	直流 125	周波数	入力	Hz	交流 120	出力	Hz	50 及び 直流	主要寸法	たて	mm	50	横	mm	1300*	高さ	mm	3200*	個数	-	2300*		取付箇所	系統名 (ライン名)	-	2	設置床	-	非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B	溢水防護上の区画番号	-	EL. 8.20 m EL. 8.20 m	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	CS-1-3 CS-1-3			EL. 8.20 m 以上	EL. 8.20 m 以上
名称	-	105V非常用無停電電源装置A, B ()																																																																																																																																																																							
種類	-	静止形定電圧定周波数電源装置																																																																																																																																																																							
設計条件	耐震クラス	-	As																																																																																																																																																																						
仕様	用途	-	非常用系																																																																																																																																																																						
	容量	kVA	〇〇																																																																																																																																																																						
	電圧	交流入力	V	〇〇																																																																																																																																																																					
		直流入力	V	〇〇																																																																																																																																																																					
		交流出力	V	〇〇																																																																																																																																																																					
	周波数	Hz	〇〇																																																																																																																																																																						
	予備変圧器容量	kVA	〇〇																																																																																																																																																																						
	主要寸法	高さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																					
個数		-	2																																																																																																																																																																						
名称	-	105V非常用無停電電源装置A, B																																																																																																																																																																							
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																							
仕様	容量	kVA	〇〇																																																																																																																																																																						
	電圧	交流入力	V	〇〇																																																																																																																																																																					
		直流入力	V	〇〇																																																																																																																																																																					
		交流出力	V	〇〇																																																																																																																																																																					
	周波数	Hz	〇〇																																																																																																																																																																						
	予備変圧器容量	kVA	〇〇																																																																																																																																																																						
	主要寸法	たて	mm	〇〇																																																																																																																																																																					
		横	mm	〇〇																																																																																																																																																																					
		高さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																					
	個数	-	〇〇																																																																																																																																																																						
取付箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																																																																																																																																						
	設置床	-	〇〇																																																																																																																																																																						
	溢水防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																																																																																																						
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																																																																																																						
・常設		変更前	変更後																																																																																																																																																																						
名称	-	非常用無停電電源装置																																																																																																																																																																							
種類	-	静止形定電圧定周波数電源装置																																																																																																																																																																							
容量	kVA/個	35																																																																																																																																																																							
電圧	入力	V	交流 440																																																																																																																																																																						
	出力	V	直流 125																																																																																																																																																																						
周波数	入力	Hz	交流 120																																																																																																																																																																						
	出力	Hz	50 及び 直流																																																																																																																																																																						
主要寸法	たて	mm	50																																																																																																																																																																						
	横	mm	1300*																																																																																																																																																																						
	高さ	mm	3200*																																																																																																																																																																						
個数	-	2300*																																																																																																																																																																							
取付箇所	系統名 (ライン名)	-	2																																																																																																																																																																						
	設置床	-	非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B																																																																																																																																																																						
	溢水防護上の区画番号	-	EL. 8.20 m EL. 8.20 m																																																																																																																																																																						
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	CS-1-3 CS-1-3																																																																																																																																																																						
		EL. 8.20 m 以上	EL. 8.20 m 以上																																																																																																																																																																						
<p>構造図: 第3.2.1.1.5-7図に示す。</p>				<p>注記 1) 既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は平成〇年〇月〇日付け〇第〇号にて認可された設工認申請書の添付図面「〇-〇-〇.〇図 〇〇の構造図」による。</p>																																																																																																																																																																					
<p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○用途については、仕様表作成対象を整理したことから、記載項目から削除する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>																																																																																																																																																																									

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 計測制御設備 (常設/可搬))

既設工認		仕様表項目案		発電炉工認																																																																																						
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>分館設備の主要な計測制御系</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス A s, A, C</td> </tr> <tr> <td>表示, 操作場所</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>対象設備及び計測制御内容</td> <td> (1) 分館設備 a) 補助抽出器の中性子の計数率を計測し, 計数率高で警報を発する。(C) 中性子の計数率上昇が更に大きい場合, 工程停止信号を発する。(A s) [○○] b) 抽出塔に供給する溶解液流量を計測し, 流量高で警報を発する。(C) 溶解液流量上昇が更に大きい場合, 溶解液の送液停止信号を発する。(A s) [○○] </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(中略)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td> 1. 安全系監視制御盤A, B, 安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系制御盤A, B及び中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤A, Bには各々異なる非常用母線A, Bより給電する。 2. 耐震A s及びAクラスの計測制御系に使用する圧縮空気は, 安全圧縮空気系より供給する。 3. 系統ごとに定期的な試験及び検査を行うために, 模擬入力信号により安全系機器の作動回路が正常に機能することを確認できる試験回路を設ける。 4. 安全系監視制御盤A, B, 安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤A, B及び電路は各々物理的に分離して設置する。物理的な分離の考え方を以下に示す。 (1) 盤はA系, B系の2系統の独立した筐体とし, 物理的に離して設置する。 (2) 電路は, A系, B系の2系統に分離し, 空間的に離して設置する。 5. 耐震A s及びAクラスの計測制御系に使用するケーブルは, IEEE規格383の垂直トレイ試験を満足する難燃性ケーブルを使用し, ケーブルトレイ及び電線管は, 金属材料を使用する。 </td> </tr> </table>		名称	分館設備の主要な計測制御系	設計条件	耐震クラス A s, A, C	表示, 操作場所	中央制御室	対象設備及び計測制御内容	(1) 分館設備 a) 補助抽出器の中性子の計数率を計測し, 計数率高で警報を発する。(C) 中性子の計数率上昇が更に大きい場合, 工程停止信号を発する。(A s) [○○] b) 抽出塔に供給する溶解液流量を計測し, 流量高で警報を発する。(C) 溶解液流量上昇が更に大きい場合, 溶解液の送液停止信号を発する。(A s) [○○]	(中略)		特記事項	1. 安全系監視制御盤A, B, 安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系制御盤A, B及び中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤A, Bには各々異なる非常用母線A, Bより給電する。 2. 耐震A s及びAクラスの計測制御系に使用する圧縮空気は, 安全圧縮空気系より供給する。 3. 系統ごとに定期的な試験及び検査を行うために, 模擬入力信号により安全系機器の作動回路が正常に機能することを確認できる試験回路を設ける。 4. 安全系監視制御盤A, B, 安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤A, B及び電路は各々物理的に分離して設置する。物理的な分離の考え方を以下に示す。 (1) 盤はA系, B系の2系統の独立した筐体とし, 物理的に離して設置する。 (2) 電路は, A系, B系の2系統に分離し, 空間的に離して設置する。 5. 耐震A s及びAクラスの計測制御系に使用するケーブルは, IEEE規格383の垂直トレイ試験を満足する難燃性ケーブルを使用し, ケーブルトレイ及び電線管は, 金属材料を使用する。	<p>検出器については, 台数が多いため, A4横の体裁で複数台を同時に記載することも可とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>—</td> <td>○○検出器*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>—</td> <td>○○~○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>—</td> <td>○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統図(ライン名)</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 1) 既設工認の仕様表に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は平成○年○月○日付け○第○号にて認可された設工認申請書の添付図面「○-○-○.○図 ○○の計測制御系統図」による。</p> <p>○耐震クラスについては, 主要設備リストにて展開する方針に見直したため, 仕様表記載項目からは削除する。 ○発電炉における計測制御設備の記載事項に併せ, 仕様表記載事項を計測点情報から計測器情報に見直し。 これに伴い, 既認可の本文添付図(計測制御系統図)にて展開していた計測範囲, 警報動作範囲等について, 仕様表に取り込むこととする。 ○特記事項については, 基本設計方針等にて展開するため削除する。 ○主要な計器リストについては, 必要な情報を仕様表内に取り込むことから, 記載を削除する。 ○溢水影響を考慮し, 取付箇所項目を追加。</p>				変更前	変更後	名称		○○*1		検出器の種類	—	○○検出器*1		計測範囲	—	○○~○○*1		警報動作範囲	—	○○*1		個数	—	○○*1		取付箇所	系統図(ライン名)	—	○○	設置床	—	○○	溢水防護上の区画番号	—	○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	○○	<p>(2) 原子炉圧力容器本体の入口又は出口の原子炉冷却材の圧力, 温度又は流量(代替注水の流量を含む。)を計測する装置の名称, 検出器の種類, 計測範囲, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>—</td> <td>差圧式流量検出器**</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>—</td> <td>0~2000 t/h** ** ** -0.098~-1.030 MPa** **</td> <td></td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>4</td> <td>16**</td> </tr> <tr> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>主蒸気流量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>EL.14.00 m**</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>RD-2-8** RD-2-9** EL.14.00 m以上** EL.14.20 m以上**</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「項目」と記載。 *2: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器測定範囲」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「0~2000 t/h」と記載。 *5: 配管1本あたりの数値とする。 *6: 本計測装置は記載の適正化のみを行うものであり, 予備対象外である。 *7: 計測範囲は, 差圧指示を記載。 *8: 対象計器は, DPT-E31-N086C, DPT-E31-N086D, DPT-E31-N087C, DPT-E31-N087D, DPT-E31-N088C, DPT-E31-N088D, DPT-E31-N089C, DPT-E31-N089D。 *9: 対象計器は, DPT-E31-N086A, DPT-E31-N086B, DPT-E31-N087A, DPT-E31-N087B, DPT-E31-N088A, DPT-E31-N088B, DPT-E31-N089A, DPT-E31-N089B。</p>				変更前	変更後	検出器の種類	—	差圧式流量検出器**		計測範囲	—	0~2000 t/h** ** ** -0.098~-1.030 MPa** **		警報動作範囲	—	—		個数	—	4	16**	系統名(ライン名)	—	主蒸気流量		設置床	—	EL.14.00 m**		溢水防護上の区画番号	—	—	変更なし	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	RD-2-8** RD-2-9** EL.14.00 m以上** EL.14.20 m以上**
名称	分館設備の主要な計測制御系																																																																																									
設計条件	耐震クラス A s, A, C																																																																																									
表示, 操作場所	中央制御室																																																																																									
対象設備及び計測制御内容	(1) 分館設備 a) 補助抽出器の中性子の計数率を計測し, 計数率高で警報を発する。(C) 中性子の計数率上昇が更に大きい場合, 工程停止信号を発する。(A s) [○○] b) 抽出塔に供給する溶解液流量を計測し, 流量高で警報を発する。(C) 溶解液流量上昇が更に大きい場合, 溶解液の送液停止信号を発する。(A s) [○○]																																																																																									
(中略)																																																																																										
特記事項	1. 安全系監視制御盤A, B, 安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系制御盤A, B及び中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤A, Bには各々異なる非常用母線A, Bより給電する。 2. 耐震A s及びAクラスの計測制御系に使用する圧縮空気は, 安全圧縮空気系より供給する。 3. 系統ごとに定期的な試験及び検査を行うために, 模擬入力信号により安全系機器の作動回路が正常に機能することを確認できる試験回路を設ける。 4. 安全系監視制御盤A, B, 安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系制御盤A, B, 中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤A, B及び電路は各々物理的に分離して設置する。物理的な分離の考え方を以下に示す。 (1) 盤はA系, B系の2系統の独立した筐体とし, 物理的に離して設置する。 (2) 電路は, A系, B系の2系統に分離し, 空間的に離して設置する。 5. 耐震A s及びAクラスの計測制御系に使用するケーブルは, IEEE規格383の垂直トレイ試験を満足する難燃性ケーブルを使用し, ケーブルトレイ及び電線管は, 金属材料を使用する。																																																																																									
		変更前	変更後																																																																																							
名称		○○*1																																																																																								
検出器の種類	—	○○検出器*1																																																																																								
計測範囲	—	○○~○○*1																																																																																								
警報動作範囲	—	○○*1																																																																																								
個数	—	○○*1																																																																																								
取付箇所	系統図(ライン名)	—	○○																																																																																							
	設置床	—	○○																																																																																							
	溢水防護上の区画番号	—	○○																																																																																							
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	○○																																																																																							
		変更前	変更後																																																																																							
検出器の種類	—	差圧式流量検出器**																																																																																								
計測範囲	—	0~2000 t/h** ** ** -0.098~-1.030 MPa** **																																																																																								
警報動作範囲	—	—																																																																																								
個数	—	4	16**																																																																																							
系統名(ライン名)	—	主蒸気流量																																																																																								
設置床	—	EL.14.00 m**																																																																																								
溢水防護上の区画番号	—	—	変更なし																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	RD-2-8** RD-2-9** EL.14.00 m以上** EL.14.20 m以上**																																																																																							

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																				
<p>(つづき)</p> <p>注記 1): 第3.2.1.3.1-1図~第3.2.1.3.1-3図に安全系制御盤の構造図を示す。 なお、耐震クラスはAsクラスである。</p> <p>2): 第3.2.1.3.1-4図に中性子モニタ安全系制御盤の構造図を示す。 なお、耐震クラスはAsクラスである。</p> <p>3): 第3.2.1.3.1-5図に中性子モニタ安全系プリアンプ収納盤の構造図を示す。 なお、耐震クラスはAsクラスである。</p> <p>4): 第3.2.1.3.1-6図~第3.2.1.3.1-9図に安全系計装ラックの構造図を示す。 なお、耐震クラスはAs又はAクラスである。</p> <p>5): 施設の運転状態を予想変動範囲内で監視できるように計測範囲を設定する。 また、施設の運転状態を適切な運転範囲で制御できる設計とする。</p> <p>6): (As)は耐震Asクラスを、(A)は耐震Aクラスを、(C)は耐震Cクラスをそれぞれ示す。</p> <p>(省略)</p> <p>第2.1.3.1-1表 主要な計器リスト</p> <table border="1" data-bbox="231 821 1032 1507"> <thead> <tr> <th>計器Tag No</th> <th>計測方式</th> <th>計測場所</th> <th>計測制御系統図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇</td> <td>中性子検出器 第1.2.1.3.1-77図</td> <td rowspan="10">第6回申請 図-ハ-1-1 -18参照</td> <td>第1.2.1.3.1-2図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td>第1.2.1.3.1-3図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td>第1.2.1.3.1-4図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>エアバージ式 差圧発信器 第1.2.1.3.1-73図</td> <td>第1.2.1.3.1-5図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td>第1.2.1.3.1-4図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td>第1.2.1.3.1-6図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td>第1.2.1.3.1-7図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>エアバージ式 差圧発信器 第1.2.1.3.1-73図</td> <td>第1.2.1.3.1-6図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td>第1.2.1.3.1-8図</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	計器Tag No	計測方式	計測場所	計測制御系統図	〇〇	中性子検出器 第1.2.1.3.1-77図	第6回申請 図-ハ-1-1 -18参照	第1.2.1.3.1-2図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図	第1.2.1.3.1-3図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図	第1.2.1.3.1-4図	〇〇	エアバージ式 差圧発信器 第1.2.1.3.1-73図	第1.2.1.3.1-5図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図	第1.2.1.3.1-4図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図	第1.2.1.3.1-6図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図	第1.2.1.3.1-7図	〇〇	エアバージ式 差圧発信器 第1.2.1.3.1-73図	第1.2.1.3.1-6図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図	第1.2.1.3.1-8図	〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図				
計器Tag No	計測方式	計測場所	計測制御系統図																																			
〇〇	中性子検出器 第1.2.1.3.1-77図	第6回申請 図-ハ-1-1 -18参照	第1.2.1.3.1-2図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図		第1.2.1.3.1-3図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図		第1.2.1.3.1-4図																																			
〇〇	エアバージ式 差圧発信器 第1.2.1.3.1-73図		第1.2.1.3.1-5図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図		第1.2.1.3.1-4図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図		第1.2.1.3.1-6図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図		第1.2.1.3.1-7図																																			
〇〇	エアバージ式 差圧発信器 第1.2.1.3.1-73図		第1.2.1.3.1-6図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図		第1.2.1.3.1-8図																																			
〇〇	ゲデオン式 第1.2.1.3.1-56図																																					

仕様表の記載項目 (機器分類: 主排気筒)

既設工認			仕様表項目案			発電炉工認																																																																										
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>主排気筒</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>四角鉄塔支持形</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>—</td><td>A¹⁾</td></tr> <tr><td>支持地盤の許容支持力度</td><td>MPa</td><td>長期: ○○ (○○²⁾)³⁾ 短期: ○○ (○○²⁾)³⁾</td></tr> <tr><td>流体の種類</td><td>—</td><td>空気</td></tr> <tr><td>仕身</td><td>主要寸法</td><td>出口内径 m ○○ 地上高さ m ○○</td></tr> <tr><td>支持鉄塔</td><td>主要材料</td><td>— ○○</td></tr> <tr><td>基礎</td><td>主要材料</td><td>— 鉄筋: JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定めるSD345 コンクリート: JASS5Nの規定による普通コンクリート 設計基準強度 23.6N/mm² [240kgf/cm²]</td></tr> </table> <p>構造図: 第3.2.1.5-1図に示す。</p> <p>注記 1): 支持鉄塔及び基礎は、基準地震動S₁で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。 2): 腐食層の許容支持力度として、重要な建物・構築物ごとに定まる値の最小値とする。 3): 単位 (t/m²) 4): 厚さは、母材+合せ板を示す。 5): 本設備の基礎上部には、主排気筒管理建屋があり、その重量を考慮して耐震計算を行う。</p>	名称	—	主排気筒	種類	—	四角鉄塔支持形	耐震クラス	—	A ¹⁾	支持地盤の許容支持力度	MPa	長期: ○○ (○○ ²⁾) ³⁾ 短期: ○○ (○○ ²⁾) ³⁾	流体の種類	—	空気	仕身	主要寸法	出口内径 m ○○ 地上高さ m ○○	支持鉄塔	主要材料	— ○○	基礎	主要材料	— 鉄筋: JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定めるSD345 コンクリート: JASS5Nの規定による普通コンクリート 設計基準強度 23.6N/mm ² [240kgf/cm ²]	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>主排気筒</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>○○</td></tr> <tr><td>仕身</td><td>主要寸法</td><td>出口内径 m ○○ 地上の高さ m ○○</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>—</td><td>○○</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>上部: ○○⁴⁾ 下部: ○○⁴⁾</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>○○</td></tr> </table> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○主排気筒についての記載項目とするため、「支持地盤の許容支持力度」、「支持鉄塔」、「基礎」に関する記載欄は削除する。 ○主排気筒を通過する「流体の種類」は空気であることが明確であることから、発電炉の記載程度に併せて記載欄は削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>	名称	—	主排気筒	種類	—	○○	仕身	主要寸法	出口内径 m ○○ 地上の高さ m ○○	主要材料	—	○○	厚さ	mm	上部: ○○ ⁴⁾ 下部: ○○ ⁴⁾	個数	—	○○	<p>2.4 その他 (16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数 (内筒及び外筒の別に記載すること。)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>主排気筒</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>鉄塔支持型鋼製 (制震装置付[減衰係数: <input type="text"/>]*)¹⁾</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>内径*²⁾ mm</td><td>4500*³⁾ *⁴⁾</td></tr> <tr><td></td><td>地表上の高さ m</td><td>140*⁴⁾</td></tr> <tr><td>材料</td><td>—</td><td>SS400</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>1</td></tr> </table> <p>注記 *1: オイルダンパの減衰係数を示す。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.5 m」と記載。 *4: 公称値を示す。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>非常用ガス処理系排気筒</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>主排気筒支持型鋼製</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>内径*²⁾ mm</td><td>428.6*³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>地表上の高さ*⁴⁾ m</td><td>140*³⁾</td></tr> <tr><td>材料</td><td>—</td><td>SM41B</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>1</td></tr> </table> <p>注記 *1: 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (耐圧強化ベント系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉建屋ガス処理系 非常用ガス処理系) と兼用する。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。 *3: 公称値を示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身高さ」と記載。</p>	名称	—	主排気筒	種類	—	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付[減衰係数: <input type="text"/>]*) ¹⁾	主要寸法	内径* ²⁾ mm	4500* ³⁾ * ⁴⁾		地表上の高さ m	140* ⁴⁾	材料	—	SS400	個数	—	1	名称	—	非常用ガス処理系排気筒	種類	—	主排気筒支持型鋼製	主要寸法	内径* ²⁾ mm	428.6* ³⁾		地表上の高さ* ⁴⁾ m	140* ³⁾	材料	—	SM41B	個数	—	1
名称	—	主排気筒																																																																														
種類	—	四角鉄塔支持形																																																																														
耐震クラス	—	A ¹⁾																																																																														
支持地盤の許容支持力度	MPa	長期: ○○ (○○ ²⁾) ³⁾ 短期: ○○ (○○ ²⁾) ³⁾																																																																														
流体の種類	—	空気																																																																														
仕身	主要寸法	出口内径 m ○○ 地上高さ m ○○																																																																														
支持鉄塔	主要材料	— ○○																																																																														
基礎	主要材料	— 鉄筋: JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定めるSD345 コンクリート: JASS5Nの規定による普通コンクリート 設計基準強度 23.6N/mm ² [240kgf/cm ²]																																																																														
名称	—	主排気筒																																																																														
種類	—	○○																																																																														
仕身	主要寸法	出口内径 m ○○ 地上の高さ m ○○																																																																														
主要材料	—	○○																																																																														
厚さ	mm	上部: ○○ ⁴⁾ 下部: ○○ ⁴⁾																																																																														
個数	—	○○																																																																														
名称	—	主排気筒																																																																														
種類	—	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付[減衰係数: <input type="text"/>]*) ¹⁾																																																																														
主要寸法	内径* ²⁾ mm	4500* ³⁾ * ⁴⁾																																																																														
	地表上の高さ m	140* ⁴⁾																																																																														
材料	—	SS400																																																																														
個数	—	1																																																																														
名称	—	非常用ガス処理系排気筒																																																																														
種類	—	主排気筒支持型鋼製																																																																														
主要寸法	内径* ²⁾ mm	428.6* ³⁾																																																																														
	地表上の高さ* ⁴⁾ m	140* ³⁾																																																																														
材料	—	SM41B																																																																														
個数	—	1																																																																														

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：排風機 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認												
名	称	-	中央制御室送風機 A, B (〇〇)	名	称	-	中央制御室送風機 A, B (機器番号)	名	称	-	中央制御室換気系空気調和器ファン	名	称	-	中央制御室換気系空気調和器ファン					
種	類	-	遠心型	種	類	-	〇〇	種	類	-	遠心式	種	類	-	遠心式					
設計条件	耐震クラス	-	A	設計条件	流体の種類	-	〇〇	設計条件	容量	m ³ /h/個	42500 以上 (42500* ⁴)	主要寸法	吸込口径	mm	660* ⁴					
	流体の種類	-	空気		最高使用圧力	MPa	-		(〇〇 ¹)	吐出口径	mm		840* ⁴ × 550* ⁴	941* ⁴ × 778* ⁴	たて	mm	1114* ⁴	1851* ⁴		
仕様	容量	m ³ /h/個	〇〇	仕様	最高使用温度	℃	(〇〇 ¹)	仕様	高さ	mm	1900* ⁴	1755* ⁴	取付箇所	系統名 (ライン名)	-	中央制御室換気系空気調和器ファン 中央制御室換気系* ⁵	変更なし			
	主要寸法	全高	mm		〇〇	主要寸法	吸込口径		mm	〇〇 ²⁾	個数	-		2	設置床	-	□□ EL. 23.00m* ⁵	溢水防護上の区画番号	-	CS-3-1
	主要材料	ケーシング	-		〇〇		たて		mm	〇〇		横		mm		2210* ⁴	2550* ⁴		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-
個数	-	2 (内 1 個予備)	全高	mm	〇〇		主要材料	ケーシング	-	〇〇		個数	-	〇〇		原動機の種類	-		誘導電動機* ⁵	変更なし
特記事項	本設備は、非常用所内電源系統に接続する。			取付箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇	原動機	出力	kW/個	45* ⁵	取付箇所	-	送風機と同じ* ⁵	設計上の空気の流入率	回/h	1.0* ⁵			
	構造図：第 3.2.4.2-1 図に示す。				溢水防護上の区画番号	-	〇〇		個数	-	2* ⁵									
<p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>○重大事故時の値を記載する必要がある場合は、設備の使用条件 (最高使用圧力/最高使用温度) の記載項目欄を追加する。</p> <p>○主配管との接続性を説明する観点から、吸込口径および吐出口径の記載欄を追加。</p> <p>○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。</p> <p>○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p> <p>○内部飛散物に関する設計として、原動機に記載欄を使いする。</p> <p>○特記事項については、基本設計方針にて展開するため削除する。</p> <p>○設計上の空気の流入率については、居住性評価を行っている対象建屋 (室) に係る排風機において記載する、</p>				<p>注記 1)：重大事故時の使用時の値を示す。</p> <p>2)：既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は平成〇年〇月〇日付け〇第〇号にて認可された設工認申請書の添付図面「〇-〇-〇.〇図 〇〇の構造図」による。</p>				<p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「送風機」と記載。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心」と記載。</p> <p>*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「m³/h r」と記載。</p> <p>*4：公称値を示す。</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>												
												<p>取付箇所</p> <p>設置床</p>				<p>設置床</p>				<p>設置床</p>

表中の「□□」はマスキング箇所を示す。

仕様表の記載項目 (機器分類: フィルタ (常設/可搬))

○高性能粒子フィルタ

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認									
設計条件	名称	-		第1高性能粒子フィルタA, B, C (OO)		名称	-		第1高性能粒子フィルタA, B, C (機器番号)		名称	-					
	種類	-		箱型 (高性能粒子フィルタ2段内蔵形)		種類	-		OO		種類	-					
	機器の種類	-		再処理第2種容器		設計条件	流体の種類	-		OO		効率	単体	高性能粒子フィルタ	%		
		標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³ [normal]			最高使用圧力	kPa		OO				よう素用チャコールフィルタ	%		
			Pu	g/m ³ [normal]			最高使用温度	℃		OO				高性能粒子フィルタ	%		
	耐震クラス	-		A		仕様	容量	m ³ /h/個[normal]		OO		主要寸法	総合	よう素用チャコールフィルタ	%		
	流体の種類	-		廃ガス			粒子除去効率	%		OO				たて	mm		
	最高使用圧力	kPa		外圧OO (OO) ₂₎			主要寸法	吸込口径	mm		-			横	mm		
	最高使用温度	℃		OO				吐出口径	mm		-			高さ	mm		
	容 量	m ³ /h/個[normal]		OO				全長	mm		OO			個 数	-		
粒子除去効率 ¹⁾		%		OO以上 (0.3μmDOP粒子)/段		全幅		mm		OO		取付箇所	系統名 (ライン名)	-			
主要寸法	全長	mm		OO		全高	mm		OO		設置床			-			
	全幅	mm		OO		厚さ	mm		OO		溢水防護上の区画番号	-					
	高さ	mm		OO		ケーシング	-		OO		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-					
主要材料	ケーシング	-		OOL		ろ材	-		OO		注記	* : 公称値を示す。					
	ろ材	-		OO		個数	-		OO			緊急時対策所非常用フィルタ装置A 緊急時対策所換気系		緊急時対策所非常用フィルタ装置B 緊急時対策所換気系			
個 数	-		3 (うち1基は予備)		注記 1) : OO%以上/2段 2) : 単位は(kg/cm ³) 3) : 重大事故時の使用時の値を示す。				注記 * : 公称値を示す。								

表中の「□□」はマスキング対象

○よう素フィルタ

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認								
名 称		-	よう素フィルタA, B (○○)	名称		-	変更前 よう素フィルタA, B	変更後		変更前		変更後				
種 類		-	○○	種類		-	○○	変更なし		種類		- フィルタ装置				
設計条件	機器の種類		-	流体の種類		-	○○	変更なし		効率*2		%				
	耐震クラス		-	最高使用圧力		kPa	○○	変更なし(○○ ¹⁾)		スクラビング水, 金属フィルタ及び銀ゼオライト		粒子状放射性物質				
	流体の種類		-	最高使用温度		℃	○○	変更なし(○○ ¹⁾)		99.9以上		無機よう素 99以上				
	最高使用圧力		kPa	容量		m ³ /h/個 [normal]	○○	変更なし		99以上		有機よう素 99以上				
	最高使用温度		℃	よう素除去効率		%	○○	変更なし		0.31MPa時における定格点の値)		99以上				
仕様	容量		m ³ /h/個 [normal]	主要寸法		吸込口径	mm	-	変更なし		縦		mm			
	よう素除去効率		%	吐出口径		mm	-	変更なし		胴内径		mm		4600* ³		
	主要寸法	胴内径		mm	胴板厚さ		mm	○○	変更なし		鏡板厚さ		mm		□□ (30* ³)	
		胴板厚さ		mm	鏡板厚さ		mm	○○	変更なし		横		mm		4600* ³ (鏡板長径)	
		鏡板厚さ		mm	平板厚さ		mm	○○	変更なし		管台外径 (ベントガス入口)		mm		1150* ³ (鏡板短径の2分の1)	
		平板厚さ		mm	全高		mm	○○	変更なし		管台厚さ (ベントガス入口)		mm		457.2* ³	
		全高		mm	主要材料		胴板	-	○○	変更なし		管台外径 (ベントガス出口)		mm		355.6* ³
	主要材料	胴板		-	ろ材		-	○○	変更なし		管台厚さ (ベントガス出口)		mm		□□ (11.1* ³)	
		鏡板		-	系統名 (ライン名)		-	○○	変更なし		マンホール外径		mm		609.6* ³	
		平板		-	設置床		-	○○	変更なし		マンホール厚さ		mm		□□ (20.0* ³)	
ろ材		-	溢水防護上の区画番号		-	○○	変更なし		マンホール平板厚さ		mm		□□ (83.2* ³)			
個数		-	取付箇所		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○	変更なし		高さ		mm		10000* ³		
特記事項		よう素フィルタ ベッド厚 50mm以上		注記 1) 重大事故時の値を示す。						個数		-		○○		
注記 1) : 単位は(kg/cm ³)				○耐震クラスおよび機器の種類については、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。						取付箇所		系統名 (ライン名)		-		
				○標準濃度については、「機器の種類」を設定する際の根拠であり、「機器の種類」にて必要情報を示していることから記載項目を削除する。(機器の種類についても、主要設備リストへ記載する。)						設置床		-		○○m		
				○主配管との接続性を説明する観点から、吸込口径および吐出口径の記載欄を追加。						溢水防護上の区画番号		-		○○		
				○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。						溢水防護上の配慮が必要な高さ		-		○○		
				○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。						注記 * : 公称値を示す。						

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分：グローブボックス①)

○グローブボックス (遮蔽付き、漏えい液受皿なし)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																														
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">脱硝皿取扱装置第1グローブボックス A、B¹⁾ (○○)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">グローブボックス²⁾</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">仕様</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>放射線防護(しゃへい)</td> <td>-</td> <td>しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要材料</td> <td>本体部</td> <td>-</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">覗き窓部</td> <td>材料</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">しゃへい体</td> <td>材料</td> <td>-</td> <td>○○ ○○¹⁾ ○○</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>密度</td> <td>g/cm³</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td colspan="2">2</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="3"> (1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1 vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンを使用するしゃへい体の操作面は、覗き窓を除きステンレス鋼で被覆する。 (3) 本グローブボックスは脱硝装置グローブボックスA、Bに接続するため、Aクラス地震力により閉じ込め機能を確認する。 </td> </tr> <tr> <td>構造図</td> <td colspan="3">第3.2.5.2.2-7図に示す。</td> </tr> <tr> <td>注記</td> <td colspan="3"> 1) : JIS K 6748の規定による。 2) : 給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 3) : 本グローブボックスは ○○ 及び○○、 ○○ 及び○○と接続している。 </td> </tr> </table>				名称	-	脱硝皿取扱装置第1グローブボックス A、B ¹⁾ (○○)		種類	-	グローブボックス ²⁾		設計条件	耐震クラス	-	B	仕様	最高使用圧力	MPa	○○	最高使用温度	℃	○○	放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。	主要寸法	たて	mm	○○	横	mm	○○	高さ	mm	○○	全高	mm	○○	主要材料	本体部	-	○○	覗き窓部	材料	○○ ○○ ○○	厚さ	mm	○○ ○○ ○○	しゃへい体	材料	-	○○ ○○ ¹⁾ ○○	厚さ	mm	○○ ○○ ○○	密度	g/cm ³	○○ ○○ ○○	個数	-	2		特記事項	(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1 vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンを使用するしゃへい体の操作面は、覗き窓を除きステンレス鋼で被覆する。 (3) 本グローブボックスは脱硝装置グローブボックスA、Bに接続するため、Aクラス地震力により閉じ込め機能を確認する。			構造図	第3.2.5.2.2-7図に示す。			注記	1) : JIS K 6748の規定による。 2) : 給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 3) : 本グローブボックスは ○○ 及び○○、 ○○ 及び○○と接続している。			<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">○○ (機器番号)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">設計条件</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>放射線防護(しゃへい)</td> <td>-</td> <td>しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要材料</td> <td>本体部</td> <td>-</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">覗き窓部</td> <td>材料</td> <td>- ○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>密度</td> <td>g/cm³</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">しゃへい体</td> <td>材料</td> <td>-</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>密度</td> <td>g/cm³</td> <td>○○ ○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td colspan="2">○○</td> </tr> </table>				名称	-	○○ (機器番号)		種類	-	○○		設計条件	最高使用圧力	MPa	○○	最高使用温度	℃	○○	放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。	主要寸法	たて	mm	○○	横	mm	○○	高さ	mm	○○	全高	mm	○○	主要材料	本体部	-	○○	覗き窓部	材料	- ○○ ○○ ○○	厚さ	mm	○○ ○○ ○○	密度	g/cm ³	○○ ○○ ○○	しゃへい体	材料	-	○○ ○○ ○○	厚さ	mm	○○ ○○ ○○	密度	g/cm ³	○○ ○○ ○○	個数	-	○○		<p>該当する設備なし。</p> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。 ○特記事項については、基本設計方針等にて展開するため削除。</p> <p>第○-○表 ○○○のグローブボックスのしゃへい体の厚み及び材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>しゃへい体</th> <th>しゃへい体厚み (mm)</th> <th>材料</th> <th>名称</th> <th>しゃへい体</th> <th>しゃへい体厚み (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">○○</td> <td rowspan="2">前面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td rowspan="7">○○</td> <td rowspan="2">前面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">後面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td rowspan="2">後面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">側面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td rowspan="2">側面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">しゃへい窓</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td rowspan="2">しゃへい窓</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> </tbody> </table>				変更前				変更後				名称	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料	名称	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料	○○	前面しゃへい体	○○	○○	○○	前面しゃへい体	○○	○○	○○	○○	○○	○○	後面しゃへい体	○○	○○	後面しゃへい体	○○	○○	○○	○○	○○	○○	側面しゃへい体	○○	○○	側面しゃへい体	○○	○○	○○	○○	○○	○○	しゃへい窓	○○	○○	しゃへい窓	○○	○○	○○	○○	○○	○○
名称	-	脱硝皿取扱装置第1グローブボックス A、B ¹⁾ (○○)																																																																																																																																																																																																				
種類	-	グローブボックス ²⁾																																																																																																																																																																																																				
設計条件	耐震クラス	-	B																																																																																																																																																																																																			
仕様	最高使用圧力	MPa	○○																																																																																																																																																																																																			
	最高使用温度	℃	○○																																																																																																																																																																																																			
	放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。																																																																																																																																																																																																			
主要寸法	たて	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
	横	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
	高さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
	全高	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
主要材料	本体部	-	○○																																																																																																																																																																																																			
	覗き窓部	材料	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
		厚さ	mm	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																		
しゃへい体	材料	-	○○ ○○ ¹⁾ ○○																																																																																																																																																																																																			
	厚さ	mm	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
	密度	g/cm ³	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
個数	-	2																																																																																																																																																																																																				
特記事項	(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1 vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンを使用するしゃへい体の操作面は、覗き窓を除きステンレス鋼で被覆する。 (3) 本グローブボックスは脱硝装置グローブボックスA、Bに接続するため、Aクラス地震力により閉じ込め機能を確認する。																																																																																																																																																																																																					
構造図	第3.2.5.2.2-7図に示す。																																																																																																																																																																																																					
注記	1) : JIS K 6748の規定による。 2) : 給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 3) : 本グローブボックスは ○○ 及び○○、 ○○ 及び○○と接続している。																																																																																																																																																																																																					
名称	-	○○ (機器番号)																																																																																																																																																																																																				
種類	-	○○																																																																																																																																																																																																				
設計条件	最高使用圧力	MPa	○○																																																																																																																																																																																																			
	最高使用温度	℃	○○																																																																																																																																																																																																			
	放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。																																																																																																																																																																																																			
主要寸法	たて	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
	横	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
	高さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
	全高	mm	○○																																																																																																																																																																																																			
主要材料	本体部	-	○○																																																																																																																																																																																																			
	覗き窓部	材料	- ○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
		厚さ	mm	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																		
密度		g/cm ³	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
しゃへい体	材料	-	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
	厚さ	mm	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
	密度	g/cm ³	○○ ○○ ○○																																																																																																																																																																																																			
個数	-	○○																																																																																																																																																																																																				
変更前				変更後																																																																																																																																																																																																		
名称	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料	名称	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料																																																																																																																																																																																															
○○	前面しゃへい体	○○	○○	○○	前面しゃへい体	○○	○○																																																																																																																																																																																															
		○○	○○			○○	○○																																																																																																																																																																																															
	後面しゃへい体	○○	○○		後面しゃへい体	○○	○○																																																																																																																																																																																															
		○○	○○			○○	○○																																																																																																																																																																																															
	側面しゃへい体	○○	○○		側面しゃへい体	○○	○○																																																																																																																																																																																															
		○○	○○			○○	○○																																																																																																																																																																																															
	しゃへい窓	○○	○○		しゃへい窓	○○	○○																																																																																																																																																																																															
○○		○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																		

しゃへい体等の構造・配置を考慮し、別表として記載することも可とする。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：グローブボックス②)

○グローブボックス (遮蔽付き、漏えい液受皿あり)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																																																														
<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td colspan="2">定量ポットグローブボックスB⁴⁾ (○○)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td colspan="2">グローブボックス³⁾</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>-</td><td colspan="2">A</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td colspan="2">○○</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td colspan="2">○○</td></tr> <tr><td>放射線防護(しゃへい)</td><td>-</td><td colspan="2">しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。</td></tr> <tr><td>漏えい液受皿</td><td>機器の種類</td><td colspan="2">再処理第5種容器</td></tr> <tr><td rowspan="6">主要寸法</td><td>たて</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>横</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>高さ¹⁾</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="2">漏えい液受皿深さ</td><td>深さ</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>本体板厚さ</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>本体部</td><td>-</td><td>○○</td></tr> <tr><td>漏えい液受皿部</td><td>-</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="3">覗き窓部</td><td>材料</td><td>-</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>密度</td><td>g/cm³</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="3">しゃへい体</td><td>材料</td><td>-</td><td>○○</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>○○</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>密度</td><td>g/cm³</td><td>○○</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td colspan="2">1</td></tr> <tr><td>特記事項</td><td>-</td><td colspan="2">(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンは可能な限り、ステンレスで被覆する。</td></tr> <tr><td colspan="4">構造図：第3.2.5.2.1-7図に示す。</td></tr> <tr><td colspan="4">注記 1)：漏えい液受皿部深さも含む。 2)：JIS K 6748の規定による。 3)：給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 4)：本グローブボックスは ○○ と接続している。</td></tr> </table>				名称	-	定量ポットグローブボックスB ⁴⁾ (○○)		種類	-	グローブボックス ³⁾		耐震クラス	-	A		最高使用圧力	MPa	○○		最高使用温度	℃	○○		放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。		漏えい液受皿	機器の種類	再処理第5種容器		主要寸法	たて	mm	○○	横	mm	○○	高さ ¹⁾	mm	○○	全高	mm	○○	漏えい液受皿深さ	深さ	mm	○○	本体板厚さ	mm	○○	主要材料	本体部	-	○○	漏えい液受皿部	-	○○	覗き窓部	材料	-	○○	○○	厚さ	mm	○○	○○	密度	g/cm ³	○○	○○	しゃへい体	材料	-	○○	○○	○○	厚さ	mm	○○	○○	○○	密度	g/cm ³	○○	○○	○○	個数	-	1		特記事項	-	(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンは可能な限り、ステンレスで被覆する。		構造図：第3.2.5.2.1-7図に示す。				注記 1)：漏えい液受皿部深さも含む。 2)：JIS K 6748の規定による。 3)：給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 4)：本グローブボックスは ○○ と接続している。				<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td colspan="2">○○グローブボックス</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td colspan="2">○○</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td colspan="2">○○</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td colspan="2">○○</td></tr> <tr><td>放射線防護(しゃへい)</td><td>-</td><td colspan="2">しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。</td></tr> <tr><td>漏えい液受皿部</td><td>機器の種類</td><td colspan="2">○○</td></tr> <tr><td rowspan="6">主要寸法</td><td>たて</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>横</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>高さ¹⁾</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="2">漏えい液受皿深さ</td><td>深さ</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td>本体板厚さ</td><td>mm</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>本体部</td><td>-</td><td>○○</td></tr> <tr><td>漏えい液受皿部</td><td>-</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="3">覗き窓部</td><td>材料</td><td>-</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>密度</td><td>g/cm³</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td rowspan="3">しゃへい体</td><td>材料</td><td>-</td><td>○○</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>○○</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>密度</td><td>g/cm³</td><td>○○</td><td>○○</td><td>○○</td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td colspan="2">○○</td></tr> </table>				名称	-	○○グローブボックス		種類	-	○○		最高使用圧力	MPa	○○		最高使用温度	℃	○○		放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。		漏えい液受皿部	機器の種類	○○		主要寸法	たて	mm	○○	横	mm	○○	高さ ¹⁾	mm	○○	全高	mm	○○	漏えい液受皿深さ	深さ	mm	○○	本体板厚さ	mm	○○	主要材料	本体部	-	○○	漏えい液受皿部	-	○○	覗き窓部	材料	-	○○	○○	厚さ	mm	○○	○○	密度	g/cm ³	○○	○○	しゃへい体	材料	-	○○	○○	○○	厚さ	mm	○○	○○	○○	密度	g/cm ³	○○	○○	○○	個数	-	○○		<p>該当する設備なし。</p> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。 ○特記事項については、基本設計方針等にて展開するため削除。</p> <p>第○-○表 ○○○のグローブボックスのしゃへい体の厚み及び材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="3">変更前</th> <th colspan="3">変更後</th> </tr> <tr> <th>しゃへい体</th> <th>しゃへい体厚み (mm)</th> <th>材料</th> <th>しゃへい体</th> <th>しゃへい体厚み (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">○○</td> <td>前面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td rowspan="4">○○</td> <td>前面しゃへい体</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>後面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>後面しゃへい体</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>側面しゃへい体</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>側面しゃへい体</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>しゃへい窓</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>しゃへい窓</td> <td>○○</td> </tr> </tbody> </table>				名称	変更前			変更後			しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料	○○	前面しゃへい体	○○	○○	○○	前面しゃへい体	○○	後面しゃへい体	○○	○○	後面しゃへい体	○○	側面しゃへい体	○○	○○	側面しゃへい体	○○	しゃへい窓	○○	○○	しゃへい窓	○○
名称	-	定量ポットグローブボックスB ⁴⁾ (○○)																																																																																																																																																																																																																																				
種類	-	グローブボックス ³⁾																																																																																																																																																																																																																																				
耐震クラス	-	A																																																																																																																																																																																																																																				
最高使用圧力	MPa	○○																																																																																																																																																																																																																																				
最高使用温度	℃	○○																																																																																																																																																																																																																																				
放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。																																																																																																																																																																																																																																				
漏えい液受皿	機器の種類	再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																																																				
主要寸法	たて	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	横	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	高さ ¹⁾	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	全高	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	漏えい液受皿深さ	深さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																		
		本体板厚さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																		
主要材料	本体部	-	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	漏えい液受皿部	-	○○																																																																																																																																																																																																																																			
覗き窓部	材料	-	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																		
	厚さ	mm	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																		
	密度	g/cm ³	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																		
しゃへい体	材料	-	○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																	
	厚さ	mm	○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																	
	密度	g/cm ³	○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																	
個数	-	1																																																																																																																																																																																																																																				
特記事項	-	(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンは可能な限り、ステンレスで被覆する。																																																																																																																																																																																																																																				
構造図：第3.2.5.2.1-7図に示す。																																																																																																																																																																																																																																						
注記 1)：漏えい液受皿部深さも含む。 2)：JIS K 6748の規定による。 3)：給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 4)：本グローブボックスは ○○ と接続している。																																																																																																																																																																																																																																						
名称	-	○○グローブボックス																																																																																																																																																																																																																																				
種類	-	○○																																																																																																																																																																																																																																				
最高使用圧力	MPa	○○																																																																																																																																																																																																																																				
最高使用温度	℃	○○																																																																																																																																																																																																																																				
放射線防護(しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。																																																																																																																																																																																																																																				
漏えい液受皿部	機器の種類	○○																																																																																																																																																																																																																																				
主要寸法	たて	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	横	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	高さ ¹⁾	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	全高	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	漏えい液受皿深さ	深さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																		
		本体板厚さ	mm	○○																																																																																																																																																																																																																																		
主要材料	本体部	-	○○																																																																																																																																																																																																																																			
	漏えい液受皿部	-	○○																																																																																																																																																																																																																																			
覗き窓部	材料	-	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																		
	厚さ	mm	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																		
	密度	g/cm ³	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																		
しゃへい体	材料	-	○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																	
	厚さ	mm	○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																	
	密度	g/cm ³	○○	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																	
個数	-	○○																																																																																																																																																																																																																																				
名称	変更前			変更後																																																																																																																																																																																																																																		
	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料	しゃへい体	しゃへい体厚み (mm)	材料																																																																																																																																																																																																																																
○○	前面しゃへい体	○○	○○	○○	前面しゃへい体	○○																																																																																																																																																																																																																																
	後面しゃへい体	○○	○○		後面しゃへい体	○○																																																																																																																																																																																																																																
	側面しゃへい体	○○	○○		側面しゃへい体	○○																																																																																																																																																																																																																																
	しゃへい窓	○○	○○		しゃへい窓	○○																																																																																																																																																																																																																																

しゃへい体等の構造・配置を考慮し、別表として記載することも可とする。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：放管設備 (常設/可搬))

○主排気筒ガスモニタ

既設工認			仕様表項目案					発電炉工認																																																																																																																																																																																		
<p>② 屋外モニタリング設備</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td>主排気筒ガスモニタ</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">検出器の種類</td> <td>—</td> <td>プラスチックシンチレーション検出器</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>電離箱</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測範囲</td> <td>cpm</td> <td>〇〇~〇〇 〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報動作範囲</td> <td>cpm</td> <td>〇〇~〇〇 〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置建屋及び検出器個数</td> <td>—</td> <td>主排気筒管理建屋 低レンジ 2 中レンジ 2 高レンジ 2</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="2">主排気筒の排気筒モニタ (主排気筒ガスモニタ) は非常用所内電源系統に接続する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">構造図：第3.2.1-1図~第3.2.1-5図に示す。</td> </tr> </table>			名称	—	主排気筒ガスモニタ	設計条件	耐震クラス	A	検出器の種類	—	プラスチックシンチレーション検出器	—	電離箱	計測範囲	cpm	〇〇~〇〇 〇〇~〇〇	A	〇〇~〇〇	警報動作範囲	cpm	〇〇~〇〇 〇〇~〇〇	A	〇〇~〇〇	設置建屋及び検出器個数	—	主排気筒管理建屋 低レンジ 2 中レンジ 2 高レンジ 2	表示場所	—	中央制御室	特記事項	主排気筒の排気筒モニタ (主排気筒ガスモニタ) は非常用所内電源系統に接続する。		構造図：第3.2.1-1図~第3.2.1-5図に示す。			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="4">主排気筒ガスモニタ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">検出器の種類</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">プラスチックシンチレーション</td> <td colspan="2">電離箱</td> </tr> <tr> <td>低レンジ</td> <td>中レンジ</td> <td>高レンジ</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測範囲</td> <td>mSv/h</td> <td>〇~〇</td> <td>〇~〇</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">〇~〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報動作範囲</td> <td>mSv/h</td> <td>〇~〇</td> <td>〇~〇</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">〇~〇</td> </tr> <tr> <td>設置施設及び検出器個数</td> <td>—</td> <td>主排気筒管理建屋 低レンジ 〇〇 中レンジ ×× 高レンジ △△</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td colspan="4">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td colspan="3">〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td colspan="3">〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="3">〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="3">〇〇</td> </tr> </tbody> </table>							変更前		変更後		名称	—	主排気筒ガスモニタ				検出器の種類	—	プラスチックシンチレーション		電離箱		低レンジ	中レンジ	高レンジ		計測範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—		A	—		〇~〇		警報動作範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—		A	—		〇~〇		設置施設及び検出器個数	—	主排気筒管理建屋 低レンジ 〇〇 中レンジ ×× 高レンジ △△				表示場所	—	〇〇				取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇			設置床	—	〇〇			溢水防護上の区画番号	—	〇〇			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇			<p>放射線管理施設 1 放射線管理用計測装置に係る次の事項 (警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。)</p> <p>(1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項 イ 主排気筒中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所 (常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。) 及び個数</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="4">主排気筒放射線モニタ</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>—</td> <td colspan="4">電離箱*</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>mSv/h</td> <td colspan="4">10²~10⁴ **</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲**</td> <td>mSv/h</td> <td colspan="4">10²~10⁴ **</td> </tr> <tr> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td colspan="4">主排気筒放射線モニタ</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td colspan="4">EL.20.30 m (監視・記録は中央制御室) **</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="4">RB-3-2</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="4">EL.20.30 m以上</td> </tr> <tr> <td>個数**</td> <td>—</td> <td colspan="4">4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="4">変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」と記載。 *2: S I 単位に換算したもの。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「警報設定範囲」と記載。 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器数」と記載。</p> <p>○耐震クラスについては、主要設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。 ○特記事項については、基本設計方針等にて展開するため削除する。</p>					変更前		変更後		名称	—	主排気筒放射線モニタ				検出器の種類	—	電離箱*				計測範囲	mSv/h	10 ² ~10 ⁴ **				警報動作範囲**	mSv/h	10 ² ~10 ⁴ **				系統名 (ライン名)	—	主排気筒放射線モニタ				設置床	—	EL.20.30 m (監視・記録は中央制御室) **				溢水防護上の区画番号	—	RB-3-2				溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	EL.20.30 m以上				個数**	—	4						変更なし			
名称	—	主排気筒ガスモニタ																																																																																																																																																																																								
設計条件	耐震クラス	A																																																																																																																																																																																								
検出器の種類	—	プラスチックシンチレーション検出器																																																																																																																																																																																								
	—	電離箱																																																																																																																																																																																								
計測範囲	cpm	〇〇~〇〇 〇〇~〇〇																																																																																																																																																																																								
	A	〇〇~〇〇																																																																																																																																																																																								
警報動作範囲	cpm	〇〇~〇〇 〇〇~〇〇																																																																																																																																																																																								
	A	〇〇~〇〇																																																																																																																																																																																								
設置建屋及び検出器個数	—	主排気筒管理建屋 低レンジ 2 中レンジ 2 高レンジ 2																																																																																																																																																																																								
表示場所	—	中央制御室																																																																																																																																																																																								
特記事項	主排気筒の排気筒モニタ (主排気筒ガスモニタ) は非常用所内電源系統に接続する。																																																																																																																																																																																									
構造図：第3.2.1-1図~第3.2.1-5図に示す。																																																																																																																																																																																										
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																						
名称	—	主排気筒ガスモニタ																																																																																																																																																																																								
検出器の種類	—	プラスチックシンチレーション		電離箱																																																																																																																																																																																						
		低レンジ	中レンジ	高レンジ																																																																																																																																																																																						
計測範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—																																																																																																																																																																																						
	A	—		〇~〇																																																																																																																																																																																						
警報動作範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—																																																																																																																																																																																						
	A	—		〇~〇																																																																																																																																																																																						
設置施設及び検出器個数	—	主排気筒管理建屋 低レンジ 〇〇 中レンジ ×× 高レンジ △△																																																																																																																																																																																								
表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																																																								
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇																																																																																																																																																																																							
	設置床	—	〇〇																																																																																																																																																																																							
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																																																																																							
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																																																							
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																						
名称	—	主排気筒放射線モニタ																																																																																																																																																																																								
検出器の種類	—	電離箱*																																																																																																																																																																																								
計測範囲	mSv/h	10 ² ~10 ⁴ **																																																																																																																																																																																								
警報動作範囲**	mSv/h	10 ² ~10 ⁴ **																																																																																																																																																																																								
系統名 (ライン名)	—	主排気筒放射線モニタ																																																																																																																																																																																								
設置床	—	EL.20.30 m (監視・記録は中央制御室) **																																																																																																																																																																																								
溢水防護上の区画番号	—	RB-3-2																																																																																																																																																																																								
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	EL.20.30 m以上																																																																																																																																																																																								
個数**	—	4																																																																																																																																																																																								
		変更なし																																																																																																																																																																																								

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 放管設備 (常設/可搬))

○モニタリングポスト、ダストモニタ

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																					
<p>c. 設計条件及び仕様 (a) 放射線監視設備 ① 屋外モニタリング設備 環境モニタリング設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th></th> <th colspan="2">モニタリングポスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td colspan="2">C</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td>NaI(Tl)シンチレーション検出器</td> <td>電離箱</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇 ~ 〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇 ~ 〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td colspan="2">9</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td colspan="2">使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室</td> </tr> </tbody> </table> <p>配置図: 第1.1.1-1図に示す。 系統図: 第2.1.1-1図に示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th></th> <th colspan="2">ダストモニタ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td colspan="2">C</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td colspan="2">プラスチックシンチレーション検出器</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>cps</td> <td>〇〇 ~ 〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>cps</td> <td>〇〇 ~ 〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td colspan="2">9</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td colspan="2">使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室</td> </tr> </tbody> </table> <p>配置図: 第1.1.1-1図に示す。 系統図: 第2.1.1-2図に示す。</p>				名称		モニタリングポスト		設計条件	耐震クラス	C		仕様	検出器の種類	NaI(Tl)シンチレーション検出器	電離箱	計測範囲	μGy/h	〇〇 ~ 〇〇	警報動作範囲	μGy/h	〇〇 ~ 〇〇	検出器個数	9		表示場所	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室		名称		ダストモニタ		設計条件	耐震クラス	C		仕様	検出器の種類	プラスチックシンチレーション検出器		計測範囲	cps	〇〇 ~ 〇〇	警報動作範囲	cps	〇〇 ~ 〇〇	検出器個数	9		表示場所	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="3">モニタリングポスト</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td>NaI(Tl)シンチレーション検出器</td> <td colspan="2">電離箱</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇~〇〇</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇~〇〇</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> </tbody> </table>						変更前	変更後		名称		モニタリングポスト			仕様	検出器の種類	NaI(Tl)シンチレーション検出器	電離箱		計測範囲	μGy/h	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇	警報動作範囲	μGy/h	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇	検出器個数	-	〇〇	〇〇	表示場所	-	〇〇		取付箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇		設置床	-	〇〇		溢水防護上の区画番号	-	〇〇		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇		<p>(3) 固定式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所 (監視・記録の場所を付記すること。) 及び個数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td></td> <td colspan="3">モニタリング・ポスト (東海、東海第二発電所共用) *1</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td></td> <td>シンチレーション*2</td> <td colspan="2">電離箱*2</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td></td> <td>10⁰~10⁰ nGy/h</td> <td colspan="2">10⁰~10² Gy/h</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td></td> <td>10⁰~10⁰ nGy/h*3</td> <td colspan="2">10⁰~10² Gy/h*3</td> </tr> <tr> <td>系統名 (ライン名)</td> <td></td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td></td> <td colspan="3">屋外 EL約4m, EL約8m, EL約17m, EL約23m 発電所周辺監視区域境界近傍 (監視・記録は中央制御室) *4</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td></td> <td colspan="3">-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td></td> <td colspan="3">-</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>4*5</td> <td colspan="2">4*5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「モニタリングポスト (東海発電所と共用)」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「シンチレーション及び電離箱」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計測範囲内で可変」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電所周辺監視区域境界近傍に4箇所設置 (監視・記録は中央制御室にて行う)」と記載。 *5: モニタリング・ポストは4箇所あり、モニタリング・ポスト1箇所あたりの検出器の個数は「1」である。</p> <p>○耐震クラスについては、設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○構造図については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。</p>						変更前	変更後		名称		モニタリング・ポスト (東海、東海第二発電所共用) *1			検出器の種類		シンチレーション*2	電離箱*2		計測範囲		10 ⁰ ~10 ⁰ nGy/h	10 ⁰ ~10 ² Gy/h		警報動作範囲		10 ⁰ ~10 ⁰ nGy/h*3	10 ⁰ ~10 ² Gy/h*3		系統名 (ライン名)		-	-		設置床		屋外 EL約4m, EL約8m, EL約17m, EL約23m 発電所周辺監視区域境界近傍 (監視・記録は中央制御室) *4			溢水防護上の区画番号		-			溢水防護上の配慮が必要な高さ		-			個数		4*5	4*5	
名称		モニタリングポスト																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	C																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	NaI(Tl)シンチレーション検出器	電離箱																																																																																																																																																										
	計測範囲	μGy/h	〇〇 ~ 〇〇																																																																																																																																																										
	警報動作範囲	μGy/h	〇〇 ~ 〇〇																																																																																																																																																										
	検出器個数	9																																																																																																																																																											
	表示場所	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室																																																																																																																																																											
名称		ダストモニタ																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	C																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	プラスチックシンチレーション検出器																																																																																																																																																											
	計測範囲	cps	〇〇 ~ 〇〇																																																																																																																																																										
	警報動作範囲	cps	〇〇 ~ 〇〇																																																																																																																																																										
	検出器個数	9																																																																																																																																																											
	表示場所	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室																																																																																																																																																											
		変更前	変更後																																																																																																																																																										
名称		モニタリングポスト																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	NaI(Tl)シンチレーション検出器	電離箱																																																																																																																																																										
	計測範囲	μGy/h	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇																																																																																																																																																									
	警報動作範囲	μGy/h	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇																																																																																																																																																									
	検出器個数	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																									
	表示場所	-	〇〇																																																																																																																																																										
取付箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																																																																																																																										
	設置床	-	〇〇																																																																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																																																																																										
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																																																																																										
			変更前	変更後																																																																																																																																																									
名称		モニタリング・ポスト (東海、東海第二発電所共用) *1																																																																																																																																																											
検出器の種類		シンチレーション*2	電離箱*2																																																																																																																																																										
計測範囲		10 ⁰ ~10 ⁰ nGy/h	10 ⁰ ~10 ² Gy/h																																																																																																																																																										
警報動作範囲		10 ⁰ ~10 ⁰ nGy/h*3	10 ⁰ ~10 ² Gy/h*3																																																																																																																																																										
系統名 (ライン名)		-	-																																																																																																																																																										
設置床		屋外 EL約4m, EL約8m, EL約17m, EL約23m 発電所周辺監視区域境界近傍 (監視・記録は中央制御室) *4																																																																																																																																																											
溢水防護上の区画番号		-																																																																																																																																																											
溢水防護上の配慮が必要な高さ		-																																																																																																																																																											
個数		4*5	4*5																																																																																																																																																										

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：通信連絡設備)

既設工認		仕様表項目案			発電炉工認		
仕様	名称	プロセス用データ収集装置			名称	変更前	変更後
	主要な収集データ	<ol style="list-style-type: none"> せん断処理施設関係 溶解施設関係 分離施設関係 精製施設関係 脱硝施設関係 酸及び溶媒の回収施設関係 製品貯蔵施設関係 安全保護系関係 放射性廃棄物の廃棄施設関係 その他再処理設備の付属施設関係 			種類	データ収集装置	
取付箇所					仕様	主要な収集データ	〇〇
					個数		〇〇
					取付箇所	系統名 (ライン名)	〇〇
						設置床	〇〇
						溢水防護上の区画番号	〇〇
				溢水防護上の配慮が必要な高さ		〇〇	
					○他の仕様表記載と体裁を合わせる。 ○溢水影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。		
注記		1) データ収集対象は、第7回申請に記載した第2.3.1-1表～第2.3.1-5表、第8回申請に記載した第2.3.1-1表～第2.3.1-17表及び第2.3.1-1表に示すもののうち、表示機能 (指示・警報) である。			(1) 基本設計方針 第2章 個別項目 4. 通信連絡設備 4.1 通信連絡設備 (発電所内) 原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障その他の異常の際に、中央制御室等から人が立ち入る可能性のある原子炉建屋、タービン建屋等の建屋内外各所の人に操作、作業、退避の指示、事故対策のための集合等の連絡をブザー鳴動等により行うことができる設備及び音声等により行うことができる設備として、警報装置及び通信設備 (発電所内) を設置又は保管する設計とする。 (省略) 4.2 通信連絡設備 (発電所外) 設計基準事故が発生した場合において、発電所外の本店 (東京)、国、地方公共団体、その他関係機関等の必要箇所へ事故の発生等に係る連絡を音声等により行うことができる通信設備 (発電所外) として、十分な数量の電力保安通信用電話設備 (固定電話機、PHS端末及びFAX)、テレビ会議システム (社内) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。))、加入電話設備 (加入電話及び加入FAX) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。))、専用電話設備 (専用電話 (ホットライン) (地方公共団体向)) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。))、衛星電話設備 (固定型)、衛星電話設備 (携帯型) 及び統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (テレビ会議システム、IP電話及びIP-FAX) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。)) を設置又は保管する設計とする。 (省略)		
仕様	名称	放射線管理用データ収集装置					
	主要な収集データ	<ol style="list-style-type: none"> 放射線管理関係 					
注記		1) データ収集対象は、第6回申請、第8回申請及び第9回申請に記載する屋内モニタリング設備のガンマ線エリアモニタ、中性子線エリアモニタ、アルファ線ダストモニタ及びベータ線ダストモニタの仕様表並びに第9回申請に記載する屋外モニタリング設備の主排気筒ガスモニタの仕様表に示すもののうち、「設置建屋及び検出器個数」に記載されたモニタの指示及び警報状態である。					

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 可搬型タンクローリ)

既設工認	仕様表項目案				発電炉工認			
対象フォーマットなし (申請設備なし)					・可搬型			
<p>○新規設備であり、類似設備の仕様表がないため、発電炉の要目表記載項目を参照して記載項目を整理。 ○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。</p>	名称		変更前	変更後	名称		変更前	変更後
	種類		軽油用タンクローリ		種類		-	タンクローリ*1
	容量		kL/個	○○	容量	kL/個	横置だ円形	
	最高使用圧力		kPa	○○	最高使用圧力*3		kPa	4.0以上 (4.0*2)
	最高使用温度		℃	○○	最高使用温度*3		℃	24
	主要寸法		胴長径	mm	胴長径	mm	1800*2	
			胴短径	mm	胴短径	mm	930*2	
			胴板厚さ	mm	胴板厚さ	mm	□ (3.2*2)	
			鏡板厚さ	mm	鏡板厚さ	mm	□ (3.2*2)	
			鏡板の形状に係る寸法	mm	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2 (鏡板長径)	
			排出口管台外径	mm	排出口管台外径	mm	80*2 (鏡板短径の2分の1)	
			排出口管台厚さ	mm	排出口管台厚さ	mm	137.9*2	
			マンホール管台外径	mm	マンホール管台外径	mm	2.8 (3.2*2)	
			マンホール管台厚さ	mm	マンホール管台厚さ	mm	406.4*2	
			マンホールふた厚さ	mm	マンホールふた厚さ	mm	□ (3.2*2)	
			全長	mm	全長	mm	□ (3.2*2)	
			車両全長	mm	車両全長	mm	3350*2	
			車両全幅	mm	車両全幅	mm	5910*2	
			車両高さ	mm	車両高さ	mm	2200*2	
	材料		胴板	-	胴板	-	SAPH400, SS400	
			鏡板	-	鏡板	-	SAPH400	
			マンホールふた	-	マンホールふた	-	SAPH400	
	個数		-	○○	個数		-	2 (予備 3)
	取付箇所		-	○○				

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ボンベ)

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																																								
対象フォーマットなし (申請設備なし)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: left;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width:20%;">名称</td> <td style="width:10%;">—</td> <td style="width:10%;">可搬型圧縮空気ポンベ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">設計条件</td> <td>容量</td> <td>L/個</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">仕様</td> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">寸法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">様</td> <td>材料</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>〇 (うち予備〇)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (保管場所: 〇 E.L. 〇m 取付箇所: 〇 E.L. 〇m) </td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○新規設備であり、類似設備の仕様表がないため、発電炉の要目表記載項目を参照して記載項目を整理。 ○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。</p> </div>	変更前			変更前	変更後	名称	—	可搬型圧縮空気ポンベ			種類	—	〇〇			設計条件	容量	L/個	〇〇		最高使用圧力	MPa	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇		仕様	寸法	外径	mm	〇〇	高さ	mm	〇〇	胴部厚さ	mm	〇〇	底部厚さ	mm	〇〇	様	材料	—	〇〇		個数	—	〇 (うち予備〇)		取付箇所	—	(保管場所: 〇 E.L. 〇m 取付箇所: 〇 E.L. 〇m)		<p>8.2 非常用窒素供給系 (2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・可搬型</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: left;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td>非常用窒素供給系 高圧窒素ポンベ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td></td> <td>一般継目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>L/個</td> <td></td> <td>46.7以上 (46.7*1)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*2</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>14.7</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*2</td> <td>℃</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">主要寸法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>232*1</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1370*1</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>□□ (5.1*1)</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>□□ (10.2*1)</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>—</td> <td></td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td></td> <td>10 (予備 10)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 保管場所: □□ EL. 20.30 m 取付箇所: □□ EL. 20.30 m (10本: □□ EL. 20.30 m) </td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 重大事故等時における使用時の値を示す。</p>	変更前		変更前	変更後	名称			非常用窒素供給系 高圧窒素ポンベ	種類	—		一般継目なし鋼製容器	容量	L/個		46.7以上 (46.7*1)	最高使用圧力*2	MPa		14.7	最高使用温度*2	℃		40	主要寸法	外径	mm	232*1	高さ	mm	1370*1	胴部厚さ	mm	□□ (5.1*1)	底部厚さ	mm	□□ (10.2*1)	材料	—		マンガン鋼	個数	—		10 (予備 10)	取付箇所	—		保管場所: □□ EL. 20.30 m 取付箇所: □□ EL. 20.30 m (10本: □□ EL. 20.30 m)
変更前			変更前	変更後																																																																																																						
名称	—	可搬型圧縮空気ポンベ																																																																																																								
種類	—	〇〇																																																																																																								
設計条件	容量	L/個	〇〇																																																																																																							
	最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																							
	最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																							
仕様	寸法	外径	mm	〇〇																																																																																																						
		高さ	mm	〇〇																																																																																																						
		胴部厚さ	mm	〇〇																																																																																																						
		底部厚さ	mm	〇〇																																																																																																						
様	材料	—	〇〇																																																																																																							
	個数	—	〇 (うち予備〇)																																																																																																							
	取付箇所	—	(保管場所: 〇 E.L. 〇m 取付箇所: 〇 E.L. 〇m)																																																																																																							
変更前		変更前	変更後																																																																																																							
名称			非常用窒素供給系 高圧窒素ポンベ																																																																																																							
種類	—		一般継目なし鋼製容器																																																																																																							
容量	L/個		46.7以上 (46.7*1)																																																																																																							
最高使用圧力*2	MPa		14.7																																																																																																							
最高使用温度*2	℃		40																																																																																																							
主要寸法	外径	mm	232*1																																																																																																							
	高さ	mm	1370*1																																																																																																							
	胴部厚さ	mm	□□ (5.1*1)																																																																																																							
	底部厚さ	mm	□□ (10.2*1)																																																																																																							
材料	—		マンガン鋼																																																																																																							
個数	—		10 (予備 10)																																																																																																							
取付箇所	—		保管場所: □□ EL. 20.30 m 取付箇所: □□ EL. 20.30 m (10本: □□ EL. 20.30 m)																																																																																																							

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：緊急時対策建屋加圧ユニット)

既設工認	仕様表項目案				発電炉工認			
対象フォーマットなし (申請設備なし)					2.3 緊急時対策所換気系 (1) 容器 (中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。) の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。) ・可搬型			
			変更前	変更後			変更前	変更後
	名	称	緊急時対策建屋加圧ユニット		緊急時対策所加圧設備 (東海、東海第二発電所共用)			
	種類	-	〇〇		一般継目なし鋼製容器			
	容量	m ³ /個	〇〇		46.7以上 (46.7* ¹)			
	最高使用圧力	MPa	〇〇		19.6			
	最高使用温度	℃	〇〇		40			
	主要寸法	外径	mm	〇〇	232* ¹			
		高さ	mm	〇〇	1370* ¹			
		胴部厚さ	mm	〇〇	□ (6.3* ¹)			
		底部厚さ	mm	〇〇	□ (11.0* ¹)			
	主要材料		-	〇〇	クロムモリブデン鋼			
	個数		-	〇〇	320 (予備 80)			
	取付箇所		-	保管場所： 〇〇 EL. 〇m 取付箇所： 〇〇 EL. 〇m	保管場所： 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m 取付箇所： 320本 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m			
○新規設備であり、類似設備の仕様表がないため、発電炉の要目表記載項目を参照して記載項目を整理。 ○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。								
注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故等時における使用時の値を示す。								

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: フェンス)

既設工認	仕様表項目案			発電炉工認
対象フォーマットなし (申請設備なし)		変更前	変更後	<p>(1) 基本設計方針 第2章 個別項目</p> <p>2. 燃料貯蔵設備 (省略) 燃料体等の貯蔵設備は、燃料取扱者以外の者がみだりに立ち入らないよう、フェンス等により立入を制限できる設計とする。</p> <p>2.3 外部からの衝撃による損傷の防止 2.3.3 設計方針 (1) 自然現象 (a) 影響評価における荷重の設定 (省略) また、当社敷地近傍の隣接事業所から、設計飛来物である鋼製材の運動エネルギー又は貫通力を上回る飛来物が想定される場合は、隣接事業所との合意文書に基づきフェンス等の設置により飛来物となるものを配置できない設計とすること若しくは当該飛来物の衝撃荷重を考慮した設計荷重に対し、外部事象防護対象施設及び外部事象防護対象施設を内包する区画の構造健全性を確保する設計とすること若しくは当該飛来物による外部事象防護対象施設の損傷を考慮して、代替設備により必要な機能を確保すること若しくは安全上支障のない期間で修復等の対応を行うこと又はそれらを適切に組み合わせることで、その安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>5.8 電気設備の設計条件 5.8.1 設計基準対象施設及び重大事故等対処施設 (省略) 電気設備のうち高圧又は特別高圧の電気機械器具及び母線等は、取扱者以外の者が容易に立ち入るおそれがないよう発電所にフェンス等を設ける設計とする。</p>
	名称	可搬型汚濁水拡散防止フェンス		
	材質	〇〇		
	個数	〇〇		
	取付箇所	〇〇		

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: 可搬型放水砲)

既設工認	仕様表項目案			発電炉工認																																																																																																								
<p>対象フォーマットなし (申請設備なし)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="2">可搬型放水砲</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>k Pa</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>外径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td colspan="2"> 保管場所: 〇〇 EL. 〇m (取付箇所: 〇〇 EL. 〇m) </td> </tr> </tbody> </table>					変更前	変更後	名称	—	可搬型放水砲		最高使用圧力	k Pa	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇		外径	mm	〇〇		厚さ	mm	〇〇		材料	—	〇〇		個数	—	〇〇		取付箇所	—	保管場所: 〇〇 EL. 〇m (取付箇所: 〇〇 EL. 〇m)		<p>※ 主配管 (スプレッドを含む) の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料 (実設及び可搬型の別) に記載し、可搬型の場合は、個数及び取付箇所を付記すること。</p> <p>・可搬型</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">定 更 前</th> <th colspan="2">定 更 後</th> <th colspan="2">定 更 後</th> <th colspan="2">定 更 後</th> <th colspan="2">定 更 後</th> <th colspan="2">定 更 後</th> <th colspan="2">取付箇所</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>個数</th> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放水砲</td> <td>1.4**</td> <td>60**</td> <td>300</td> <td>3**</td> <td>ポリウレタン、ゴジエスチル</td> <td>40</td> <td>放水砲</td> <td>1.0**</td> <td>60**</td> <td>218.5**</td> <td>15.3**</td> <td>SS304TP</td> <td>1</td> <td> 保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m 上記2箇所に1台ずつ保管する。 取付箇所: ・屋外 EL. 約 8 m 可搬型代替注水大型ポンプ ・屋外 EL. 約 8 m 取水砲 (60本***) </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>放水砲</td> <td>1.0**</td> <td>60**</td> <td>218.5**</td> <td>8.2**</td> <td>SS304TP</td> <td>1</td> <td> 保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m 上記2箇所に1台ずつ保管する。 取付箇所: ・屋外 EL. 約 8 m 原子炉建屋周辺 (1箇) </td> </tr> </tbody> </table> <p>注記: *1: 自燃性物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち、使用済燃料貯蔵槽及び浄化設備 (原子炉建屋放水設備) と兼用する。 *2: 重大事故等時における使用時の値を示す。 *3: メーカーにて規定する呼び径を示す。 *4: メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものとして、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。 *5: 必要本数 40本 (3 m: 20本、50 m: 40本) 及び予備数 1本に、これらと同数を予備として1セット加入した数値を示す。 *6: 最長ルートである「可搬型代替注水大型ポンプ (5人用取水ポンプ付)」～放水砲 (原子炉建屋南側) (最長ルート) と兼設した場合 (3 m: 20本、50 m: 40本) の本数を示す。 *7: 放水砲付 (公称径) 170 mm、長さ 2185 mm、高さ 2185 mm *8: 公称径を示す。</p>										定 更 前		定 更 後		定 更 後		定 更 後		定 更 後		定 更 後		取付箇所		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	放水砲	1.4**	60**	300	3**	ポリウレタン、ゴジエスチル	40	放水砲	1.0**	60**	218.5**	15.3**	SS304TP	1	保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m 上記2箇所に1台ずつ保管する。 取付箇所: ・屋外 EL. 約 8 m 可搬型代替注水大型ポンプ ・屋外 EL. 約 8 m 取水砲 (60本***)								放水砲	1.0**	60**	218.5**	8.2**	SS304TP	1	保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m 上記2箇所に1台ずつ保管する。 取付箇所: ・屋外 EL. 約 8 m 原子炉建屋周辺 (1箇)
			変更前	変更後																																																																																																								
名称	—	可搬型放水砲																																																																																																										
最高使用圧力	k Pa	〇〇																																																																																																										
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																										
外径	mm	〇〇																																																																																																										
厚さ	mm	〇〇																																																																																																										
材料	—	〇〇																																																																																																										
個数	—	〇〇																																																																																																										
取付箇所	—	保管場所: 〇〇 EL. 〇m (取付箇所: 〇〇 EL. 〇m)																																																																																																										
定 更 前		定 更 後		定 更 後		定 更 後		定 更 後		定 更 後		取付箇所																																																																																																
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所																																																																																														
放水砲	1.4**	60**	300	3**	ポリウレタン、ゴジエスチル	40	放水砲	1.0**	60**	218.5**	15.3**	SS304TP	1	保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m 上記2箇所に1台ずつ保管する。 取付箇所: ・屋外 EL. 約 8 m 可搬型代替注水大型ポンプ ・屋外 EL. 約 8 m 取水砲 (60本***)																																																																																														
							放水砲	1.0**	60**	218.5**	8.2**	SS304TP	1	保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m 上記2箇所に1台ずつ保管する。 取付箇所: ・屋外 EL. 約 8 m 原子炉建屋周辺 (1箇)																																																																																														
<p>○新規設備であり、類似設備の仕様表がないため、発電炉の要目表記載項目を参照して記載項目を整理。 ○主要寸法については設備の構造に応じて必要な箇所の情報を記載する。</p>																																																																																																												

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類: ホース (常設/可搬))

既設工認	仕様表記載案		発電炉工認																								
対象フォーマットなし (申請設備なし)	変更後		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> <th colspan="2">取付箇所</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代替燃焼炉用ホース</td> <td>1.0[*]</td> <td>60[*]</td> <td>65 A[*]</td> <td>—^{**}</td> <td>ポリホスホレン</td> </tr> <tr> <td>代替燃焼炉用ホース</td> <td>1.0[*]</td> <td>40[*]</td> <td>65 A[*]</td> <td>—^{**}</td> <td>ACW3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 重大事故時における使用時の値を示す。 *2: メーカーにて規定する呼び径を示す。 *3: メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを採用する。 *4: 両側ホースの必要本数 27 本及び予備 1 本並びに変更ホースの必要本数 36 本及び予備 1 本を合計した本数を示す。 *5: 両側ホースである「送水用ホース (標準品)」→「可搬型スプレインズル」に製設した場合の本数を示す。 *6: 両側ホースの必要本数 27 本及び予備 1 本の必要本数 28 本を合計した本数を示す。 *7: 使用済燃焼炉用ホース 2 本を指す。</p>	変更前		変更後		取付箇所		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	代替燃焼炉用ホース	1.0 [*]	60 [*]	65 A [*]	— ^{**}	ポリホスホレン	代替燃焼炉用ホース	1.0 [*]	40 [*]	65 A [*]	— ^{**}	ACW3
	変更前			変更後		取付箇所																					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料																						
代替燃焼炉用ホース	1.0 [*]	60 [*]	65 A [*]	— ^{**}	ポリホスホレン																						
代替燃焼炉用ホース	1.0 [*]	40 [*]	65 A [*]	— ^{**}	ACW3																						
変更前																											

注記 1) 重大事故時の値を示す。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：貯蔵ピット)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																									
(ガラス固化体貯蔵建屋)				(ガラス固化体貯蔵建屋B棟)				該当する設備なし																																																																																																																									
<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td colspan="2">貯蔵ピット</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td colspan="2">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td rowspan="2">設計条件</td><td rowspan="2">耐震クラス</td><td>収納管</td><td>-</td><td>A</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>-</td><td>A</td></tr> <tr><td rowspan="10">仕様</td><td rowspan="2">容量</td><td>-</td><td>-</td><td>収納管80本/基</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>ガラス固化体9本/収納管1本</td></tr> <tr><td rowspan="2">構成</td><td>収納管</td><td>-</td><td colspan="2">天井スラブ懸架支持</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>-</td><td colspan="2">支持架構に固定</td></tr> <tr><td rowspan="4">主要寸法</td><td rowspan="2">収納管</td><td>内径 (mm)</td><td colspan="2">442</td></tr> <tr><td>厚さ (mm)</td><td colspan="2">11.4</td></tr> <tr><td rowspan="2">通風管</td><td>長さ (mm)</td><td colspan="2">15650</td></tr> <tr><td>内径 (mm)</td><td colspan="2">582</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>収納管</td><td>-</td><td colspan="2">SM41A (アルミニウム溶射)</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>-</td><td colspan="2">SM41A (アルミニウム溶射)</td></tr> <tr><td>基数</td><td>-</td><td colspan="2">2</td></tr> <tr><td>添付図 (配置図, 構造図)</td><td colspan="3">第1.1-1図, 第1.1-3図及び第2.1-2図に示す。</td></tr> </table>				名称	-	貯蔵ピット				種類	-	間接自然空冷貯蔵方式		設計条件	耐震クラス	収納管	-	A	通風管	-	A	仕様	容量	-	-	収納管80本/基	-	-	ガラス固化体9本/収納管1本	構成	収納管	-	天井スラブ懸架支持		通風管	-	支持架構に固定		主要寸法	収納管	内径 (mm)	442		厚さ (mm)	11.4		通風管	長さ (mm)	15650		内径 (mm)	582		主要材料	収納管	-	SM41A (アルミニウム溶射)		通風管	-	SM41A (アルミニウム溶射)		基数	-	2		添付図 (配置図, 構造図)	第1.1-1図, 第1.1-3図及び第2.1-2図に示す。			<table border="1"> <tr><td colspan="2">変更前</td><td colspan="2">変更後</td></tr> <tr><td colspan="4">貯蔵ピット</td></tr> <tr><td>名称</td><td>-</td><td colspan="2">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td colspan="2">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td rowspan="2">容量</td><td>-</td><td colspan="2">収納管80本/基</td></tr> <tr><td>-</td><td colspan="2">ガラス固化体9本/収納管1本</td></tr> <tr><td rowspan="6">主要寸法</td><td rowspan="3">収納管</td><td>内径</td><td>mm</td><td>442</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>11.4</td></tr> <tr><td>長さ</td><td>mm</td><td>15600</td></tr> <tr><td rowspan="3">通風管</td><td>内径</td><td>mm</td><td>582</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>10</td></tr> <tr><td>長さ</td><td>mm</td><td>12000</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>収納管</td><td>-</td><td colspan="2">SM400A (アルミニウム溶射)</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>-</td><td colspan="2">SM400A (アルミニウム溶射)</td></tr> <tr><td>基数</td><td>-</td><td colspan="2">2基</td></tr> </table>				変更前		変更後		貯蔵ピット				名称	-	間接自然空冷貯蔵方式		種類	-	間接自然空冷貯蔵方式		容量	-	収納管80本/基		-	ガラス固化体9本/収納管1本		主要寸法	収納管	内径	mm	442	厚さ	mm	11.4	長さ	mm	15600	通風管	内径	mm	582	厚さ	mm	10	長さ	mm	12000	主要材料	収納管	-	SM400A (アルミニウム溶射)		通風管	-	SM400A (アルミニウム溶射)		基数	-
名称	-	貯蔵ピット																																																																																																																															
種類	-	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																															
設計条件	耐震クラス	収納管	-	A																																																																																																																													
		通風管	-	A																																																																																																																													
仕様	容量	-	-	収納管80本/基																																																																																																																													
		-	-	ガラス固化体9本/収納管1本																																																																																																																													
	構成	収納管	-	天井スラブ懸架支持																																																																																																																													
		通風管	-	支持架構に固定																																																																																																																													
	主要寸法	収納管	内径 (mm)	442																																																																																																																													
			厚さ (mm)	11.4																																																																																																																													
		通風管	長さ (mm)	15650																																																																																																																													
			内径 (mm)	582																																																																																																																													
	主要材料	収納管	-	SM41A (アルミニウム溶射)																																																																																																																													
		通風管	-	SM41A (アルミニウム溶射)																																																																																																																													
基数	-	2																																																																																																																															
添付図 (配置図, 構造図)	第1.1-1図, 第1.1-3図及び第2.1-2図に示す。																																																																																																																																
変更前		変更後																																																																																																																															
貯蔵ピット																																																																																																																																	
名称	-	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																															
種類	-	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																															
容量	-	収納管80本/基																																																																																																																															
	-	ガラス固化体9本/収納管1本																																																																																																																															
主要寸法	収納管	内径	mm	442																																																																																																																													
		厚さ	mm	11.4																																																																																																																													
		長さ	mm	15600																																																																																																																													
	通風管	内径	mm	582																																																																																																																													
		厚さ	mm	10																																																																																																																													
		長さ	mm	12000																																																																																																																													
主要材料	収納管	-	SM400A (アルミニウム溶射)																																																																																																																														
	通風管	-	SM400A (アルミニウム溶射)																																																																																																																														
基数	-	2基																																																																																																																															
(ガラス固化体貯蔵建屋B棟)				<p>○耐震クラスについては、設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>○貯蔵ピット自体の記載項目に見直したことから、貯蔵ピットの支持架構や断熱材の記載項目は削除する。</p> <p>○添付図面 (配置図、構造図) については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p> <p>○本設備の特記事項については、主要材料にて展開することから削除する。</p> <p>添付図面 (配置図、構造図) については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>																																																																																																																													
<table border="1"> <tr><td>名称</td><td colspan="3">貯蔵ピット</td></tr> <tr><td>種類</td><td colspan="3">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td>構成</td><td colspan="3">収納管及び通風管 各80本/基</td></tr> <tr><td>容量</td><td colspan="3">ガラス固化体720本/基 (ガラス固化体9本/収納管1本)</td></tr> <tr><td rowspan="6">主要寸法</td><td rowspan="3">収納管</td><td>内径</td><td colspan="2">442mm</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td colspan="2">11.4mm</td></tr> <tr><td>長さ</td><td colspan="2">15600mm</td></tr> <tr><td rowspan="3">通風管</td><td>内径</td><td colspan="2">582mm</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td colspan="2">10mm</td></tr> <tr><td>長さ</td><td colspan="2">12000mm</td></tr> <tr><td rowspan="4">主要材料</td><td>収納管</td><td>-</td><td colspan="2">SM400A JIS G 3106</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>-</td><td colspan="2">SM400A JIS G 3106</td></tr> <tr><td>支持架構</td><td>-</td><td colspan="2">STKR490 JIS G 3466 STPG370 (支柱) JIS G 3454</td></tr> <tr><td>断熱材</td><td>-</td><td colspan="2">JIS A 9504 (人造鉱物繊維保存材) に定めるロックウール</td></tr> <tr><td>基数</td><td>-</td><td colspan="2">2</td></tr> <tr><td>添付図</td><td colspan="3">第1.1-1図</td></tr> <tr><td>構造図</td><td colspan="3">第1.2-3図, 第1.2-4図</td></tr> <tr><td>特記事項</td><td colspan="3">外気に直接触れる炭素鋼部については、JIS H 9300によりアルミニウム溶射を施工する。</td></tr> </table>				名称	貯蔵ピット			種類	間接自然空冷貯蔵方式			構成	収納管及び通風管 各80本/基			容量	ガラス固化体720本/基 (ガラス固化体9本/収納管1本)			主要寸法	収納管	内径	442mm		厚さ	11.4mm		長さ	15600mm		通風管	内径	582mm		厚さ	10mm		長さ	12000mm		主要材料	収納管	-	SM400A JIS G 3106		通風管	-	SM400A JIS G 3106		支持架構	-	STKR490 JIS G 3466 STPG370 (支柱) JIS G 3454		断熱材	-	JIS A 9504 (人造鉱物繊維保存材) に定めるロックウール		基数	-	2		添付図	第1.1-1図			構造図	第1.2-3図, 第1.2-4図			特記事項	外気に直接触れる炭素鋼部については、JIS H 9300によりアルミニウム溶射を施工する。																																																										
名称	貯蔵ピット																																																																																																																																
種類	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																																
構成	収納管及び通風管 各80本/基																																																																																																																																
容量	ガラス固化体720本/基 (ガラス固化体9本/収納管1本)																																																																																																																																
主要寸法	収納管	内径	442mm																																																																																																																														
		厚さ	11.4mm																																																																																																																														
		長さ	15600mm																																																																																																																														
	通風管	内径	582mm																																																																																																																														
		厚さ	10mm																																																																																																																														
		長さ	12000mm																																																																																																																														
主要材料	収納管	-	SM400A JIS G 3106																																																																																																																														
	通風管	-	SM400A JIS G 3106																																																																																																																														
	支持架構	-	STKR490 JIS G 3466 STPG370 (支柱) JIS G 3454																																																																																																																														
	断熱材	-	JIS A 9504 (人造鉱物繊維保存材) に定めるロックウール																																																																																																																														
基数	-	2																																																																																																																															
添付図	第1.1-1図																																																																																																																																
構造図	第1.2-3図, 第1.2-4図																																																																																																																																
特記事項	外気に直接触れる炭素鋼部については、JIS H 9300によりアルミニウム溶射を施工する。																																																																																																																																

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：貯蔵建屋床面走行クレーンのしゃへい容器)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
(ガラス固化体貯蔵建屋)								該当する設備なし					
名	称	—	貯蔵建屋床面走行クレーン	名称		変更前	変更後						
種	類	—	しゃへい容器付床面走行形	種		貯蔵建屋床面走行クレーンのしゃへい容器							
設計条件	耐震クラス	—	B (しゃへい容器はA)	種		しゃへい容器							
仕様	クレーン	容量 (定格荷重)	t	4	仕様	主要寸法	内径		mm	1512	変更なし		
		台数	—	1			しゃへい体厚さ	頂部	鉄部	mm		100+260	
	しゃへい容器	主要寸法	内径	mm			1512	胴部	鉄部	mm		340	
									ポリエチレン部	mm		250	
			しゃへい体厚さ	mm			鉄部	mm	100+260				
							ポリエチレン部	mm	180				
	全高	mm	5700	全高			mm	5700					
	基	数	—	1			基数	—	1				
	添付図 (配置図, 構造図)			第 1.1-2 図及び第 2.1-1 図に示す。			<p>○耐震クラスについては、設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。</p> <p>○仕様表記載対象については、安全上重要な施設であるしゃへい容器が該当するため、貯蔵建屋床面走行クレーンに該当する記載事項は削除。</p> <p>添付図面 (配置図、構造図) については、本文添付図から添付書類に位置付け変更としたため、記載項目を削除する。</p>						
	(ガラス固化体貯蔵建屋B棟)												
設計仕様	名称	貯蔵建屋床面走行クレーン		名称		貯蔵建屋床面走行クレーンのしゃへい容器							
	種類	しゃへい容器付床面走行形		種		しゃへい容器							
	容量 (定格荷重)	4 t		内径		mm		1512					
	台数	1		しゃへい体厚さ		頂部		鉄部 mm 100+260					
	配置図	第 1.1-1 図		胴部		鉄部 mm 340		ポリエチレン部 mm 250					
構造図	第 1.2-1 図, 第 1.2-2 図		全高		mm 5700		基数		— 1				

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機器分類：北換気筒)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																				
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td colspan="3">ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="3">六角鉄塔支持形</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>—</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td>空気</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">仕様</td> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>出口内径</td> <td>m</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>地上の高さ</td> <td>m</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>主要材料</td> <td>—</td> <td>SMA41BP</td> </tr> <tr> <td>支柱材</td> <td>—</td> <td>STK41</td> </tr> <tr> <td colspan="2">添付図 (構造図)</td> <td colspan="2">第 1.-1 図に示す。</td> </tr> </table>				名称	ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒			種類	六角鉄塔支持形			設計条件	耐震クラス	—	C	流体の種類	—	空気	仕様	主要寸法	出口内径	m	1.9	地上の高さ	m	75.0	主要材料	主要材料	—	SMA41BP	支柱材	—	STK41	添付図 (構造図)		第 1.-1 図に示す。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">変更前</td> <td colspan="2">変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒)^{1) 2)}</td> <td colspan="2" rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td colspan="2">六角鉄塔支持形 (制震装置付き [減衰係数：□□³⁾])⁴⁾</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">仕様</td> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>内径⁵⁾</td> <td>m</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>地表上の高さ⁶⁾</td> <td>m</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料</td> <td>—</td> <td>SMA41BP</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数⁷⁾</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>注記 1)：北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) の支持構造物は、再処理施設と共用する。 2)：記載の適正化を行う。既設工認には「ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒」と記載。 3)：オイルダンパの減衰係数を示す。 4)：記載の適正化を行う。既設工認には「六角鉄塔支持形」と記載。 5)：記載の適正化を行う。既設工認には「出口内径」と記載。 6)：記載の適正化を行う。既設工認には「地上の高さ」と記載。 7)：既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○発電炉の記載に併せ、設備の種類に制震装置付きダンパの仕様を記載。 ○耐震クラスについては、設備リストにて展開する方針に見直したため、仕様表記載項目からは削除する。 ○主要材料については、北換気筒に該当する材料を記載することとし、支持架構部については削除する。</p> </div>						変更前		変更後		名称		北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{1) 2)}		変更なし		種類		六角鉄塔支持形 (制震装置付き [減衰係数：□□ ³⁾]) ⁴⁾		仕様	主要寸法	内径 ⁵⁾	m	1.9	地表上の高さ ⁶⁾	m	75.0	主要材料		—	SMA41BP	個数 ⁷⁾		—	1	<p>(16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数 (内筒及び外筒の別に記載すること。)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">変更前</td> <td colspan="2">変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">主排気筒</td> <td colspan="2" rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>—</td> <td>鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□*¹⁾])</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>内径*²⁾</td> <td>mm</td> <td>4500*^{3), *4)}</td> </tr> <tr> <td>地表上の高さ</td> <td>m</td> <td>140*⁴⁾</td> </tr> <tr> <td colspan="2">材料</td> <td>—</td> <td>SS400</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>注記 注1：オイルダンパの減衰係数を示す。 注2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。 注3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.5 m」と記載 注4：公称値を示す。</p>						変更前		変更後		名称		主排気筒		変更なし		種類		—	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□* ¹⁾])	主要寸法	内径* ²⁾	mm	4500* ^{3), *4)}	地表上の高さ	m	140* ⁴⁾	材料		—	SS400	個数		—	1
名称	ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒																																																																																																											
種類	六角鉄塔支持形																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	—	C																																																																																																									
	流体の種類	—	空気																																																																																																									
仕様	主要寸法	出口内径	m	1.9																																																																																																								
		地上の高さ	m	75.0																																																																																																								
	主要材料	主要材料	—	SMA41BP																																																																																																								
支柱材		—	STK41																																																																																																									
添付図 (構造図)		第 1.-1 図に示す。																																																																																																										
		変更前		変更後																																																																																																								
名称		北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{1) 2)}		変更なし																																																																																																								
種類		六角鉄塔支持形 (制震装置付き [減衰係数：□□ ³⁾]) ⁴⁾																																																																																																										
仕様	主要寸法	内径 ⁵⁾	m	1.9																																																																																																								
		地表上の高さ ⁶⁾	m	75.0																																																																																																								
	主要材料		—	SMA41BP																																																																																																								
個数 ⁷⁾		—	1																																																																																																									
		変更前		変更後																																																																																																								
名称		主排気筒		変更なし																																																																																																								
種類		—	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□* ¹⁾])																																																																																																									
主要寸法	内径* ²⁾	mm	4500* ^{3), *4)}																																																																																																									
	地表上の高さ	m	140* ⁴⁾																																																																																																									
材料		—	SS400																																																																																																									
個数		—	1																																																																																																									

※：表中の「□□」は、マスキング対象

仕様表 作成例

記載例 1/12

				変更前		変更後
名称		北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) (廃棄物管理施設, 再処理施設と共用) ^{1) 2)}			変更なし	
種類		六角鉄塔支持形 (制震装置付き [減衰係数: □□ ³⁾]) ⁴⁾				
仕様 様	主要 寸法	内径 ⁵⁾	m	1.9		
		地表上の高さ ⁶⁾	m	75.0		
	主要材料		-	SMA41BP		
個数 ⁷⁾		-		1		

①の例

注記 1) : 北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) の支持構造物は, 再処理施設と共用する。

2) : 記載の適正化を行う。既設工認には「ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒」と記載。

3) : オイルダンパの減衰係数を示す。

4) : 記載の適正化を行う。既設工認には「六角鉄塔支持形」と記載。

5) : 記載の適正化を行う。既設工認には「出口内径」と記載。

6) : 記載の適正化を行う。既設工認には「地上の高さ」と記載。

7) : 既設工認の仕様表に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

記載例なし

記載例 2/12

		変更前		変更後	
名称	—	モニタリングポスト		モニタリングポスト (再処理施設 ¹⁾ , MOX燃料加工施設と共用)	
仕様	検出器の種類	—	NaI(Tl)シンチレーション検出器	電離箱	変更なし
	計測範囲	μ Gy/h	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇	
	警報動作範囲	μ Gy/h	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇	
	検出器個数	—	〇〇	〇〇	
	表示場所	—	〇〇		
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	—		〇〇
	設置床	—			〇〇
	溢水防護上の区画番号	—			〇〇
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			〇〇

注記 1) : モニタリングポストは, 再処理施設にて設備登録を行っている。

①の例

記載例なし

記載例 3/12

記載例 1/14

②の例

		変更前	変更後
名称		データ収集装置	データ収集装置 ¹⁾
種類		〇〇	
仕様	主要な収集データ	〇〇	変更なし
個数		〇〇	
取付箇所	系統名 (ライン名)		〇〇
	設置床		〇〇
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		〇〇

注記 1) : その他再処理設備の附属施設のうち緊急時対策建屋情報把握設備及び計測制御系統施設のうち計測制御装置と兼用する。

①の例

②の例

4 ほう酸水注入設備に係る次の事項

4.1 ほう酸水注入系

(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

		変更前	変更後	
名称		ほう酸水注入ポンプ*1		
ポンプ	種類	—	往復形*3	
	容量	m ³ /h/個	9.78以上 (9.78*4、*5)	
	吐出圧力*6	MPa	8.5以上*6 (8.5*4、*6)	
	最高使用圧力	MPa	吸込側 1.04*7 吐出側 9.66*7	
	最高使用温度	℃	66*7	
	主要寸法	吸込内径	mm	65.9*4、*7
		吐出内径	mm	38.4*4、*7
		ケーシング厚さ	mm	□ (11.8*4、*7)
		たて横	mm	1820*4、*8 2100*4、*8
	高さ	高さ	mm	1250*4、*8
		材料	—	□
	ケーシングカバー	—	□	
	個数	—	2*10	
	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	ほう酸水注入ポンプA ほう酸水注入系*7
設置床		—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 38.80 m*7	
溢水防護上の区画番号		—	—	
溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	—	
			ほう酸水注入ポンプB ほう酸水注入系*7	
			原子炉建屋 原子炉棟 EL. 38.80 m*7	
			RB-5-3 RB-5-3	
			EL. 39.26 m以上 EL. 39.26 m以上	

①の例

⑥の例

変更なし

③の例

(続き)

			変更前	変更後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*11	変更なし
	出 力	kW/個	37	
	個 数	—	2	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*7	

①の例

- 注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。
 *2: 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(ほう酸水注入系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(ほう酸水注入系)と兼用する。
 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平3連プランジャポンプ」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *4: 公称値を示す。
 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「163 ℓ/min」と記載。
 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程 870 m」と記載。
 *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年11月7日付け 50 資庁第 11107 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-18 図 ほう酸水注入系ポンプ組立外形図」による。
 *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「接液部」と記載。
 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (常用 1, 予備 1)」と記載。
 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 相誘導電動機」と記載。

⑥の例

⑤の例

④の例

記載例 4/12

記載例 2/14

③の例

③の例

		変更前	変更後
名称			情報収集装置 ^{1) 2)}
種類			〇〇
仕様	主要な収集データ		〇〇
個数			〇〇
取付箇所	系統名 (ライン名)		〇〇
	設置床		〇〇
	溢水防護上の区画番号		〇〇
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		〇〇

①の例

注記 1) : 計測制御系統施設のうち計装設備 (重大事故等対処設備) と兼用する。
2) 本設備は既存の設備である。

②の例

6.7 低圧代替注水系

(1) ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程, 又は吐出圧力, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前	変更後	
ボ ン プ	名 称			常設低圧代替注水系ポンプ ^{*1}	
	種 類	—		ターボ形	
	容 量 ^{*2}	m ³ /h/個			189 以上 ^{*3}
					150 以上 ^{*4}
					80 以上 ^{*5}
					50 以上 ^{*6}
					70 以上 ^{*7}
					180 以上 ^{*8}
					190 以上 ^{*9}
					147 以上 ^{*10}
					(200 ^{*11})
					105.9 以上 ^{*3}
					121.2 以上 ^{*4}
			109.1 以上 ^{*5}		
揚 程 ^{*2}	m			65.8 以上 ^{*6}	
				109.7 以上 ^{*7}	
		145.4 以上 ^{*8}			
		129.8 以上 ^{*9}			
		112.6 以上 ^{*10}			
		(200 ^{*11})			
最高使用圧力 ^{*2}	MPa			吸込側 静水頭 吐出側 3.14	
最高使用温度 ^{*2}	℃			66	
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm		199.9 ^{*11}	
	吐 出 内 径	mm		151.0 ^{*11}	
	ケーシング厚さ	mm		55.0 ^{*11}	
	た て 横	mm		860 ^{*11}	
	高 さ	mm		2291 ^{*11}	
材 料	ケーシング	—		1520 ^{*11}	
	ケーシング カバ ー	—			

④の例

①の例

発電炉 工認手続
ガイド

当社施設 設工認作成要領 (案)

発電炉 工認作成要領

(続き)

			変更前	変更後
ポンプ	個	数	—	2
		系統名 (ライン名)	—	常設低圧代替 注水系ポンプ A 低圧代替注水 系
	取付箇所	設置床	—	常設低圧代替 注水系ポンプ室 EL. -18.50 m
		溢水防護上の 区画番号	—	—
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—		
原動機	種類	—	誘導電動機	
	出力	kW/個	190*11	
	個数	—	2	
	取付箇所	—	ポンプと同じ	

- 注記 *1: 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧代替注水系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (代替格納容器スプレイ冷却系、格納容器下部注水系及び低圧代替注水系) 並びに核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (代替燃料プール注水系) と兼用。
- *2: 重大事故等時における使用時の値を示す。
- *3: 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧代替注水系) 並びに格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (代替格納容器安全設備 (低圧代替注水系) として使用する場合は値を示す。 ④の例 ②の例
- *4: 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (代替格納容器スプレイ冷却系) として使用する場合は値を示す。
- *5: 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (格納容器下部注水系) として使用する場合は値を示す。
- *6: 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (代替燃料プール注水系のうち使用済燃料プール注水モード) として使用する場合は値を示す。
- *7: 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (代替燃料プール注水系のうち使用済燃料プールのスプレイモード) として使用する場合は値を示す。

記載例 5/12

記載例 3/14

○. データ収集装置

以下の設備は、その他再処理設備の附属施設のうち緊急時対策所（緊急時対策建屋情報把握設備）であり、計測制御系統施設のうち計装設備（重大事故等対処設備）として本設工認で兼用する。



6.9 代替水源供給設備

(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系）であり、非常用炉心冷却設備その他の原子炉注水設備（代替水源供給設備）として本工事計画で兼用とする。

・可搬型

- 可搬型代替注水大型ポンプ
- 可搬型代替注水中型ポンプ



記載例 6/12

記載例 5/14

		変更前	変更後
名称		—	冷却水循環ポンプ A, B
種類		—	うず巻き式
設計条件	核的制限値	L	—
	最高使用圧力 ¹⁾	MPa	〇〇
	最高使用温度 ¹⁾	℃	〇〇
	定格容量 ¹⁾	m ³ /h/個	〇〇
	定格揚程 ¹⁾	m	〇〇
仕様	主要寸法	全高	mm
	主要材料	ケーシング	—
	個数	—	〇〇
ポンプ	取付箇所	—	—
	保管場所	—	保管場所： ・屋外エリア1 EL.約〇m ・屋外エリア2 EL.約〇m ・待機除外用保管場所 EL.約〇m 上記3箇所のうち、屋外エリア1及び屋外エリア2にそれぞれ1台以上、合計3台以上保管するとともに、残り2台を3箇所のうちいずれかに保管する
	①の例	—	取付箇所： 屋外 EL.〇m 第1貯水槽付近 屋外 EL.〇m 可搬型排水受槽付近
	変更なし	—	—
原動	種類	—	〇〇
	出力	kW/個	—
	個数	—	〇〇
	取付箇所	—	〇〇

注記 1) : 重大事故等時における使用時の値を示す。

②の例

		変更前	変更後
名称		—	ろ過水貯蔵タンク*1
種類		—	たて置円筒形
容量		m ³ /個	1500以上 (1500*2)
最高使用圧力		MPa	静水頭
最高使用温度		℃	50
主要寸法	胴内径	mm	13560*2
	胴板厚さ	mm	6.0 (6.0*2) 8.0 (8.0*2) 9.0 (9.0*2)
	屋根板厚さ	mm	4.0 (4.5*2)
	底板厚さ	mm	12.0 (12.0*2)
	出口管台外径	mm	318.5*2
	出口管台厚さ	mm	17.4*2
	側マンホール管台外径	mm	628.0*2
	側マンホール管台厚さ	mm	8.4 (9.0*2)
	側マンホールふた厚さ	mm	15.3 (16.0*2)
	高さ	mm	13262*2
材料	胴板	—	SS400
	屋根板	—	SS400
	底板	—	SS400
	側マンホールふた	—	SS400
個数		—	1
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	ろ過水貯蔵タンク 消火系
	設置床	—	屋外 EL.11.00 m
	溢水防護上の区画番号	—	—
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—

注記 *1 : 本設備は既存の設備である。

*2 : 公称値を示す。

③の例

(続き)

			変更前	変更後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*11	変更なし
	出 力	kW/個	37	
	個 数	—	2	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*7	

①の例

- 注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。
 *2: 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(ほう酸水注入系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(ほう酸水注入系)と兼用する。
 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平3連プランジャポンプ」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *4: 公称値を示す。
 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「163 ℓ/min」と記載。
 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程 870 m」と記載。
 *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年11月7日付け 50 資庁第 11107 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-18 図 ほう酸水注入系ポンプ組立外形図」による。
 *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「接液部」と記載。
 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (常用 1, 予備 1)」と記載。
 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 相誘導電動機」と記載。

⑥の例

⑤の例

④の例

記載例 7/12

記載例 6/14

				変更前	変更後	
名称		-		凝縮器 A, B	変更なし	
種類		-		〇〇		
設計条件	機器の種類	管側	-	〇〇		
		胴側	-	〇〇		
	標準濃度	廃ガス	$\beta \gamma$	Bq/cm ³ [normal]		〇〇
			α	α Bq/cm ³ [normal]		〇〇
			U	g/m ³ [normal]		〇〇
		回収硝酸	Pu	g/m ³ [normal]		〇〇
			Kr-85	Bq/cm ³ [normal]		〇〇
	管側	流体の種類	$\beta \gamma$	Bq/cm ³		〇〇
			α	α Bq/cm ³		〇〇
	胴側	流体の種類	-	〇〇		
容量 (設計熱交換量)		kW/個		①の例		
管側	最高使用圧力	MPa	〇〇	変更なし (200) ¹⁾		
	最高使用温度	℃	〇〇			
胴側	最高使用圧力	kPa	②の例	〇〇		
	最高使用温度	℃	〇〇			
伝熱面積		m ² /個		〇〇 (□□) ²⁾		
仕様	主要寸法	管側	鏡内径	mm		〇〇
			鏡板厚さ	mm		〇〇
		胴側	胴内径	mm	③の例	
			胴板厚さ	mm	〇〇	
		管板厚さ	mm	〇〇		
	伝熱管外径	mm	〇〇			
	伝熱管厚さ	mm	〇〇 ²⁾			
	全高	mm	〇〇			
	材料	管側鏡板	-	〇〇	変更なし	
		胴側鏡板	-	〇〇		
管板		-	〇〇			
伝熱管		-	〇〇			
個数		-	〇〇			
取付箇所	系統名 (ライン名)		-	〇〇		
	設置床		-	〇〇		
	溢水防護上の区画番号		-	〇〇		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		-	〇〇		

注記 1) : 重大事故等時における使用時の値を示す。
2) : 公称値を示す。

ロ 原子炉格納容器スタビライザの名称、種類、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数

		変更前	変更後
名称		スタビライザ (しゃへい壁～格納容器間)	変更なし
種類		鋼管式	変更なし
最高使用温度		℃	171
主要寸法	管外径	mm	355.6 ^{*2}
	管厚さ ^{*3}	mm	35.7 ^{*4} (35.7 ^{*2})
	ガセツプレート厚さ	mm	50.0 ^{*5} (50.0 ^{*2, *5})
	内側マイルシアラグ厚さ	mm	130.0 ^{*5} (130.0 ^{*2, *5})
	材料	-	STKS1B
材料	ガセツプレート	-	SM41B ^{*5}
	内側マイルシアラグ	-	SGV480 相当 (ASME SA-516 Gr. 70) ^{*5}
個数		-	16

注記 *1 : 重大事故等時における使用時の値を示す。
*2 : 公称値を示す。
*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「肉厚」と記載。
*4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資片第8314号にて認可された工事計画の添付書類「III-2-22 スタビライザの強度計算書」による。
*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

記載例 8/12

記載例 1/14

		変更前	変更後
名称		貯蔵区域しゃへい ¹⁾	
種類 (主要構造)		鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造)	
壁厚さ	東壁	mm	205 ¹⁾
	西壁	mm	195 ¹⁾
	南壁	mm	185 ¹⁾
	北壁	mm	205 ¹⁾
	天井	mm	190
主要材料		鉄筋コンクリート及び鋼材	
個数		1 ¹⁾	

変更なし

注記 1) : 既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は平成4年7月6日付け4安第252号にて認可された設工認申請書の添付書類「I-3 放射線による被ばくの防止に関する計算書」による。
2) : 既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は平成4年7月6日付け4安第252号にて認可された設工認申請書の添付書類「II-8 申請設備に係る耐震設計の基本方針」による。

①の例

4 ほう酸水注入設備に係る次の事項

②の例

4.1 ほう酸水注入系

(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

		変更前	変更後	
名称		ほう酸水注入ポンプ*1		
ポンプ	種類	往復形*3	ほう酸水注入ポンプ*2	
	容量	m ³ /h/個 9.78以上 (9.78*4、*5)	ほう酸水注入ポンプ*2	
	吐出圧力*6	MPa 8.5以上*6 (8.5*4、*5)	ほう酸水注入ポンプ*2	
	最高使用圧力	MPa 吸込側 1.04*7 吐出側 9.66*7	ほう酸水注入ポンプ*2	
	最高使用温度	℃ 66*7	ほう酸水注入ポンプ*2	
	主要寸法	吸込内径	mm 65.9*4、*7	ほう酸水注入ポンプ*2
		吐出内径	mm 38.4*4、*7	ほう酸水注入ポンプ*2
		ケーシング厚さ	mm [] (11.8*4、*7)	ほう酸水注入ポンプ*2
		たて横	mm 1820*4、*8 2100*4、*8	ほう酸水注入ポンプ*2
	材料	ケーシング*9	mm []	ほう酸水注入ポンプ*2
ケーシングカバー		mm []	ほう酸水注入ポンプ*2	
個数		2*10		
取付箇所	系統名 (ライン名)	ほう酸水注入ポンプA ほう酸水注入系*7	ほう酸水注入ポンプB ほう酸水注入系*7	
	設置床	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 38.80 m*7	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 38.80 m*7	
	溢水防護上の区画番号	-	RB-5-3 RB-5-3	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	EL. 39.26 m以上 EL. 39.26 m以上	

①の例

⑥の例

変更なし

③の例

(続き)

			変更前	変更後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*11	変更なし
	出 力	kW/個	37	
	個 数	—	2	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*7	

①の例

- 注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。
- *2: 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(ほう酸水注入系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(ほう酸水注入系)と兼用する。
- *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平3連プランジャポンプ」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *4: 公称値を示す
- *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「163 ℓ/min」と記載。
- *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程 870 m」と記載。
- *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年11月7日付け 50 資庁第 11107 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-18 図 ほう酸水注入系ポンプ組立外形図」による。
- *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「接液部」と記載。
- *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (常用 1, 予備 1)」と記載。
- *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 相誘導電動機」と記載。

⑥の例

⑤の例

④の例

(続き)

			変更前	変更後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*11	変更なし
	出 力	kw/個	37	
	個 数	—	2	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*7	

①の例

- 注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。
 *2: 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(ほう酸水注入系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(ほう酸水注入系)と兼用する。
 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平3連ブランジャポンプ」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *4: 公称値を示す。
 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「163 ℓ/min」と記載。
 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程 870 m」と記載。
 *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年11月7日付け 50 資庁第 11107 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-18 図 ほう酸水注入系ポンプ組立外形図」による。
 *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「接液部」と記載。
 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (常用1, 予備1)」と記載。
 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 相誘導電動機」と記載。

⑥の例

⑤の例

④の例

記載例 8 / 14

(2) 機器搬出入口の名称、主要寸法及び個数

①の例

			変更前	変更後
名 称			原子炉建屋大物搬入口*1	変更なし
主 要 寸 法	た て × 横	mm	5400×4900*1, *2	
個 数	—		1*1	

- 注記 *1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *2: 公称値を示す。

①の例

記載例 10/12

		変更前	変更後	
名称		—	中型移送ポンプ	
種類		—	うず巻き式	
仕様	核的制限値	L	—	
	最高使用圧力	MPa	〇〇	
	最高使用温度	℃	〇〇	
	定格容量	m ³ /h/個	〇〇	
	定格揚程	m	〇〇	
	主要寸法	全高	mm	〇〇
	主要材料	ケーシング	—	〇〇
	個数	—	3 (予備として故障時及び待機除外時のバックアップを2台)	
取付箇所		—	保管場所： ・屋外エリア1 EL. 約〇m ・屋外エリア2 EL. 約〇m ・待機除外用保管場所 EL. 約〇m 上記3箇所のうち、屋外エリア1及び屋外エリア2にそれぞれ1台以上、合計3台以上保管するとともに、残り2台を3箇所のうちいずれかに保管する。 取付箇所： 屋外 EL. 〇m 第1貯水槽付近 屋外 EL. 〇m 可搬型排水受槽付近	
原動機	種類	—	〇〇	
	出力	kW/個	〇〇	
	個数	—	〇〇	
	取付箇所	—	〇〇	

①の例

②の例

③の例

記載例 4/14

・可搬型

			変更前	変更後
名称			—	可搬型代替注水大型ポンプ*1
種類	種	類	—	うず巻形
	容	量*2	m ³ /h/個	110 以上*3 196 以上*4, *5 50 以上*6 70 以上*7, *8 1338 以上*9 130 以上*10 80 以上*11 (1320*12, 1380*13)
揚程*2	揚	程*2	m	130 以上*3, *10 59 以上*4, *6 53 以上*4 106 以上*7 140 以上*8 125 以上*9 121 以上*11 (140*12, 135*13)
	最高使用圧力*2	MPa	—	1.4
最高使用温度*2		℃	—	60
主要寸法	吸 込 口 径	mm	—	300*12
	吐 出 口 径	mm	—	250*12
	た	て	mm	1050*12
	横	mm	—	1280*12
	高	さ	mm	525*12
	車 両 全 長	mm	—	11920*12
車 両 全 幅	mm	—	2490*12	
車 両 高 さ	mm	—	3470*12	
材 料	ケ ー シ ン グ	—	—	ダクタイル鋳鉄

②の例

①の例

(続き)

			変更前	変更後
ポンプ	個	数	—	3 (予備 2)
	取付箇所	—	—	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m ・可搬型重大事故等対処設備予備機置場 EL. 約 8 m 上記 3 箇所のうち、可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) 及び可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) にそれぞれ 1 台以上、合計 3 台以上保管するとともに、残り 2 台を 3 箇所のうちいずれかに保管する。
原動機	種	類	—	ディーゼル機関
	出	力	kW/個	847
	個	数	—	3 (予備 2)
	取付箇所	—	—	ポンプと同じ

- 注記 *1：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (代替水源供給設備)、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (代替燃料プール注水系、原子炉建屋放水設備及び代替水源供給設備) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (代替格納容器スプレイ系、格納容器下部注水系、低圧代替注水系、原子炉建屋放水設備及び代替注水系) と兼用する。
- *2：重大事故等時における使用時の値を示す。
- *3：本系統及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他安全設備の原子炉格納容器安全設備 (低圧代替注水系) で使用する場合の値を示す。
- *4：本系統、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備

記載例 11/12

		変更前		変更後	
名称		〇〇		〇〇	
検出器の種類	-	〇〇検出器		〇〇検出器	
表示, 操作場所	-	〇〇建屋の現場及び中央制御室		変更なし	
計測範囲	-	〇〇~〇〇	〇〇~〇〇		
警報動作範囲	-	〇〇	〇〇	- 1)	変更なし
個数	-	〇〇	〇〇		
取付箇所	系統図 (ライン名)	-	-	〇〇	〇〇
	設置床	-		〇〇	〇〇
	溢水防護上の 区画番号	-		〇〇	〇〇
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	-		〇〇	〇〇

注記 1): 警報動作が要求される検出器ではないため, 記載の適正化を行う。


①の例

記載例 13/14

ロ 原子炉格納容器本体内の放射性物質濃度を計測する装置の名称, 検出器の種類, 計測範囲, 取付箇所 (常設及び可搬型の別を記載し, 監視・記録の場所を付記すること。) 及び個数

・常設

名称		変更前		変更後	
検出器の種類	-	格納容器雰囲気放射線 モニタ (D/W) *1	格納容器雰囲気放射線 モニタ (S/C) *1	変更なし	
計測範囲	Sv/h	電離箱 10 ⁻³ ~10 ⁵ *2		- *4	①の例
警報動作範囲	Sv/h	10 ⁻³ ~10 ⁵ *3			
取付箇所	系統名 (ライン名)	-	-	変更なし	
	設置床	-	原子炉建屋原子炉棟 EL. 20.30 m (監視・記録は中央制御室) *5	原子炉建屋原子炉棟 EL. 2.00 m (監視・記録は中央制御室) *5	
取付箇所	溢水防護上の 区画番号	-	-	RB-3-5 *6 RB-3-6 *7	-
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	-	-	EL. 20.70 m 以上	-
個数	-	2 *8	2 *8	変更なし	

発電炉 工認手続 ガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領
		<p>注記</p> <ul style="list-style-type: none"> *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器モニタ」と記載。 *2：S I 単位に換算したもの。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「計測範囲内で可変」と記載。 *4：警報動作が要求される検出器ではないため、記載の適正化を行う。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウエル及びサブプレッションチェンバ (監視記録部は中央制御室)」と記載。 *6：対象計器は RE-D23-N003B *7：対象計器は RE-D23-N003A *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4」と記載。 <p style="text-align: center;">①の例</p> 

変更前						変更後									
名称	流体の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	取付箇所	名称	流体の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	取付箇所
								放水砲用 ○ 設備 ○ ホース	水	1.4	60	300A ¹⁾	2)	ポリウレタン, ポリエステル	保管場所: ○ 取付箇所: ○

注記 1): メーカーにて規定する呼び径を示す。
2): メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産 業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。

記載例 12/12

③の例

記載例 14/14

※ 主配管 (スプレッドを含む) の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料 (管径及び可搬型の別に記載し、可搬型の場合は、個数及び取付箇所を付記すること。)

変更前			変更後			変更後		
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	取付箇所
原子炉建屋放水設備								
放水砲 ⁵⁾ ホース ⁶⁾	1.4 ²⁾	60 ³⁾	300 A ¹⁾	2)	ポリウレタン, ポリエステル	58 ⁴⁾ (予備 4)		保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) Ⅱ. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) Ⅱ. 約 25 m 上記 2 箇所のどちらか 1 箇所に 58 本及び予備 4 本以上保管する。
原子炉建屋放水設備								
放水砲 ⁵⁾	1.0 ²⁾	60 ³⁾	220 ⁴⁾	10.3 ⁶⁾	CG006	1 (予備 1)		保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) Ⅱ. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) Ⅱ. 約 25 m 上記 2 箇所にそれぞれ 1 個保管する。
原子炉建屋放水設備								
放水砲 ⁵⁾			318.5 ⁴⁾	10.3 ⁶⁾	SESS9ATP	1 (予備 1)		保管場所: ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (西側) Ⅱ. 約 23 m ・可搬型重大事故等対応設備保管場所 (南側) Ⅱ. 約 25 m 上記 2 箇所にそれぞれ 1 個保管する。

注記 *1: 積物等物質の取除施設及び貯蔵施設のうえに使用液燃料貯蔵槽 (原子炉建屋放水設備) と兼用する。
*2: 重大事故等時における使用時の呼び径を示す。
*3: メーカーにて規定する呼び径を示す。
*4: メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産 業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。
*5: 必要本数 58 本 (5 m: 20 本, 50 m: 38 本) 及び予備各 2 本の数量を示す。
*6: 最長ルートである「可搬型代替注水大型ポンプ (5A 用放水ビット付)」から放水砲 (原子炉建屋前側) に搬送した場合 (5 m: 20 本, 50 m: 38 本) の本数を示す。
*7: 放水砲寸法 (公称値): たて 4600 mm, 横 1900 mm, 高さ 2140 mm。
*8: 公称値を示す。

主たる登録区分							兼用する登録区分							
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
燃料仮置きラック	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料受入れ設備	燃料取出し設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
燃料貯蔵ラック	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	燃料貯蔵設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
バスケット	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	燃料送出し設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
バスケット仮置き架台(実入り用)	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	燃料送出し設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
可搬型建屋内ホース	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	重大事故等対処設備	スプレイ設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	放出抑制設備	注水設備	-	-	-	
中継槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量前中間貯槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量・調整槽	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量後中間貯槽	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量補助槽	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
水素掃気配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
機器圧縮空気供給配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
冷却コイル配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
冷却ジャケット配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
溶解槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	臨界事故時水素掃気系	
エンドピース酸洗浄槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	臨界事故時水素掃気系	
ハル洗浄槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	臨界事故時水素掃気系	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(エンドピース酸洗浄槽用)	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(ハル・洗浄槽用)	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
代替可溶性中性子吸収材緊急供給系主配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	
冷却ジャケット配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
溶解液中間貯槽	再処理設備本体	分離施設	分離設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
溶解液供給槽	再処理設備本体	分離施設	分離設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	

主たる登録区分						兼用する登録区分								
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故の発生を想定する機器	-	
第5一時貯留処理槽	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故の発生を想定する機器	-	
配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	圧縮空気設備	-	
冷却コイル配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
水素掃気配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(第5一時貯留処理槽用)	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(第7一時貯留処理槽用)	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
硝酸プルトニウム貯槽	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
混合槽A,B	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
一時貯槽	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
水素掃気配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
冷却ジャケット配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
凝縮液回収系	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	ウラン・プルトニウム混合脱硝系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
屋外監視カメラ	計測制御系統施設	中央制御室	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	
溶解槽圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	臨界事故の拡大を防止するために必要な計装設備	-	-	-	
廃ガス洗浄塔入口圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	臨界事故の拡大を防止するために必要な計装設備	-	-	-	
								計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
廃ガス洗浄塔入口圧力計	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	有機溶媒等による火災又は爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型セル導出ユニットフィルタ差圧計	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型フィルタ差圧系	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型廃ガス洗浄塔入口圧力計	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型導出先セル圧力計	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型貯槽温度計(熱電対)	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型貯槽温度計(測温抵抗体)	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型貯槽温度計(センサー)	計測制御系統施設	計測設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	

主たる登録区分						兼用する登録区分								
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
報収集装置								その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	情報把握計装設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
第2保管庫・貯水所可搬型情報収集装置	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	再処理施設への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムが懸念される	-	-	-	
情報把握計装設備可搬型発電機	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	情報把握計装設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(前処理建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(分離建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(精製建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(高レベル廃液ガラス固化建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(精製建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(前処理建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	圧縮空気設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(精製建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	圧縮空気設備	-	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(前処理建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(分離建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(高レベル廃液ガラス固化建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
データ表示装置	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋情報把握設備	-	-	
情報把握計装設備無線装置	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	情報把握計装設備	常設重大事故等対処設備	-	-	
北換気筒(使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気筒)	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	換気設備	北換気筒	-	-	-	放射線管理施設	放射線監視設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気設備	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	換気設備	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気設備	-	-	-	放射線管理施設	放射線監視設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
								放射線管理施設	放射線監視設備(重大事故等対処設備)	代替モニタリング設備	-	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	分離建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	高レベル濃縮廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	高レベル濃縮廃液廃ガス処理系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	分離建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	高レベル濃縮廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	高レベル濃縮廃液廃ガス処理系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
水封安全器	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
凝縮器	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
凝縮器	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
高性能粒子フィルタ	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
高性能粒子フィルタ	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
排風機	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
排風機	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
主配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
主配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	

主たる登録区分						兼用する登録区分								
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
放射能測定装置(液体シンチレーションカウンタ)	放射線管理施設	試料分析関係設備	放出管理分析設備	-	-	-		放射線管理施設	試料分析関係設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
核種分析装置	放射線管理施設	試料分析関係設備	放出管理分析設備	-	-	-		放射線管理施設	試料分析関係設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
								放射線管理施設	環境試料測定設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
気象観測設備(風向風速計、日射計、放射収支計、雨量計)	放射線管理施設	環境管理設備	-	-	-	-		放射線管理施設	環境管理設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
可搬型データ表示装置	放射線管理施設	代替モニタリング設備	-	-	-	-		放射線管理施設	代替気象観測設備	-	-	-	-	
監視測定用運搬車	放射線管理施設	代替モニタリング設備	-	-	-	-		放射線管理施設	代替気象観測設備	-	-	-	-	
								放射線管理施設	環境モニタリング用代替電源設備	-	-	-	-	
可搬型排気モニタリングデータ伝送装置	放射線管理施設	放射線監視設備	屋外モニタリング設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替モニタリング設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
可搬型環境モニタリングデータ伝送装置	放射線管理施設	放射線監視設備	屋外モニタリング設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替モニタリング設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
可搬型気象観測用データ伝送装置	放射線管理施設	環境管理設備	-	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替気象観測設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
止水板及び蓋	その他再処理設備の附属施設	溢水防護設備	-	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	重大事故等対処設備	漏えい抑制設備	-	-	-	
空気圧縮機	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	-	-	
								再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
空気貯槽	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	-	-	
								再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
空気圧縮機	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	安全圧縮空気系	再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関連する圧縮空気設備	-	-
空気貯槽	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	安全圧縮空気系	再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関連する圧縮空気設備	-	-
空気圧縮機	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	一般圧縮空気系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関連する圧縮空気設備	-	-
空気貯槽	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	一般圧縮空気系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関連する圧縮空気設備	-	-
データ収集装置	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋情報把握設備	-	-	-		計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
情報収集装置	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所(重大事故等対処設備)	-	-	-	-		計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
								計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
凝縮液回収系	その他再処理設備の附属施設	化学薬品貯蔵供給設備	化学薬品貯蔵供給系	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
冷却水循環ポンプ	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	一般冷却水系	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	冷却水設備	-	-	
受電開閉設備	その他再処理設備の附属施設	電気設備	受電開閉設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	受電開閉設備	-	-	
受電変圧器	その他再処理設備の附属施設	電気設備	受電開閉設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	受電開閉設備	-	-	
非常用電源建屋の6.9kV非常用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
ユーティリティ建屋の6.9kV運転予備用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
ユーティリティ建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
ユーティリティ建屋の6.9kV常用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
第2ユーティリティ建屋の6.9kV運転予備用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
第2ユーティリティ建屋の6.9kV常用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
前処理建屋の6.9kV非常用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
前処理建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
分離建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
精製建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	

主たる登録区分					兼用する登録区分							
機器名称	施設区分	設備区分			系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分			系統名	設備別記載事項
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	分析設備(精製建屋)	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	安全圧縮空気系(ウラン・プルトニウム混合貯蔵建屋)	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	化学薬品貯蔵供給設備	-	-	-	化学薬品貯蔵供給系	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備(高レベル廃液指寸固化建屋)	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
大型移送ポンプ	その他再処理設備の附属施設	放出抑制設備	放水設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	放出抑制設備	注水設備	-	-	-
可搬型酸素濃度計	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-
可搬型二酸化炭素濃度系	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-
可搬型窒素酸化物濃度計	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-
通信連絡設備	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	通信連絡設備	-	-
ページング装置	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
所内携帯電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
専用回線電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
ファクシミリ	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
							その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
プロセス伝送サーバ	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
放射線管理用計算機	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
環境中継サーバ	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
総合防災盤	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
統合原子力防災ネットワークP電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
統合原子力防災ネットワークP-FAX	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
統合原子力防災ネットワークTV会議システム	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
一般加入電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
一般携帯電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
衛星携帯電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
データ伝送設備	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
データ伝送設備	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
可搬型空気圧縮機	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	-	代替安全圧縮空気系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	本系爆発の再発に防止するための空気の供給に使用される設備	-
可搬型建屋外ホース	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	-	代替安全圧縮空気系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	本系爆発の再発に防止するための空気の供給に使用される設備	-
中央制御室送風機	計測制御系統設備	制御室	中央制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
制御建屋の換気ダクト	計測制御系統設備	制御室	中央制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
制御室送風機	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の換気ダクト	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
中央制御室遮蔽	計測制御系統設備	制御室	中央制御室	-	-	-	計測制御系統施設	重大事故等対処設備	制御室	中央制御室	制御室遮蔽設備	-
制御室遮蔽	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	重大事故等対処設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	制御室遮蔽設備	-

主たる登録区分							兼用する登録区分							
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
燃料仮置きラック	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料受入れ設備	燃料取出し設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
燃料貯蔵ラック	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	燃料貯蔵設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
バスケット	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	燃料送出し設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
バスケット仮置き架台(実入り用)	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	燃料送出し設備	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設	重大事故等対処設備	臨界防止設備	-	-	-	
可搬型建屋内ホース	使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	重大事故等対処設備	スプレイ設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	放出抑制設備	注水設備	-	-	-	
中継槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量前中間貯槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量・調整槽	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量後中間貯槽	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
計量補助槽	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
水素掃気配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
機器圧縮空気供給配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
冷却コイル配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
冷却ジャケット配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	清澄・計量設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
溶解槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	臨界事故時水素掃気系	
エンドピース酸洗浄槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	臨界事故時水素掃気系	
ハル洗浄槽A,B	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	臨界事故時水素掃気系	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(エンドピース酸洗浄槽用)	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(ハル・洗浄槽用)	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
代替可溶性中性子吸収材緊急供給系主配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	
冷却ジャケット配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	溶解施設	溶解設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
溶解液中間貯槽	再処理設備本体	分離施設	分離設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	
溶解液供給槽	再処理設備本体	分離施設	分離設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	重大事故等対処設備	代替換気設備	セル導出設備	-	-	代替セル排気系
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全圧縮空気系	

主たる登録区分						兼用する登録区分								
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故の発生を想定する機器	-	
第5一時貯留処理槽	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故の発生を想定する機器	-	
配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	圧縮空気設備	-	
冷却コイル配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
水素掃気配管・弁	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(第5一時貯留処理槽用)	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
重大事故時可溶性中性子吸収材供給系配管・弁(第7一時貯留処理槽用)	再処理設備本体	精製施設	精製建屋一時貯留処理設備	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	-	-	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	
硝酸プルトニウム貯槽	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
混合槽A,B	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
一時貯槽	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	代替セル排気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
								その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
水素掃気配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用される設備	-	
冷却ジャケット配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	溶液系	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
凝縮液回収系	再処理設備本体	脱硝施設	ウラン・プルトニウム混合脱硝設備	-	-	-	ウラン・プルトニウム混合脱硝系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
屋外監視カメラ	計測制御系統施設	中央制御室	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	
溶解槽圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	臨界事故の拡大を防止するために必要な計装設備	-	-	-	
廃ガス洗浄塔入口圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	臨界事故の拡大を防止するために必要な計装設備	-	-	-	
								計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
廃ガス洗浄塔入口圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	有機溶媒等による火災又は爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型セル導出ユニットフィルタ差圧計	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型フィルタ差圧系	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型廃ガス洗浄塔入口圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型導出先セル圧力計	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型貯槽温度計(熱電対)	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型貯槽温度計(測温抵抗体)	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	
可搬型貯槽温度計(センサー)	計測制御系統施設	計測制御設備(重大事故等対処設備)	冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するために必要な計装設備	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	放射線分解により発生する水素による爆発に対処するために必要な計装設備	-	-	-	

主たる登録区分						兼用する登録区分								
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
報収集装置								その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	情報把握計装設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
第2保管庫・貯水所可搬型情報収集装置	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	-	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	再処理施設への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムが懸念される	-	-	-	
情報把握計装設備可搬型発電機	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	情報把握計装設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(前処理建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(分離建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(精製建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(高レベル廃液ガラス固化建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発を未然に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(精製建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	水素爆発の再発に防止するための空気の供給に使用する設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(前処理建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	圧縮空気設備	-	
機器圧縮空気供給配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(精製建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	圧縮空気設備	-	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(前処理建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(分離建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
機器注水配管・弁	計測制御系統施設	計測制御設備(高レベル廃液ガラス固化建屋)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系	
データ表示装置	計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋情報把握設備	-	-	
情報把握計装設備無線装置	計測制御系統施設	制御室	-	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	情報把握計装設備	常設重大事故等対処設備	-	-	
北換気筒(使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気筒)	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	換気設備	北換気筒	-	-	-	放射線管理施設	放射線監視設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気設備	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	換気設備	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気設備	-	-	-	放射線管理施設	放射線監視設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
								放射線管理施設	放射線監視設備(重大事故等対処設備)	代替モニタリング設備	-	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	分離建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	高レベル濃縮廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	高レベル濃縮廃液廃ガス処理系	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	分離建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	高レベル濃縮廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	高レベル濃縮廃液廃ガス処理系	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
隔離弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
水封安全器	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
凝縮器	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
凝縮器	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
高性能粒子フィルタ	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
高性能粒子フィルタ	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
排風機	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
排風機	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	
主配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	せん断処理・溶解廃ガス処理設備	-	-	
主配管・弁	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	塔槽類廃ガス処理設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	-	-	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	精製建屋塔槽類廃ガス処理設備	-	塔槽類廃ガス処理系(プルトニウム系)	

主たる登録区分						兼用する登録区分								
機器名称	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分				系統名	設備別記載事項
放射能測定装置(液体シンチレーションカウンタ)	放射線管理施設	試料分析関係設備	放出管理分析設備	-	-	-		放射線管理施設	試料分析関係設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
核種分析装置	放射線管理施設	試料分析関係設備	放出管理分析設備	-	-	-		放射線管理施設	試料分析関係設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
								放射線管理施設	環境試料測定設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
気象観測設備(風向風速計、日射計、放射収支計、雨量計)	放射線管理施設	環境管理設備	-	-	-	-		放射線管理施設	環境管理設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
可搬型データ表示装置	放射線管理施設	代替モニタリング設備	-	-	-	-		放射線管理施設	代替気象観測設備	-	-	-	-	
監視測定用運搬車	放射線管理施設	代替モニタリング設備	-	-	-	-		放射線管理施設	代替気象観測設備	-	-	-	-	
								放射線管理施設	環境モニタリング用代替電源設備	-	-	-	-	
可搬型排気モニタリングデータ伝送装置	放射線管理施設	放射線監視設備	屋外モニタリング設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替モニタリング設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
可搬型環境モニタリングデータ伝送装置	放射線管理施設	放射線監視設備	屋外モニタリング設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替モニタリング設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
可搬型気象観測用データ伝送装置	放射線管理施設	環境管理設備	-	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替気象観測設備	可搬型重大事故等対処設備	-	-	
止水板及び蓋	その他再処理設備の附属施設	溢水防護設備	-	-	-	-		使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設	重大事故等対処設備	漏えい抑制設備	-	-	-	
空気圧縮機	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	-	-	
								再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
空気貯槽	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-		再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	代替可溶性中性子吸収材緊急供給系	-	-	
								再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
空気圧縮機	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	安全圧縮空気系	再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関する圧縮空気設備	-	-
空気貯槽	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	安全圧縮空気系	再処理設備本体	溶解施設	重大事故等対処設備	重大事故時可溶性中性子吸収材供給系	-	-	
								放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関する圧縮空気設備	-	-
空気圧縮機	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	一般圧縮空気系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関する圧縮空気設備	-	-
空気貯槽	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	-	一般圧縮空気系	放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	圧縮空気設備	-	-	
								その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	臨界事故時水素掃気系	臨界事故時水素掃気系に関する圧縮空気設備	-	-
データ収集装置	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋情報把握設備	-	-	-		計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
情報収集装置	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所(重大事故等対処設備)	-	-	-	-		計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
								計測制御系統施設	計装設備(重大事故等対処設備)	-	-	-	-	
凝縮液回収系	その他再処理設備の附属施設	化学薬品貯蔵供給設備	化学薬品貯蔵供給系	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	代替換気設備	セル導出設備	-	-	
冷却水循環ポンプ	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	一般冷却水系	-	-	-		放射性廃棄物の廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設	廃ガス貯留設備	冷却水設備	-	-	
受電開閉設備	その他再処理設備の附属施設	電気設備	受電開閉設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	受電開閉設備	-	-	
受電変圧器	その他再処理設備の附属施設	電気設備	受電開閉設備	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	受電開閉設備	-	-	
非常用電源建屋の6.9kV非常用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
ユーティリティ建屋の6.9kV運転予備用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
ユーティリティ建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
ユーティリティ建屋の6.9kV常用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
第2ユーティリティ建屋の6.9kV運転予備用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
第2ユーティリティ建屋の6.9kV常用主母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
前処理建屋の6.9kV非常用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
前処理建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
分離建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	
精製建屋の6.9kV運転予備用母線	その他再処理設備の附属施設	電気設備	所内高圧系統	-	-	-		その他再処理設備の附属施設	電気設備	主交流動力電源喪失を要因とせずに発生する重大事故等に対処する	所内高圧系統	-	-	

主たる登録区分					兼用する登録区分							
機器名称	施設区分	設備区分			系統名	設備別記載事項	施設区分	設備区分			系統名	設備別記載事項
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	分析設備(精製建屋)	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	-	-	-	安全圧縮空気系(ウラン・プルトニウム混合貯蔵建屋)	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	化学薬品貯蔵供給設備	-	-	-	化学薬品貯蔵供給系	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
機器注水配管・弁	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備(高レベル廃液柄指寸固化建屋)	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	冷却水設備	重大事故等対処設備	-	-	代替安全冷却水系
大型移送ポンプ	その他再処理設備の附属施設	放出抑制設備	放水設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	放出抑制設備	注水設備	-	-	-
可搬型酸素濃度計	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-
可搬型二酸化炭素濃度系	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-
可搬型窒素酸化物濃度計	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	緊急時対策建屋環境測定設備	-	-
通信連絡設備	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	-	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	緊急時対策所	重大事故等対処設備	通信連絡設備	-	-
ページング装置	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
所内携帯電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
専用回線電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
ファクシミリ	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
							その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
プロセス伝送サーバ	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
放射線管理用計算機	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
環境中継サーバ	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
総合防災盤	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所内データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
統合原子力防災ネットワークP電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
統合原子力防災ネットワークP-FAX	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
統合原子力防災ネットワークTV会議システム	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
一般加入電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
一般携帯電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
衛星携帯電話	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
データ伝送設備	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外通信連絡設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外データ伝送設備	常設重大事故等対処設備	-	-
データ伝送設備	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	所外データ伝送設備	-	-	-	その他再処理設備の附属施設	通信連絡設備	代替通信連絡設備	常設重大事故等対処設備	-	-
可搬型空気圧縮機	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	-	代替安全圧縮空気系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	本系爆発の再発に防止するための空気の供給に使用する設備	-
可搬型建屋外ホース	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	-	-	-	代替安全圧縮空気系	その他再処理設備の附属施設	圧縮空気設備	重大事故等対処設備	代替安全圧縮空気系	本系爆発の再発に防止するための空気の供給に使用する設備	-
中央制御室送風機	計測制御系統設備	制御室	中央制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
制御建屋の換気ダクト	計測制御系統設備	制御室	中央制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
制御室送風機	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の換気ダクト	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
中央制御室遮蔽	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-
制御室遮蔽	計測制御系統設備	制御室	使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設の制御室	-	-	-	計測制御系統施設	制御室(重大事故時)	-	-	-	-

仕様表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p style="text-align: right;">別紙-3</p> <p style="text-align: center;">仕様表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について</p> <p>1. 要旨 設備に対する要求事項を踏まえ、機器等の「取付箇所」の記載として以下に記載方針をまとめた。</p> <p>2. 設工認における取付箇所の記載事項について 再処理施設及び加工施設においては、仕様表記載事項や記載項目を整理した原子力規制委員会が定めたガイド類が存在しないため、「発電用原子炉施設の工事計画に係る手続きガイド」(以下、「手続きガイド」という)の機器等の仕様に関する記載要求範囲を参照し、記載事項を整理するものとする。 手続きガイドに記載される「取付箇所」への記載要求は以下の通り。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(抜粋) 常設の機器等(可搬型の機器等の一部で通常運転時から使用箇所に取り付けている機器等を含む。)については、属する系統の機能の独立性及び位置的分散を示すために十分な配置を説明する記載とすることが必要であり、また、溢水防護上の配慮が必要な機器等については、防護区画との関係及び据付高さ等を記載する必要がある。</p> </div> <p>3. 記載方針 上記、手続きガイドを参考に、仕様表の「取付箇所」記載方針を次に記載する。 なお、火災防護対象機器の取り扱いについても、本資料で明確化する。</p>	<p style="text-align: right;">別紙-3</p> <p style="text-align: center;">要目表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について</p> <p>1. 要旨 別表第二の記載要求事項のうち、機器等の「取付箇所」の記載として以下に記載方針をまとめた。</p> <p>2. 発電用原子炉施設の工事計画に係る手続きガイド記載内容について 「発電用原子炉施設の工事計画に係る手続きガイド」(以下、「手続きガイド」という)の機器等の仕様に関する記載要求範囲として記載される「取付箇所」への記載要求は以下の通り。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(抜粋) 常設の機器等(可搬型の機器等の一部で通常運転時から使用箇所に取り付けている機器等を含む。)については、属する系統の機能の独立性及び位置的分散を示すために十分な配置を説明する記載とすることが必要であり、また、溢水防護上の配慮が必要な機器等については、防護区画との関係及び据付高さ等を記載する必要がある。</p> </div> <p>3. 記載方針 上記、手続きガイドに基づき、要目表の「取付箇所」記載方針を次に記載する。なお、火災防護対象機器の取り扱いについても、本資料で明確化する。</p>	

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p style="text-align: center;">仕様表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について</p> <p>1. 「属する系統の機能の独立性」について</p> <p>常設機器等の「属する系統の機能の独立性」については、添付図面の「系統図」で示す。そのため、仕様表の取付箇所の欄には、当該機器が接続する系統名（ライン名）の記載欄を設け、その欄に取り付ける系統名（「〇〇〇ライン」等と表記する。）を記載する。</p> <p>また、系統図側には、施設名及び設備系統名が識別できるよう「施設区分名」と「設備（系統）区分名」を図面名称欄に記載し、仕様表と図面が繋がる記載とする。</p> <p>なお、〇〇ポンプA, B や〇〇弁A, B, C などの機器の「個数」が複数個あるものについては、その機器毎に「系統名」を記載する。また、系統に接続していないもの（例：クレーン等）については「-」で示す。</p> <p style="text-align: right;">(記載例①参照)</p> <p>2. 「位置的分散」について</p> <p>常設機器等の「位置的分散」は、添付図面の「配置図」で示す。</p> <p>そのため、仕様表の取付箇所欄には、当該機器を設置する「設置床」の記載欄を設け、その欄に「建屋の名称」及び機器等の「設置床レベル」を記載する。</p> <p>また、「配置図」側には、機器配置が識別できるよう「建屋の名称」及び「設置床レベル」を図面に記載し、仕様表と図面が繋がる記載とする。</p> <p>なお、「設置床レベル」の表記方法については、事業変更許可申請書に準じる。</p> <p style="text-align: right;">(記載例②参照)</p> <p>3. 「溢水防護上の配慮が必要な機器等」について</p> <p>3.1 防護区画との関係について</p> <p>溢水防護上の配慮を必要とする機器等と溢水防護区画との関係が分かるように仕様表の取付箇所の欄には、その機器が設置される「溢水防護上の区画番号」を記載する。</p> <p>なお、「〇〇施設の溢水による損傷の防止に関する説明書」に「防護区画番号」を示した「防護対処設備リスト」と「防護区画図面」を添付することでそれらの関係性を示す。</p> <p>また、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方法については図1及び図2に示す。</p> <p style="text-align: right;">(記載例③参照)</p>	<p style="text-align: center;">仕様表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について</p> <p>1. 「属する系統の機能の独立性」について</p> <p>常設機器等の「属する系統の機能の独立性」については、添付図面の「系統図」で示す。そのため、要目表の取付箇所の欄には、当該機器が接続する系統名（ライン名）の記載欄を設け、その欄に取り付ける系統名（「〇〇〇ライン」等と表記する。）を記載する。</p> <p>また、系統図側には、施設名及び設備系統名が識別できるよう「施設区分名」と「設備（系統）区分名」を図面名称欄に記載し、要目表と図面が繋がる記載とする。</p> <p>なお、〇〇ポンプA, B や〇〇弁A, B, C などの機器の「個数」が複数個あるものについては、その機器毎に「系統名」を記載する。また、系統に接続していないもの（例：クレーン等）については「-」で示す。7</p> <p style="text-align: right;">(記載例①参照)</p> <p>2. 「位置的分散」について</p> <p>常設機器等の「位置的分散」は、添付図面の「配置図」で示す。</p> <p>そのため、要目表の取付箇所欄には、当該機器を設置する「設置床」の記載欄を設け、その欄に「建屋の名称」及び機器等の「設置床レベル」を記載する。</p> <p>また、「配置図」側には、機器配置が識別できるよう「建屋の名称」及び「設置床レベル」を図面に記載し、要目表と図面が繋がる記載とする。</p> <p>なお、「設置床レベル」の表記方法については、設置変更許可申請書に準じる。</p> <p style="text-align: right;">(記載例②参照)</p> <p>3. 「溢水防護上の配慮が必要な機器等」について</p> <p>3.1 防護区画との関係について</p> <p>溢水防護上の配慮を必要とする機器等と溢水防護区画との関係が分かるように要目表の取付箇所の欄には、その機器が設置される「溢水防護上の区画番号」を記載する。</p> <p>なお、「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」に「防護区画番号」を示した「防護対処設備リスト」と「防護区画図面」を添付することでそれらの関係性を示す。</p> <p>また、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方法については図1及び図2に示す。</p> <p style="text-align: right;">(記載例③参照)</p>	

1. グランドルールの考え方について

- 現状のグランドルールのうち、「溢水防護上の区画番号」および「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方針の主な個所は以下のとおり。

「溢水防護上の区画番号」について

③ 「〇〇施設 溢水による損傷の防止に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、仕様表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。

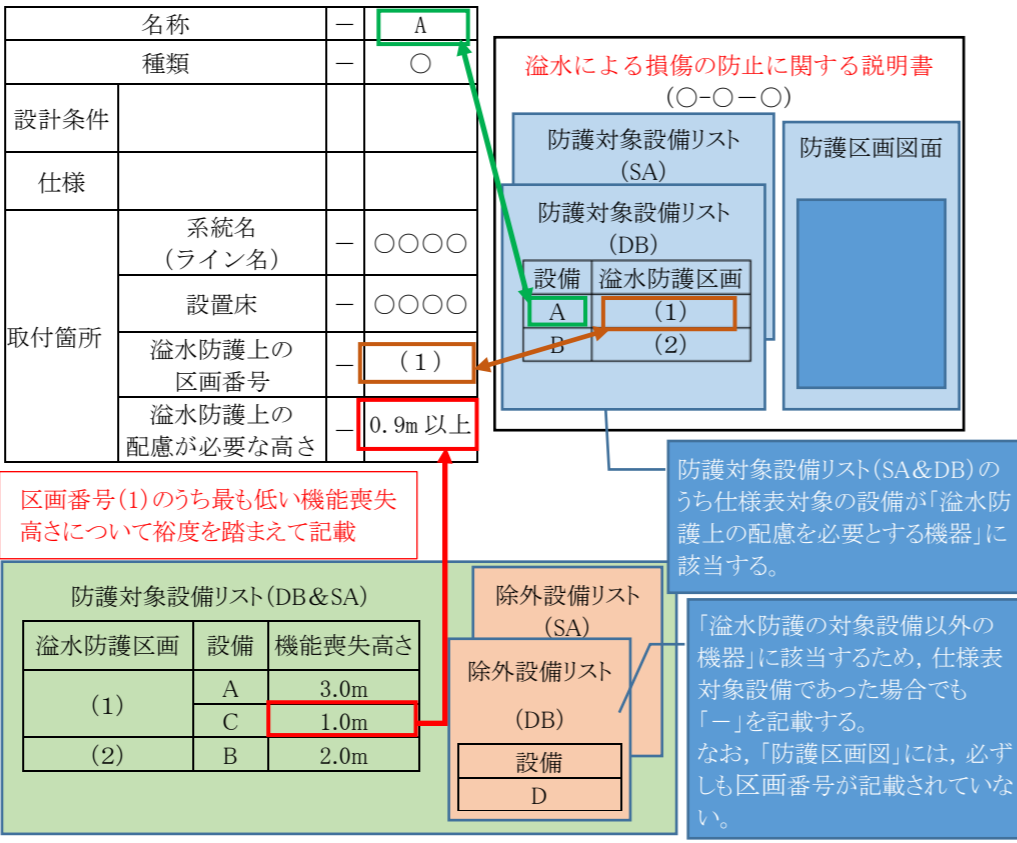
なお、溢水防護上の対象設備以外の機器は「-」とする。

「溢水防護上の配慮が必要な高さ」について

④ 溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定したうえで、裕度を設定して仕様表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。

なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。

・上記のルールを踏まえた「溢水防護上の区画番号」および「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載するために用いる資料構成と仕様表記載の流れのイメージ図を第1図に示す。



1. グランドルールの考え方について

- 現状のグランドルールのうち、「溢水防護上の区画番号」および「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方針の主な個所は以下のとおり。(先行 PWR と同様)

「溢水防護上の区画番号」について

③ 「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、要目表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。

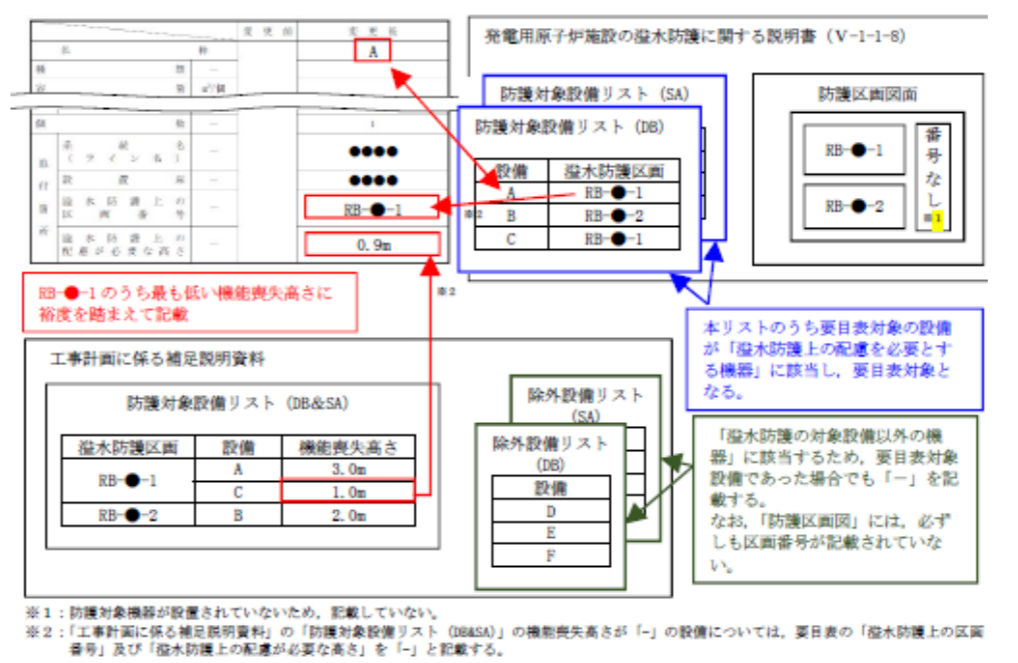
なお、溢水防護上の対象設備以外の機器は「-」とする。

「溢水防護上の配慮が必要な高さ」について

④ 溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定したうえで、裕度を設定して要目表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。

なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。

・上記のルールを踏まえた「溢水防護上の区画番号」および「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載するために用いる資料構成と要目表記載の流れのイメージ図を第1図に示す。



・「溢水防護上の配慮を必要とする機器」と「溢水防護の対象設備以外の機器」の考え方

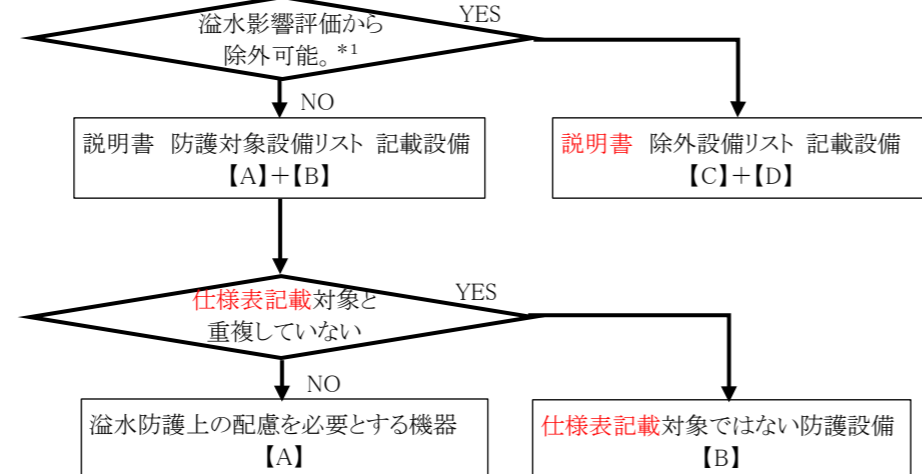


- 黄色: 「溢水防護上の配慮を必要とする機器」(仕様表記載対象)【A】
- 青: 仕様表記載対象ではない溢水防護対象設備【B】(グランドルール上の「溢水防護の対象設備以外の機器」)
- 灰色: 「溢水防護の対象設備以外の機器」【C】【D】【E】

・仕様表の整理フロー

- ・再処理許可基準規則 第11条、加工許可基準規則第11条の法令要求対象機器
- ・SA 設備

【A】+【B】+【C】+【D】



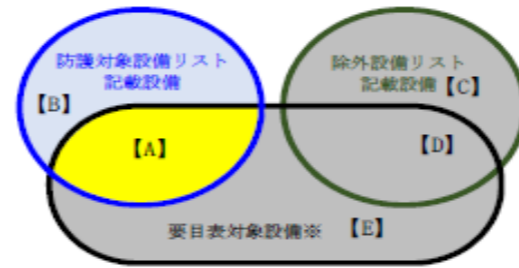
※1: 以下に該当する設備は評価対象外としている。

- ① 溢水により機能喪失しない。(静的機器等)
- ② 動作機能の喪失により安全機能に影響しない。
- ③ 他の設備で代替できる。

分類	「溢水防護上の区画番号」	溢水防護上の配慮が必要な高さ
A	区画番号を記載する。	区画内で最も低い機能喪失高さを記載する。
B	仕様表記載対象ではない。	
C	仕様表記載対象ではない。	
D	「-」を記載する。	「-」を記載する。
(参考: E)	(「-」を記載する。)	(「-」を記載する。)

図2 仕様表の整理フロー

・「溢水防護上の配慮を必要とする機器」と「溢水防護の対象設備以外の機器」の考え方

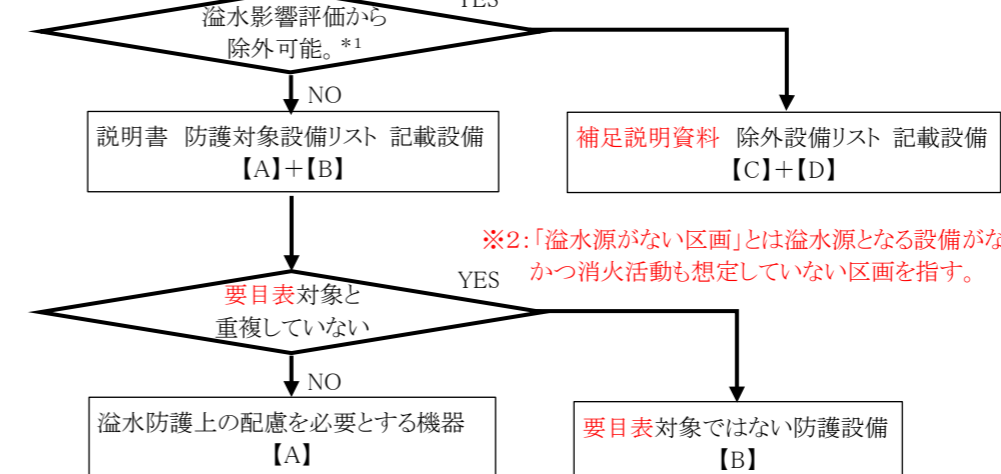


- 黄色: 「溢水防護上の配慮を必要とする機器」(要目表対象)【A】
- 青: 要目表対象ではない防護対象設備【B】(グランドルール上の「溢水防護の対象設備以外の機器」)
- 灰色: 「溢水防護の対象設備以外の機器」【C】【D】【E】 ※ 別表第二の範囲を示す。

・要目表の整理フロー

- ・設置許可基準規則 第9条の法令要求対象機器
- ・SA 設備

【A】+【B】+【C】+【D】



※1: 以下に該当する設備は評価対象外としている。

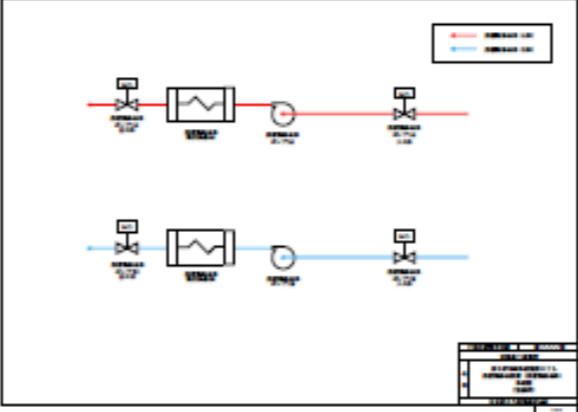

- ① 溢水により機能喪失しない。(静的機器等)
- ② 原子炉格納容器内耐震境使用の設備である。
- ③ 動作機能の喪失により安全機能に影響しない。
- ④ 他の設備で代替できる。

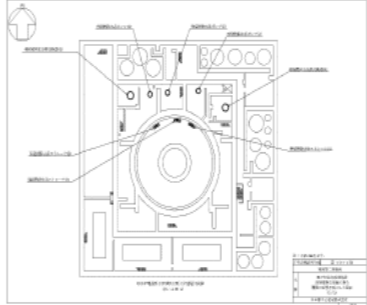

※2: 「溢水源がない区画」とは溢水源となる設備がなく、かつ消火活動も想定していない区画を指す。

分類	「溢水防護上の区画番号」	溢水防護上の配慮が必要な高さ
A	区画番号を記載する。	区画内で最も低い機能喪失高さを記載する。
B	要目表対象ではない。	
C	要目表対象ではない。	
D	「-」を記載する。	「-」を記載する。
(参考: E)	(「-」を記載する。)	(「-」を記載する。)

図2 要目表の整理フロー

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>3.2 据付高さ等</p> <p>据付高さ等について、溢水防護上の配慮が必要な機器等については、その機器等が設置される溢水防護上の区画のうち、機能喪失高さの裕度が最も低いものを選定し、その区画の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として設定する。</p> <p>「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の設定には、機能喪失高さのマーヅンを加えた値で設定し、仕様表の記載としては、そのマーヅンを加えた値に「以上」を付記して表記する。</p> <p>また、溢水防護上の配慮が必要ない設備については「-」を記載する。</p> <p>なお、溢水防護上の配慮が必要な高さについては、追加要求事項として要目表の「変更後」も欄に記載する。</p> <p style="text-align: right;">(記載例④参照)</p>	<p>3.2 据付高さ等</p> <p>据付高さ等について、溢水防護上の配慮が必要な機器等については、その機器等が設置される溢水防護上の区画のうち、機能喪失高さの裕度が最も低いものを選定し、その区画の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として設定する。</p> <p>「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の設定には、機能喪失高さのマーヅンを加えた値で設定し、要目表の記載としては、そのマーヅンを加えた値に「以上」を付記して表記する。</p> <p>また、溢水防護上の配慮が必要ない設備については「-」を記載する。</p> <p>なお、溢水防護上の配慮が必要な高さについては、追加要求事項として要目表の「変更後」も欄に記載する。</p> <p style="text-align: right;">(記載例④参照)</p> <p>4. 「火災防護対象機器」についての扱い</p> <p>火災防護対象機器の設置位置と「火災区域」又は「火災区画」との関係性について、以下の整理とする。</p> <p>(1) 「火災区域」及び「火災区画」の識別として、火災防護設備の要目表に「火災区域」及び「火災区画」の「名称」と「番号」を記載し、また添付図面においても、図中にそれら区域及び区画の「番号」を記載することで火災防護上の「区域」及び「区画」を識別する。</p> <p>(2) 火災防護対象機器について、添付書類「V-1-1-7 発電用原子炉施設の火災防護に関する説明書」に「機器リスト」を添付し、そのリスト中に火災防護対象機器の「機器名称」と、その機器が設置される「火災区域番号」又は「火災区画番号」を記載することで、「火災防護対象機器」と「火災区域」及び「火災区画」との関係性が分かる記載とする。</p>	<p>・火災防護対象機器は仕様表作成対象外のため、記載しない。</p>

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p data-bbox="706 275 1359 302">仕様表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について</p> <p data-bbox="557 380 878 407">属する系統の機能の独立性</p> <ul data-bbox="557 415 1507 478" style="list-style-type: none"> ・独立性は添付図面の系統図にて示す。なお、機器が設置される系統について「設備 (系統名)」で記載し、系統図とリンクさせる。 <p data-bbox="557 1146 774 1173">防護区画との関係</p> <ul data-bbox="557 1182 1507 1245" style="list-style-type: none"> ・溢水防護上の配慮を必要とする機器等の仕様表の取付箇所欄には、その機器が設置される「溢水防護上の区画番号」を記載する。 	<p data-bbox="1679 275 2332 302">要目表記載のうち機器等の取付箇所の記載方針について</p> <div data-bbox="1567 348 2303 947"> <p data-bbox="1626 365 1947 392">属する系統の機能の独立性</p> <ul data-bbox="1581 443 2288 506" style="list-style-type: none"> ・独立性は系統図にて示す。なお、機器が設置される系統について「設備 (系統名)」で記載し、系統図とリンクさせる。  </div> <div data-bbox="1567 1104 2303 1692"> <p data-bbox="1626 1121 1843 1148">防護区画との関係</p> <ul data-bbox="1581 1199 2288 1262" style="list-style-type: none"> ・溢水防護上の配慮を必要とする機器等の要目表の取付箇所欄には、その機器が設置される「溢水防護上の区画番号」を記載する。  </div>	

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>据付高さ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溢水防護対象機器等が設置される溢水防護区画のうち、機能喪失高さの裕度が最も低いものを選定し、その区画の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として設定する。 <p>なお、「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の設定には、機能喪失高さにマージンを加えた値で設定し、仕様表の記載としては、そのマージンを加えた値に「以上」を付記して標記する。</p> <p>位置的分散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設の機器等の「位置的分散」は、添付図面の「配置図」で示す。 <p>仕様表の取付箇所欄には「配置図」とリンクできるよう、当該機器が設置される「設置床」の記載欄を設け、その欄に「建屋の名称」及び機器の「設置床レベル」を記載する。</p> <p>また、「配置図」側には、図面中に「建屋の名称」及び「設置床レベル」を記載する。</p>	<div data-bbox="1576 296 2332 909" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">据付高さ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溢水防護対象機器等が設置される溢水防護区画のうち、機能喪失高さの裕度が最も低いものを選定し、その区画の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として設定する。 <p>なお、「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の設定には、機能喪失高さにマージンを加えた値で設定し、要目表の記載としては、そのマージンを加えて値に「以上」を付記して表記する。</p> </div> <div data-bbox="1552 1010 2472 1455" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">位置的分散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設の機器等の「位置的分散」は、添付図面の「配置図」で示す。 <p>要目表の取付箇所欄には「配置図」とリンクできるよう、当該機器が設置される「設置床」の記載欄を設け、その欄に「建屋の名称」及び機器の「設置床レベル」を記載する。</p> <p>また、「配置図」側には、図面中に「建屋の名称」及び「設置床レベル」を記載する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">イメージ図</p> </div>	

記載例

			変更前	変更後	
名称		—	冷却水循環ポンプ A, B		
種類		—	〇〇		
設計条件	ポンプ	核的制限値	L	〇〇	
		最高使用圧力	MPa	〇〇	
		最高使用温度	℃	〇〇	
		定格容量	m ³ /h/個	〇〇	
	仕様	定格揚程	m	〇〇	
		主要寸法	吸込口径	mm	〇〇
			吐出口径	mm	〇〇
		主要材料	ケーシング		〇〇
個数			①の例		
取付箇所	系統名 (ライン名)			〇〇	
	設置床			〇〇	
	溢水防護上の区画番号			〇〇	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ			〇〇	
原動機	種類	—		〇〇	
	出力	kW/個		〇〇	
	個数	—		〇〇	
	取付箇所	—		〇〇	

記載例

4 ほう酸水注入設備に係る次の事項
 4.1 ほう酸水注入系
 (1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

		変更前	変更後	
名称		ほう酸水注入ポンプ*1	ほう酸水注入ポンプ*2	
ポンプ	種類	—	往復形*3	
	容量	m ³ /h/個	9.78 以上 (9.78*4, *5)	
	吐出圧力*6	MPa	8.5 以上*6 (8.5*4, *5)	
	最高使用圧力	MPa	吸込側 1.04*7 吐出側 9.66*7	
	最高使用温度	℃	66*7	
	主要寸法	吸込内径	mm	65.9*4, *7
		吐出内径	mm	38.4*4, *7
		ケーシング厚さ	mm	11.8*4, *7
		たて	mm	1820*4, *8
	材料	横	mm	2100*4, *8
高さ		mm	1250*4, *8	
ケーシング*9		—		
取付箇所	ケーシングカバー	—		
	個数	—	2*10	
	系統名 (ライン名)	ほう酸水注入ポンプ A ほう酸水注入系*7	ほう酸水注入ポンプ B ほう酸水注入系*7	
	設置床	—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 38.80 m*7	
溢水防護上の区画番号	—		RB-5-3	
	—		RB-5-3	
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL. 39.26 m 以上	
	—		EL. 39.26 m 以上	

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考														
		<p style="text-align: center;">東海第二_事業者ヒアリング_第1313回_H30年10月5日</p> <p>(続き)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>誘導電動機*11</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個 37</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>ポンプと同じ*7</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。 *2: 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(ほう酸水注入系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(ほう酸水注入系)と兼用する。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平3連ブランチポンプ」と記載。記載内容は、設計図書による。 *4: 公称値を示す。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「163 ℓ/min」と記載。 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程 870 m」と記載。 *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年11月7日付け 資庁第 11107 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-18 図 ほう酸水注入系ポンプ組立外形図」による。 *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「接液部」と記載。 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (常用1, 予備1)」と記載。 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 相誘導電動機」と記載。</p> <p style="text-align: center;">2-別 3-8</p>			変 更 前	変 更 後	原 動 機	種 類	誘導電動機*11	変更なし	出 力	kW/個 37	個 数	2	取 付 箇 所	ポンプと同じ*7	
		変 更 前	変 更 後														
原 動 機	種 類	誘導電動機*11	変更なし														
	出 力	kW/個 37															
	個 数	2															
	取 付 箇 所	ポンプと同じ*7															

可搬型主配管の仕様表に記載する「個数」の記載方法と「個数」及び「取付箇所」に
注記を記載する際の基本的な記載ルールについて

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考																								
	<p style="text-align: right;">別紙 4</p> <p>可搬型主配管の仕様表に記載する「個数」の記載方法と「個数」及び「取付箇所」に注記を記載する際の基本的な記載ルールについて</p> <p>1. 要旨 可搬型主配管に係る「個数」の記載方法及び「個数」, 「取付箇所」に注記を記載する際の基本的な記載方法について以下にまとめる。</p> <p>2. 「個数」の記載方法 2.1 「個数」欄には, 「技術基準規則で要求される必要な容量を賄える個数」(以下「必要数」という。)と「故障時バックアップの個数」を記載する。</p> <p>その際, 必要数は括弧外に記載し, 予備は括弧を付し, そのカッコ内に「故障時バックアップ」の記載と個数を示す。</p> <p>例:</p> <table border="1" data-bbox="557 1024 1507 1146"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● (故障時バックアップ□□)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">●●: 必要数 □□: 故障時バックアップ数</p> <p>※…故障時バックアップの表示は括弧内に「故障時バックアップ」の記載と個数を付す。</p> <p>なお, 「個数」には, 単位を記載しないが, 管種を識別するため「取付箇所」欄に記載する場合は以下の表記とする。</p> <p>① 可搬型ホースについては「本」 ② 可搬型鋼管については「台」</p> <p>2.2 可搬型主配管は, 使用方法により適用する技術基準規則が異なり, それにより必要数及び故障時バックアップ数も変わることから, 個々の基本的な記載パターンを以下に定める。</p> <p>2.2.1 基準要求が $2n + \alpha$ のもの (例: 「建屋外」から「建屋内」に水を供給するための可搬型ホース等)</p> <p>(1) 単一の長さの可搬型主配管の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には, $2n$の本数(台数)を括弧外に記載する。 故障時バックアップ数には, αの本数(台数)に括弧を付して記載する。 	名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所					●● (故障時バックアップ□□)		<p style="text-align: right;">別紙 4</p> <p>可搬型主配管の要目表に記載する「個数」の記載方法と「個数」及び「取付箇所」に注記を記載する際の基本的な記載ルールについて</p> <p>1. 要旨 別表第二の改正により可搬型主配管の要目表に「個数」が追加されたことを受け, その「個数」への記載方法及び「個数」, 「取付箇所」に注記を記載する際の基本的な記載方法について以下にまとめる。</p> <p>2. 「個数」の記載方法 2.1 「個数」欄には, 「技術基準規則で要求される必要な容量を賄える個数」(以下「必要数」という。)と「バックアップの個数」(以下「予備」という。)を記載する。</p> <p>その際, 必要数は括弧外に記載し, 予備は括弧を付し, そのカッコ内に「予備」の記載と個数を示す。</p> <p>例:</p> <table border="1" data-bbox="1537 1024 2487 1146"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● (予備□□)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">●●: 必要数 □□: 予備数</p> <p>※…予備の表示は括弧内に「予備」の記載と個数を付す。</p> <p>なお, 「個数」には, 単位を記載しないが, 管種を識別するため「取付箇所」欄に記載する場合は以下の表記とする。</p> <p>① 可搬型ホースについては「本」 ② 可搬型鋼管については「台」</p> <p>2.2 可搬型主配管は, 使用方法により適用する技術基準規則が異なり, それにより必要数及び予備数も変わることから, 個々の基本的な記載パターンを以下に定める。</p> <p>2.2.1 基準要求が $2n + \alpha$ のもの (例: 「建屋外」から「建屋内」に水を供給するための可搬型ホース等)</p> <p>(1) 単一の長さの可搬型主配管の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には, $2n$の本数(台数)を括弧外に記載する。 予備数には, αの本数(台数)に括弧を付して記載する。 	名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所					●● (予備□□)		<p>・別表第2に相当するものがないため, 記載見直し。</p> <p>・常設設備における「予備」の扱いと区別するため, 読み替えは行わない。(以降, 省略。)</p>
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																						
				●● (故障時バックアップ□□)																							
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																						
				●● (予備□□)																							

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考																								
	<p>(2) 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には、ホース長さごとに必要となる本数を合算した値 (2n) を括弧外に記載する。 故障時バックアップ数には、ホース長さごとの故障時バックアップ本数を合算した値 (α) に括弧を付して記載する。 <p>2.2.2 基準要求が n + α のもの (例:「建屋内」のみ使用する可搬型ホース等)</p> <p>(1) 単一の長さの可搬型主配管の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には、nの本数(台数)を括弧外に記載する。 故障時バックアップ数には、αの本数(台数)に括弧を付して記載する。 <p>(2) 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には、ホース長さごとに必要となる本数を合算した値(n)を括弧外に記載する。 故障時バックアップ数には、ホース長さごとの予備本数を合算した値(α)に括弧を付して記載する。 <p>3. 「個数」及び「取付箇所」に注記を記載する際の基本的な表記方法</p> <p>3.1 「個数」への注記方法 以下に示す「3.1.1」～「3.1.4」の場合には、個数に注記を記載する。</p> <p>3.1.1 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合は、長さごとに必要となる数がかかるように注記を記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="557 1423 1507 1549"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 5m, 10m, 50m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● (故障時バックアップ□□) *1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 必要本数●●本 (5m: ●本, 10m: ●本, 50m: ●本) 及び故障時バックアップ各1本の数量を示す。</p>	名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所	〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (故障時バックアップ□□) *1		<p>(2) 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には、ホース長さごとに必要となる本数を合算した値 (2n) を括弧外に記載する。 予備数には、ホース長さごとの予備本数を合算した値 (α) に括弧を付して記載する。 <p>2.2.2 基準要求が n + α のもの (例:「建屋内」のみ使用する可搬型ホース等)</p> <p>(1) 単一の長さの可搬型主配管の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には、nの本数(台数)を括弧外に記載する。 予備数には、αの本数(台数)に括弧を付して記載する。 <p>(2) 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数には、ホース長さごとに必要となる本数を合算した値(n)を括弧外に記載する。 予備数には、ホース長さごとの予備本数を合算した値(α)に括弧を付して記載する。 <p>3. 「個数」及び「取付箇所」に注記を記載する際の基本的な表記方法</p> <p>3.1 「個数」への注記方法 以下に示す「3.1.1」～「3.1.4」の場合には、個数に注記を記載する。</p> <p>3.1.1 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合は、長さごとに必要となる数がかかるように注記を記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="1534 1423 2484 1549"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 5m, 10m, 50m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● (予備□□) *1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 必要本数●●本 (5m: ●本, 10m: ●本, 50m: ●本) 及び予備各1本の数量を示す。</p>	名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所	〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (予備□□) *1		
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																						
〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (故障時バックアップ□□) *1																							
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																						
〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (予備□□) *1																							

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考																																																																								
	<p>3.1.2 設備を兼用する複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する 場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備（系統）区分によって、組み合わせる本数（台数）が異なるものは、各設備（系統）区分で必要となる数がわかるように注記を記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="557 527 1504 653"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用 圧力</th> <th>最高使用 温度</th> <th>主要 寸法</th> <th>個数</th> <th>取付 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 5m, 10m, 50m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● (故障時バック アップ□□) *2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *2：〇〇施設のうち△△設備（□□系）としての必要本数●●本（5m：●本，10m：●本，50m：●本）と●●施設のうち▲▲設備（■系）としての必要本数●●本（5m：●本，10m：●本，50m：●本）を合わせた数量及び故障時バックアップ各 1 本の数量を示す。</p> <p>3.1.3 機器に専属するホースの場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器の専属ホースであることがわかるように、専属する機器名が判別可能なよう注記で記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="557 1100 1504 1192"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用 圧力</th> <th>最高使用 温度</th> <th>主要 寸法</th> <th>個数</th> <th>取付 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 5m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● *3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *3：〇〇ポンプの保有数と同じ数量を示す。</p> <table border="1" data-bbox="557 1283 1504 1436"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用 圧力</th> <th>最高使用 温度</th> <th>主要 寸法</th> <th>個数</th> <th>取付 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>△△ 給油ライン接続用 19.5m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● *4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *4：△△1台あたりの数量を示す。</p>	名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所	〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (故障時バック アップ□□) *2		名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所	〇〇用 5m ホース				●● *3		名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所	△△ 給油ライン接続用 19.5m ホース				●● *4		<p>3.1.2 設備を兼用する複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する 場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備（系統）区分によって、組み合わせる本数（台数）が異なるものは、各設備（系統）区分で必要となる数がわかるように注記を記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="1534 527 2481 653"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用 圧力</th> <th>最高使用 温度</th> <th>主要 寸法</th> <th>個数</th> <th>取付 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 5m, 10m, 50m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● (予備□□) *2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *2：〇〇施設のうち△△設備（□□系）としての必要本数●●本（5m：●本，10m：●本，50m：●本）と●●施設のうち▲▲設備（■系）としての必要本数●●本（5m：●本，10m：●本，50m：●本）を合わせた数量及び予備各 1 本の数量を示す。</p> <p>3.1.3 機器に専属するホースの場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器の専属ホースであることがわかるように、専属する機器名が判別可能なよう注記で記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="1534 1100 2481 1192"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用 圧力</th> <th>最高使用 温度</th> <th>主要 寸法</th> <th>個数</th> <th>取付 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 5m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● *3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *3：〇〇ポンプの保有数と同じ数量を示す。</p> <table border="1" data-bbox="1534 1283 2481 1436"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用 圧力</th> <th>最高使用 温度</th> <th>主要 寸法</th> <th>個数</th> <th>取付 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>△△ 給油ライン接続用 19.5m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●● *4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *4：△△1台あたりの数量を示す。</p>	名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所	〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (予備□□) *2		名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所	〇〇用 5m ホース				●● *3		名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所	△△ 給油ライン接続用 19.5m ホース				●● *4		
名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所																																																																						
〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (故障時バック アップ□□) *2																																																																							
名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所																																																																						
〇〇用 5m ホース				●● *3																																																																							
名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所																																																																						
△△ 給油ライン接続用 19.5m ホース				●● *4																																																																							
名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所																																																																						
〇〇用 5m, 10m, 50m ホース				●● (予備□□) *2																																																																							
名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所																																																																						
〇〇用 5m ホース				●● *3																																																																							
名称	最高使用 圧力	最高使用 温度	主要 寸法	個数	取付 箇所																																																																						
△△ 給油ライン接続用 19.5m ホース				●● *4																																																																							

発電炉 工認手続きガイド	当社施設 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考																																																
	<p>3.1.4 2セットで技術基準規則要求を満たす設備に使用するホースの場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 2セットで基準要求を満たす設備に使用するホースは、1セット分の必要本数及び故障時バックアップ数と必要なセット数を注記で記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="557 493 1504 766"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇 給油ライン 接続用 4 m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●●*5 (故障時バックアップ□□)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *5：必要本数 15 本を 2 セットに故障時バックアップ 1 本の数量を示す。</p> <p>3.2 「取付箇所」への注記方法</p> <p>以下に示す「3.2.1」の場合には、取付箇所に注記を記載する。</p> <p>3.2.1 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 最長敷設ルートにおけるホース長さごとの必要本数を記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="557 1171 1504 1444"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 0.5m, 1m, 2m, 3m, 5m, 10m, 20m, 50m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>取付箇所： △△～□□接 続口 (52 本 *6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *6：最長のルートである「●●～▲▲」に敷設した場合 (0.5m：1 本，1m：2 本，2m：5 本，3m：1 本，5m：3 本，10m：8 本，50m：32 本) の数量を示す。</p> <p>4. 各可搬型主配管の個数の内訳</p> <p>可搬型主配管のうち、複数の使用方法等により内訳の説明を要する可搬型主配管は、設定根拠に関する説明書又は設定根拠に関する説明書の補足説明資料に示す。</p>	名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所	〇〇 給油ライン 接続用 4 m ホース				●●*5 (故障時バックアップ□□)		名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所	〇〇用 0.5m, 1m, 2m, 3m, 5m, 10m, 20m, 50m ホース					取付箇所： △△～□□接 続口 (52 本 *6)	<p>3.1.4 2セットで技術基準規則要求を満たす設備に使用するホースの場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 2セットで基準要求を満たす設備に使用するホースは、1セット分の必要本数及び予備数と必要なセット数を注記で記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="1534 493 2481 766"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇 給油ライン 接続用 4 m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●●*5 (予備□□)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *5：必要本数 15 本を 2 セットに予備 1 本の数量を示す。</p> <p>3.2 「取付箇所」への注記方法</p> <p>以下に示す「3.2.1」の場合には、取付箇所に注記を記載する。</p> <p>3.2.1 複数の長さを持つ可搬型ホースを組み合わせて使用する場合</p> <p>(1) 記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 最長敷設ルートにおけるホース長さごとの必要本数を記載する。 <p>例：</p> <table border="1" data-bbox="1534 1171 2481 1444"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力</th> <th>最高使用温度</th> <th>主要寸法</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇用 0.5m, 1m, 2m, 3m, 5m, 10m, 20m, 50m ホース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>取付箇所： △△～□□接 続口 (52 本 *6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *6：最長のルートである「●●～▲▲」に敷設した場合 (0.5m：1 本，1m：2 本，2m：5 本，3m：1 本，5m：3 本，10m：8 本，50m：32 本) の数量を示す。</p> <p>4. 各可搬型主配管の個数の内訳</p> <p>可搬型主配管のうち、複数の使用方法等により内訳の説明を要する可搬型主配管は、設定根拠に関する説明書又は設定根拠に関する説明書の補足説明資料に示す。</p>	名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所	〇〇 給油ライン 接続用 4 m ホース				●●*5 (予備□□)		名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所	〇〇用 0.5m, 1m, 2m, 3m, 5m, 10m, 20m, 50m ホース					取付箇所： △△～□□接 続口 (52 本 *6)	
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																																														
〇〇 給油ライン 接続用 4 m ホース				●●*5 (故障時バックアップ□□)																																															
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																																														
〇〇用 0.5m, 1m, 2m, 3m, 5m, 10m, 20m, 50m ホース					取付箇所： △△～□□接 続口 (52 本 *6)																																														
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																																														
〇〇 給油ライン 接続用 4 m ホース				●●*5 (予備□□)																																															
名称	最高使用圧力	最高使用温度	主要寸法	個数	取付箇所																																														
〇〇用 0.5m, 1m, 2m, 3m, 5m, 10m, 20m, 50m ホース					取付箇所： △△～□□接 続口 (52 本 *6)																																														

設工認作成要領における最高使用圧力／温度の扱いについて

1. 事業変更許可申請書の記載内容

事業変更許可申請書における放射線分解により発生する水素による爆発及びT B P等の錯体の急激な分解反応に関する環境条件等（最高使用圧力／温度）の記載は以下のとおり。

（本文）

- ✓ 常設重大事故等対処設備は、想定される重大事故等が発生した場合における温度、圧力、湿度、放射線及び荷重を考慮し、その機能が有効に発揮できるよう、その設置場所（使用場所）に応じた耐環境性を有する設計とする。
- ✓ 放射線分解により発生する水素による爆発の発生及びりん酸三ブチル（以下「T B P」という。）又はその分解生成物であるりん酸二ブチル、りん酸一ブチル（以下「T B P等」という。）と硝酸、硝酸ウラニル又は硝酸プルトニウムの錯体（以下「T B P等の錯体」という。）による急激な分解反応の発生を想定する機器については、瞬間的に上昇する温度及び圧力の影響により必要な機能を損なわない設計とする。

（添付書類六）

- ✓ 重大事故等時の温度、圧力、湿度、放射線の影響として、以下の条件を考慮しても機能を喪失することはなく、必要な機能を有効に発揮することができる設計とする。各重大事故等時の環境条件は以下のとおり。

(1) 水素爆発

水素の燃焼による温度及び圧力の上昇、並びに外部からの圧縮空気の供給圧力を考慮し、以下を使用条件とする。また、同時に発生するおそれのある「冷却機能の喪失による蒸発乾固」の使用条件も考慮する。

温度	蒸発乾固との同時発生	130℃※	
	水素爆発単独発生	50℃※	
圧力	水素爆発の同時発生を想定する貯槽	0.5MPa※	
	圧縮空気供給系統等	0.69MPa等※	

※ 主要な数値のみ抜粋

(2) T B P等の錯体による急激な分解反応

T B P等の錯体による急激な分解反応が発生した時の温度及び圧力、当該事象発生後の温度及び圧力を考慮し、以下を条件とする。

温度	プルトニウム濃縮缶気相部	370℃※
圧力	プルトニウム濃縮缶気相部	0.84MPa※

※ 主要な数値のみ抜粋

2. 爆発等による荷重の取り扱い

- ✓ 水素爆発及びT B P等の錯体の急激な分解反応によって構造物に生じる荷重は、気相部を伝達する衝撃波（パルス状）であり、構造物に静的に負荷される荷重とは影響が異なる。
- ✓ 一般的な強度評価に用いられる静的に負荷される荷重による応力は、力のつり合いにより生じる。一方、衝撃波による応力は、その衝撃波への構造物の応答により生じるものであり、衝撃波が示す圧力の大きさを単純に応力が定まるものではない。（衝撃波による応力の算出には動的な解析（衝撃解析）を必要）。
- ✓ 従って、衝撃波が示す圧力は、通常の仕様表に記載される圧力とは意味合いが異なる。
- ✓ 以上を考慮し、仕様表には静的に負荷される荷重としての圧力を記載する。

3. 設工認への記載方針

設工認における、基本設計方針、仕様表及び添付書類（耐圧強度計算書）における水素爆発及びT B P等の錯体の急激な分解反応に関する環境条件等（最高使用圧力／温度）の記載方針を以下のとおりとする。

(1) 基本設計方針

ADRB本文記載事項に合わせて、「水素爆発等の瞬間的に上昇する温度及び圧力の影響により必要な機能を損なわない設計とする」旨を記載する。

(2) 仕様表

水素爆発及びT B P等の錯体の急激な分解反応に由来する圧力／温度を除く当該設備において最も厳しい条件を記載する。（「2. 爆発等による荷重の取り扱い」参照）

(3) 添付書類

耐圧強度計算書において、水素爆発及びT B P等錯体の急激な分解反応による圧力／温度条件の設定根拠を記載する。また、この条件における衝撃解析を実施し、健全性が維持されることを示す。

以上

再処理施設における耐圧強度評価を行う対象の考え方について

1. はじめに

再処理施設において、既認可では以下の対象について、耐圧強度評価を行っていた。

- ・事業指定申請書で安全上重要な施設として定めたもの（容器及び管並びにこれらを支持する構造物）
- ・再処理第1種機器～第5種機器に属するもの
- ・放射性物質を内包し、内容積が10m³以上の容器
- ・ウラン又はウランの化合物をウラン量で500Kg以上内包する容器
- ・海洋放出管理系に属するもの

2. 耐圧強度評価対象の考え方

(1) 事業指定申請書で安全上重要な施設として定めたもの

技術基準第6条に「再処理施設の安全を確保する上で重要なものの材料及び構造は、当該容器等がその設計上要求される強度及び耐食性を確保できるものでなければならぬ。」と記載されているため、事業指定申請書で「安全上重要な施設」として申請されている容器及び管等を耐圧強度評価対象として選定した。

(2) 再処理第1種機器～第5種機器に属するもの

核燃料施設は、多量の核燃料物質や核分裂生成物を取り扱うため、これらに対する機器の閉じ込め機能が重要であるため、再処理規則の「溶接検査を受ける再処理施設」と定められている放射能濃度を基に定めている溶接の機種区分を耐圧強度評価対象として選定した。

(3) 放射性物質を内包し、内容積が10m³以上の容器

溶接検査対象外であっても使用済燃料プールのような大型容器は強度評価対象とすべきと考え、耐圧強度評価対象として選定した。

なお、放射性物質の定義は、37Bq/cm³を超える放射能濃度としている。

(4) ウラン又はウランの化合物をウラン量で500Kg以上内包する容器

再処理規則の「溶接検査を受ける再処理施設」では、「ウラン又はウランの化合物を含む液体状の物質を内包する容器であって、その内包するウランの量が五百キログラム以上のもの」と規定されており、液体状に限定した溶接検査となっているが、過去の折衝の中で、ウラン又はウラン化合物を内包する固体（粉末も含む）に対しても強度評価対象とすべきとの議論を踏まえ、液体状に限定することなく、耐圧強度計算対象として選定した。

(5) 海洋放出管理系に属するもの

事業指定申請書では、安全上重要な施設として申請はされていないが、事業指定申請書の添付書類の中で、「海洋放出管を経て、沖合3kmの海中に放出する」旨記載されているため、放出経路維持の観点から海洋放出管理系に属する機器の閉じ込めが重

要と考え、耐圧 強度計算対象として選定した。

以 上

再処理施設等の設工認における管継手の記載方針について

1. はじめに

発電用原子炉施設の工事計画に係る手続きガイド（以下、「工認手続きガイド」という。）では、「本流が流れる箇所の管継手も主配管とし、要目表に記載する必要があるが、クラス3管、重大事故等クラス3管又は発電用火力設備に関する技術基準を定める省令を準用する管に接続する管継手であって、JIS規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、要目表への記載を必要としないこととする。また、クラス1管、クラス2管、重大事故等クラス1管又は重大事故等クラス2管であつて、母管から分岐する主配管に接続するための管台については、要目表に明記することとする。」と記載されている。

2. 再処理施設に対する材料及び構造に関する要求について

発電炉では、「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」において、各機器がその機能を果たすうえで考慮すべき使用条件に応じて設定された機器等の区分毎に材料及び構造に関する要求が規定されており、通常運転時及び設計基準事故時における使用条件が高温、高圧となる原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する機器（クラス1機器）、工学的安全施設のうちの直接系に属する機器等（クラス2機器）については、材料及び構造に関する特別な要求が規定されている。

一方、再処理施設においては、安全機能を有する施設を含む全ての機器の通常運転時、設計基準事故時における使用条件は、低温、低圧で、各機器に求められる機能に係わらず有意な差がないことから、「再処理施設の技術基準に関する規則」においても機器等の区分に応じた構造上の要求はなく、安全機能を有する施設を含む全ての機器は、当時の「発電用原子力設備に関する構造等の技術基準」（昭和55年10月30日 通商産業省告示第501号）の第4種機器（現行クラス3機器）に対する材料及び構造に関する要求を考慮し、設計している。（建設時 第2回 設工認にて認可済み）

また、重大事故等時における各機器の使用条件も設計基準事故時と有意な差はなく、重大事故等対処施設に対しても発電炉のような特別な要求はない。

3. 仕様表への管継手の記載方針について

(1) 再処理施設

再処理施設では、高放射能流体、高濃度硝酸を含む溶液等に対し、閉じ込めが要求される安全上重要な設備がある。このうち、特に放射性物質の保有量が大きく漏えい時の影響が大きな使用済燃料溶解槽、プルトニウム溶液蒸発缶、高放射性廃液蒸発缶、高放射性廃液貯槽を再処理第1種機器としており、これに附属する管を再処理第1種管とし、再処理第1種管の継手を仕様表に注記で記載する。（記載例を別

紙1に示す) また、既認可と同様に異材継手などJIS規格外の管継手は仕様表へ記載する。(記載例を別紙1に示す)

なお、それ以外の管継手については、J I S 規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、仕様表への記載を必要としないこととする。

(2) 廃棄物管理施設

廃棄物管理施設においては、溶接の機種区分に該当する設備がないことから、管継手については仕様表へ記載しないこととする。

(3) 加工施設

加工施設においては、再処理施設と同様に放射性物質の保有量の観点から加工第1種機器に属する加工第1種管の管継手を仕様表の注記へ記載する。また、それ以外の管継手については、J I S 規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、仕様表への記載を必要としないこととする。

4. 仕様表への管台の記載方針について

管継手の仕様を記載する管であつて、母管から分岐する主配管に接続するための管台については、仕様表に注記で記載する。(記載例を別紙1に示す)

以上

変更前									変更後									
名	称	設計条件			仕様			備考	名称	流体の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	配管番号		
		流体の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	備考										
○	○○ ~ ○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○ ¹⁾ ~ ○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○		
	○○ ~ ○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○ ~ ○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○		
設	○○	入口	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○		
		異材接合部			○○	○○	○○	○○					○○	異材接合部	○○	○○	○○	○○
		出口			○○	○○	○○	○○					○○	出口	○○	○○	○○	○○
備	○○	内管	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○		
		外管			○○	○○	○○	○○					外管	○○	○○	○○	○○	

1) JIS 規格等に適合した継手類を含む。